

令和元年度
山陰両県共同研究成果報告書

若者世代の定住に向けた 新たな視点

— 移住・定住から次世代環流に向けて —

令和元年度 山陰両県共同研究成果報告書

若者世代の定住に向けた新たな視点
— 移住・定住から次世代環流に向けて —

令和2年3月 島根県中山間地域研究センター

令和2年3月
島根県中山間地域研究センター

目次

第1章 共同研究の概要

1. 研究の目的	1
2. 研究のフレーム	1
3. 研究全体のフロー	2

第2章 長期的な人口動態と近年の転出入の特徴

1. 統計分析の概要	4
2. 島根県・鳥取県における総人口および若者世代の増減	5
3. 人口増減と景気との関連性	9
4. 近年の転出入の状況（島根県）	11
5. 小括	14

第3章 中山間地域に居住する若者世代の特徴

1. 若者世代（20～44歳）へのアンケート調査の概要	15
2. 移住時における若者世代の状況	20
3. 住み続けることへの若者世代の意識	27
4. Uターン者の子どもの頃、他出後の地域との関わり	33
5. Iターン者の子どもの頃の地域との関わり	37
6. 小括	43

第4章 高校生の地域やふるさとに対する意識

1. アンケート調査の概要	48
2. 調査結果～高校生の地域やふるさとに対する意識～	49
3. 小括	56

第5章 共同研究全体のまとめ

1. 若者世代の定住をめぐる状況の総合分析	57
2. 今後必要な視点	62

資料編

○平成市町村合併前・現市町村の人口動態（国勢調査）	68
○「若者世代が住み続けるためのアンケート調査」調査票	74

第1章 共同研究の概要

1. 研究の目的

全国の中山間地域では若者世代の定住が課題となっており、近年、市町村や各県で移住促進や定住に関連する様々な施策が展開されています。また、移住支援にあたっては個々の移住者に合わせたきめ細かな支援の必要性が認識されるようになっており、地域運営組織や自治会等の地域団体やNPO法人等の民間団体による移住支援の取組も各地でみられるようになってきています。

他方で今後は、Uターン・Iターンを含め、全ての若者世代が住み続けるために必要な条件を把握し、定住に向けた支援に取り組む視点が必要です。

また、山陰両県のみならず全国各地においても移住・定住施策は展開されており、現在のUターン・Iターンを中心としたアプローチだけでは、日本全体の限られた数の若者世代の取り合いになってしまふことが懸念されます。今後は若者世代が中山間地域へ入ってくる・戻ってくる流れを持続的・継続的なものにする必要があり、現在の子どもたちが中山間地域に入ってくる・戻ってくる流れ（次世代環流）が生じるように、長期的な視点で取組を進めていくことが必要ではないかと考えられます。

以上の視点に立ち、本研究では以下の項目について明らかにすることを目的に調査研究を実施しました。

- 長期的な若者世代の人口移動の特徴
- 若者世代が中山間地域に住むことを決めた理由
- 中山間地域に住み続けるために必要な条件
- Uターン・Iターン者の子どもの頃の背景
- 現在の高校生のふるさと意識

注：今回の調査研究では、Uターン・Iターン・継続居住者を以下の通り定義しました。

- Uターン・・・現在お住まいの町村が出身地で、転出後に戻ってきた
- Iターン・・・現在お住まいの町村が出身地でなく、何かをきっかけに転入
(結婚を機に配偶者の居住地や出身地に転入した者も含む)
- 継続居住・・・現在お住まいの町村に住み続けている(転出経験がない)

2. 研究のフレーム

本研究では、まず若者世代の人口移動の状況を長期的な視点で分析し、家族構成や年代ごとの転出入の特徴を把握した上で、移住・定住・次世代環流に係る項目について以下の調査を実施しました(表1-1)。

表1-1 調査項目と調査手法の整理

調査項目	調査手法
長期的な若者世代の人口移動の特徴 ・平成合併前の市町村ごとの特徴 ・景気や社会変動の影響 ・転出入の状況把握(家族構成・年代の特徴)	「データ分析」 国勢調査(1960～2015年) 島根県人口移動調査(2013～2018年)
若者世代が中山間地域に住むことを決めた理由 ・中山間地域に居住する若い世代の特徴 ・Uターン・Iターンの理由、継続居住の理由 ・行政の情報支援や制度の活用状況	「若者定住要因アンケート調査」 対象町村：奥出雲町・飯南町・吉賀町 海士町・知夫村 日南町・日野町・江府町 対象：20～44歳の方全員
中山間地域に住み続けるために必要な条件 ・現在の暮らしにおける満足度 ・今後の居住意向	
Uターン・Iターン者の子どもの頃の背景 ・子どもの頃の地域活動への参加経験 ・Uターン者の他出時の出身地との関わり方	
現在の高校生のふるさと意識 ・現役高校生の卒業後の進路 ・ふるさと教育や課題解決型学習の効果	「高校生アンケート調査」 対象：日野郡在住の高校1～3年生 島根県内の高校に通う高校3年生 (島根県の高校生を対象としたアンケート調査は、島根県・島根県教育委員会が実施したものを活用)

3. 研究全体のフロー

研究期間は令和元年4月～令和2年3月までの1年間です。

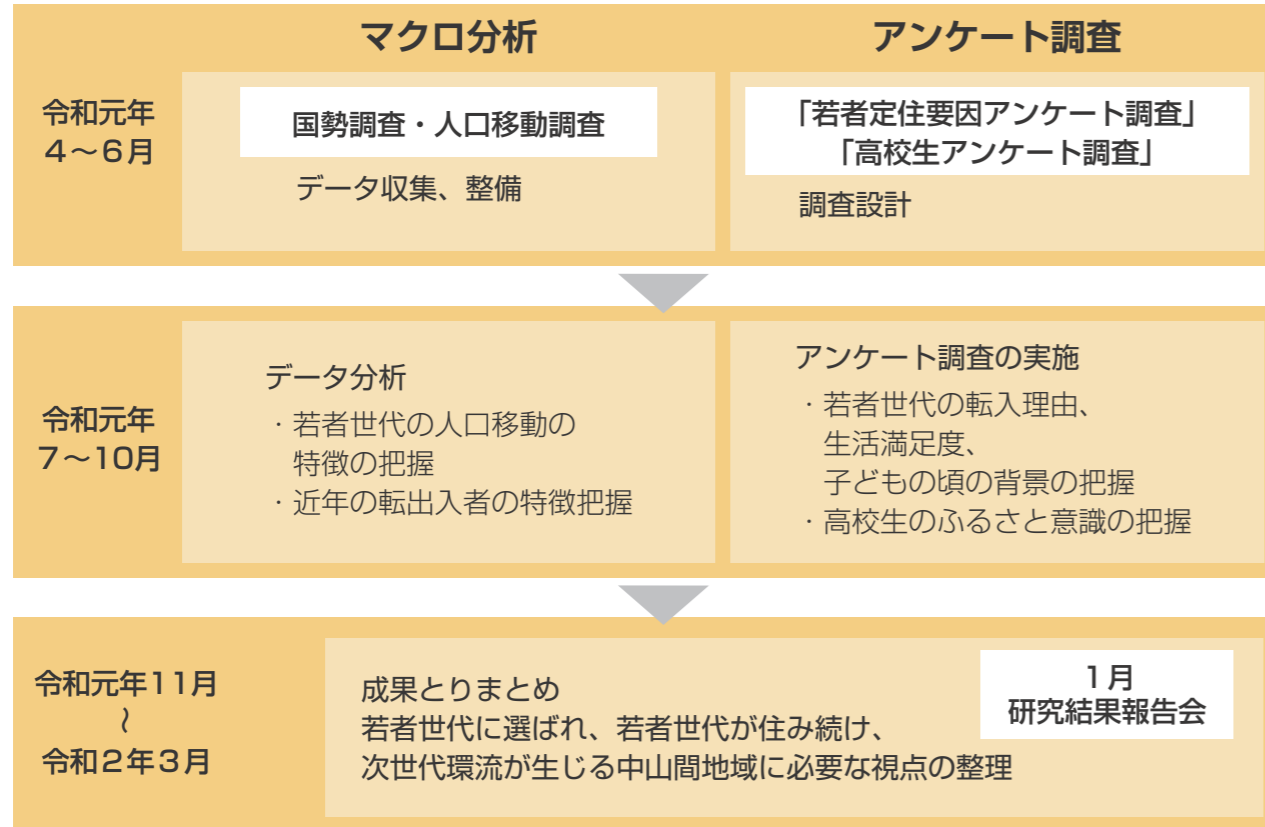
令和元年4～6月は、アンケート調査の設計、国勢調査・人口移動調査のデータ収集・整備を実施しました。7～10月は、長期間(1960～2015年)での若者世代の人口移動の特徴を分析するとともに、人口移動調査をもとに近年(2013～2018年)の転出入者の特徴を分析しました。

また、奥出雲町・飯南町・吉賀町・海士町・知夫村・日南町・日野町・江府町に住民票をおく、20～44歳の方全員に「若者定住要因アンケート調査」を実施し、転入理由や現在の暮らしに対する満足度、子どもの頃の背景を把握しました。

さらに現役高校生のふるさと意識を把握するために、日野郡に居住する高校1～3年生を対象に「高校生アンケート調査」を実施しました。なお、島根県の高校生を対象としたアンケート調査は、平成31年2月に島根県・島根県教育委員会で実施した「卒業を迎える皆さんへのアンケート」のデータを活用しています。

令和元年11月～令和2年3月は以上の調査結果から、若者世代に選ばれ、若者世代が住み続け、次世代環流が生じる中山間地域に必要な視点を整理しました。令和2年1月には島根県・鳥取県の自治体や移住・定住に取り組む地域住民組織、NPO 法人を対象に、研究結果報告会を実施しました。

図1-1 研究全体のフロー図



第2章 長期的な人口動態と近年の転出入の特徴

1. 統計分析の概要

中山間地域をはじめとして、国内全体で人口減少・高齢化が進行しています。その一方で、近年は都市部から地方への人の流れが注目され、「田園回帰」と呼ばれるようになってきました。他方、若者の人口動態は景気にも大きく左右されるといわれており、今後の若者定住対策を進める上でも、長期的な視点から、そのトレンドを分析し、特に近年の若者の人口動態の特徴を明らかにしておく必要があります。

そこで本章では、国勢調査を用いて、島根県・鳥取県について長期的な人口動態を年代ごとに平成合併前の市町村単位で把握するとともに、景気との関連性と近年の特徴を確認しました。また、島根県については、島根県人口移動調査を用いて近年の他都道府県への転出入状況についても分析を行いました。

(1) 分析方法

1) 使用データ

国勢調査年齢別人口（旧市町村単位）、労働力調査、職業安定業務統計、島根県人口移動調査

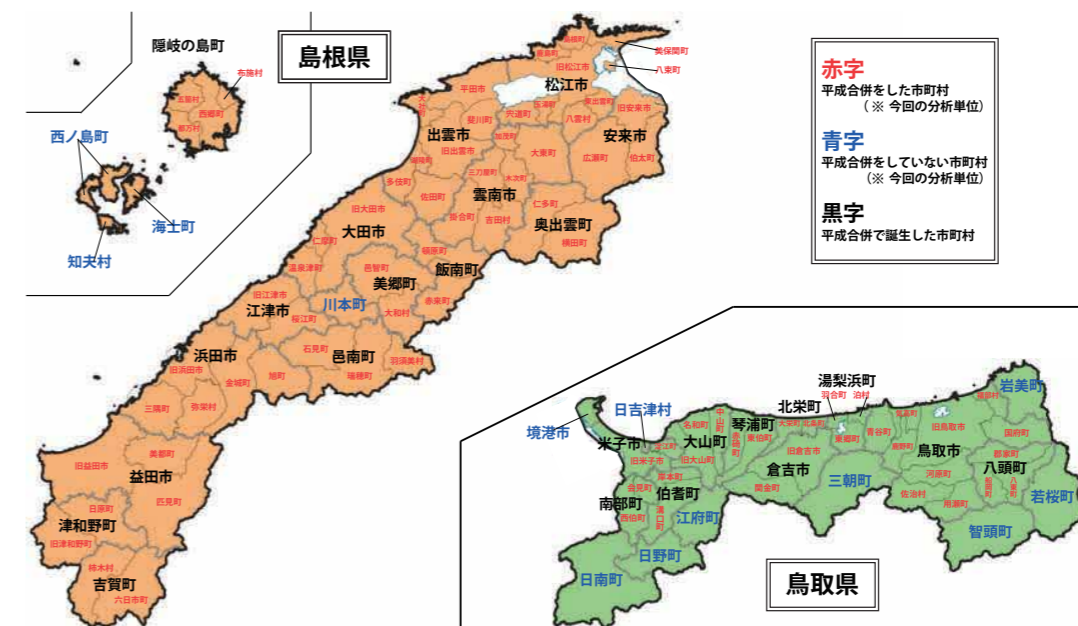
2) 分析項目

①総人口増減率

5年間の総人口増減率（例：1960～70年総人口増減率＝1970年総人口÷1960年総人口）

②各年代コーホート（cht）変化率：基準年5年前の各年代人口と基準年+5歳人口の人口増減（例：2015年20歳代cht変化率＝2015年25～34歳人口／2010年20～29歳人口）

図2-1 島根県・鳥取県の分析単位（平成合併前市町村）



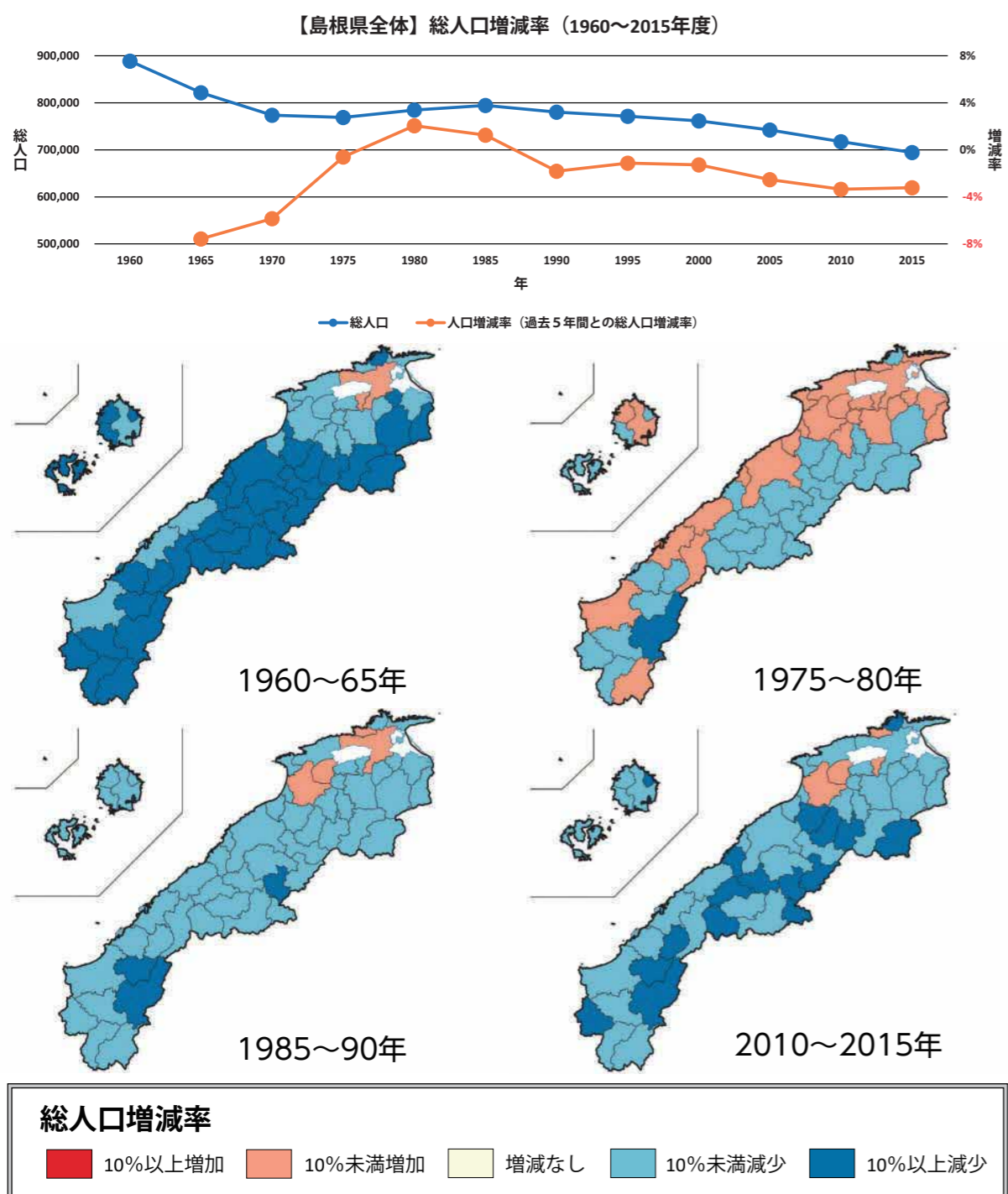
2. 島根県・鳥取県における総人口および若者世代の増減

(1) 島根県の総人口増減

島根県全体の人口は、1960年からの10年で急激に減少しました。その後、横ばいで推移するものの、1985年以降は減少傾向が進行しています。

平成合併前の市町村単位で見た場合、2010～15年では、県東部の旧出雲市、斐川町では10%未満増加しているものの、全体的に減少傾向にあります。県西部、隠岐などの中山間地域をはじめとして、減少率が10%を超えています。

図 2-2 島根県の総人口増減変化率（国勢調査）

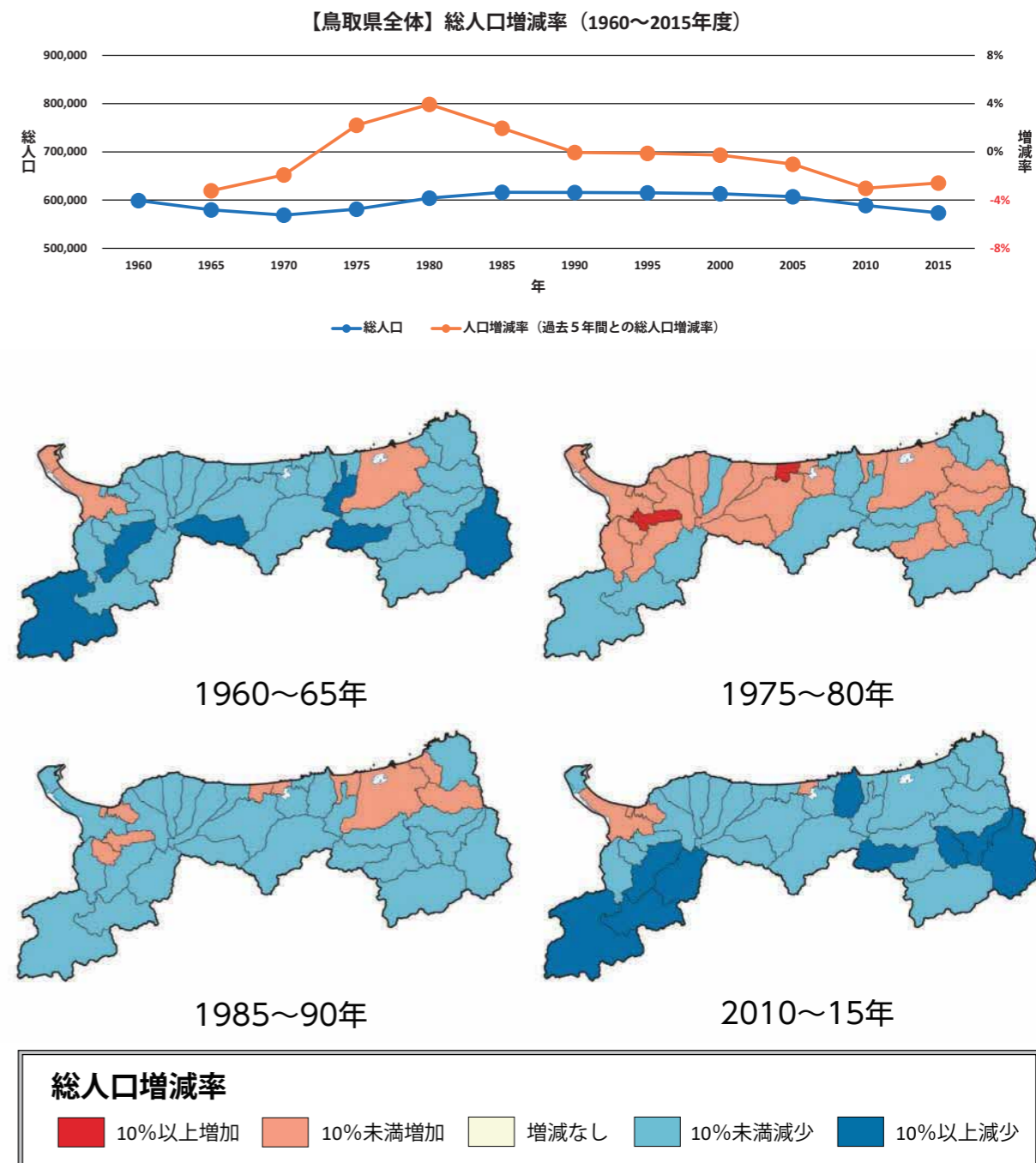


(2) 鳥取県の総人口増減

鳥取県全体の人口は、1980年に60万人を超え、1985年をピークにそれ以降減少しています。

平成合併前の市町村単位で見た場合、県庁所在地の鳥取市では、1960～1990年までは人口増加傾向がありました。近年(2010～15年)増加傾向がみられるのは羽合町や米子市周辺であり、その他では減少に転じています。特に県南部の中国山地沿いの市町村では人口減少が顕著です。

図 2-3 鳥取県の総人口増減変化率（国勢調査）

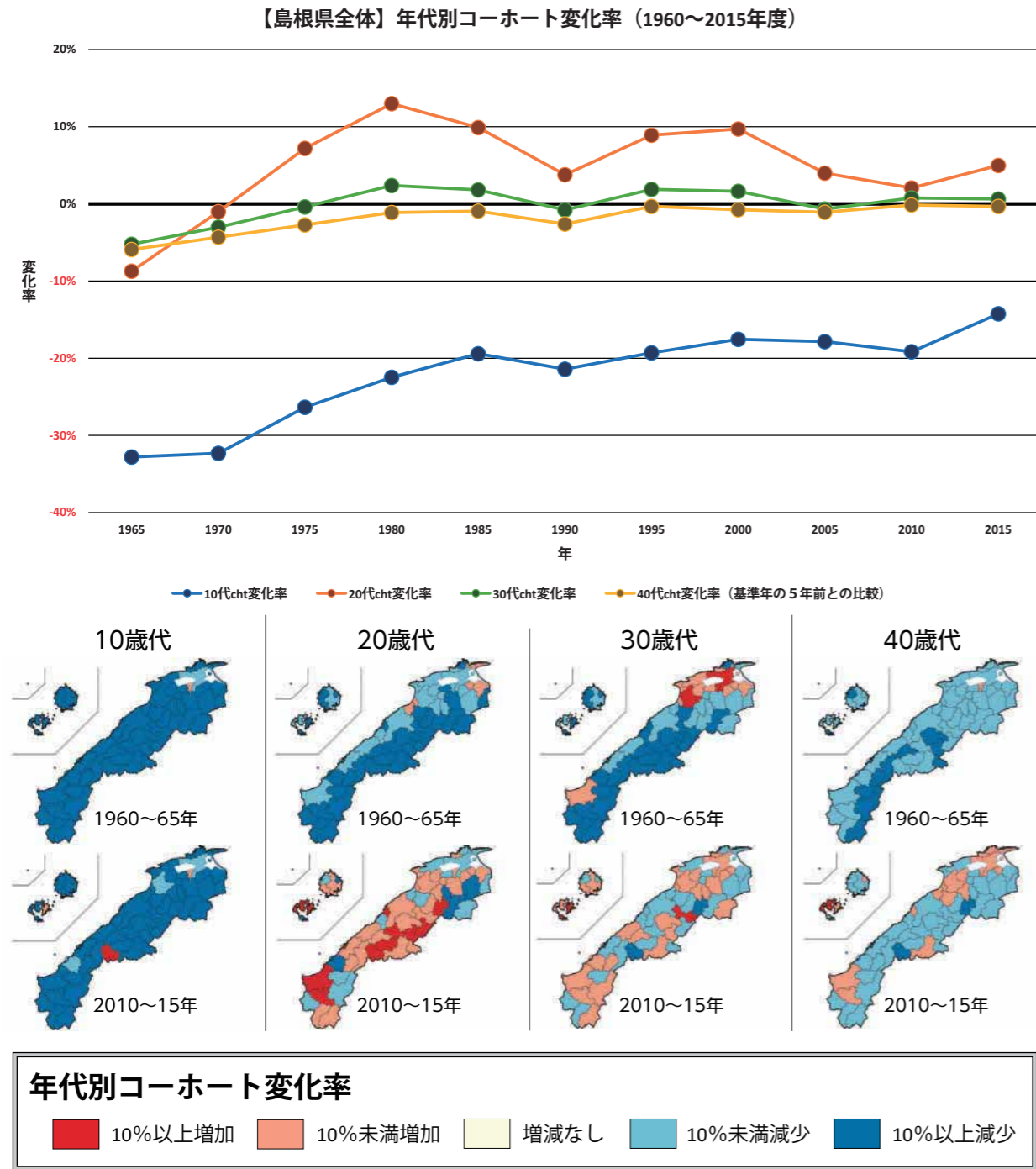


(3) 島根県の若者世代コーホート人口の増減

島根県全体での年代別コーホート変化率は、1965～70年では全ての年代で減少していますが、1970年以降では20歳代をはじめ、30歳代においても変化率が0%を上回る年がみられます。

進学や就職で県外に転出する10歳代に対して、20歳代は増加しており、大学卒業後の就職でUターンをしているケースや、Iターン移住によって島根県に転入していると推察されます。また、1980年以降では、30歳代、40歳代の変化率も改善しており、市町村での分布は中山間地域をはじめとした県西部や隠岐においても増加している市町村がみられます。

図2-4 島根県の若者世代コーホート変化率（国勢調査）

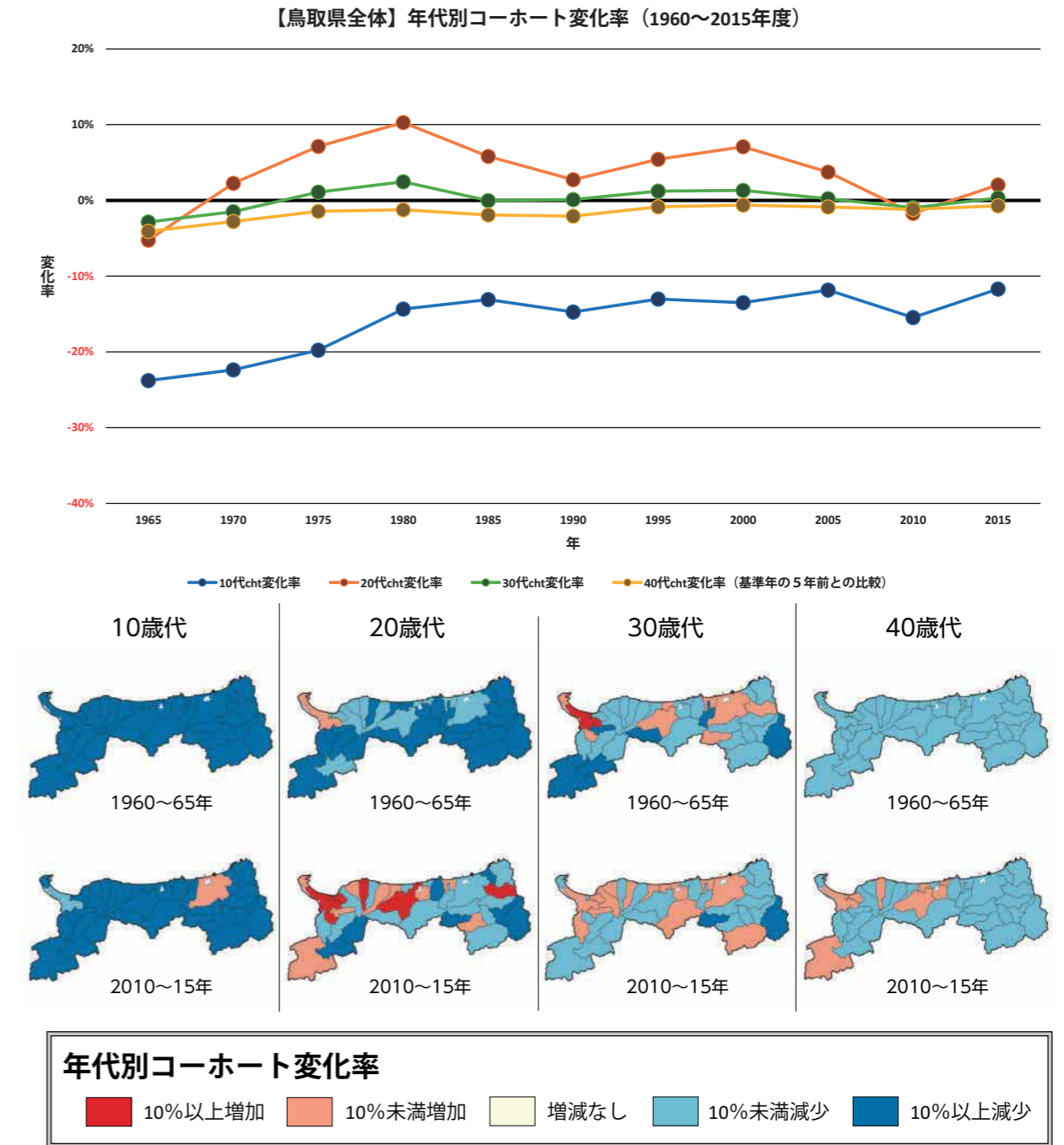


(4) 鳥取県の若者世代コーホート人口の増減

鳥取県の年代別コーホート変化率をみると、1960～75年では各年代とも減少しているものの、1970年からの10年間では増加がみられます。

どの地域においても、10歳代では高校卒業後の大学進学や就職等によって減少がみられますが、20歳代ではその後のUターン就職等によって人口が戻ってきているものと推察できます。近年（2010～15年）の傾向として、30歳代、40歳代では鳥取、米子市周辺部以外の市町村でも人口の増加がみられます。

図2-5 鳥取県の若者世代コーホート変化率（国勢調査）



3. 人口増減と景気との関連性

(1) 島根県・鳥取県の人口増減と景気との関連性

総人口増減率および年代別コーホート変化率と全国の完全失業率、有効求人倍率を比較しました。各年代変化率で10歳代が低くなっているのは進学や就職によって県外へ転出する機会が多いことが影響していると考えられ、また20歳代では大学卒業後の地元就職等でのU・Iターンでの転入が反映されているものと考えられます。

図 2-6 島根県の人口増減と景気との関連性 (国勢調査・労働力調査・職業安定業務統計)

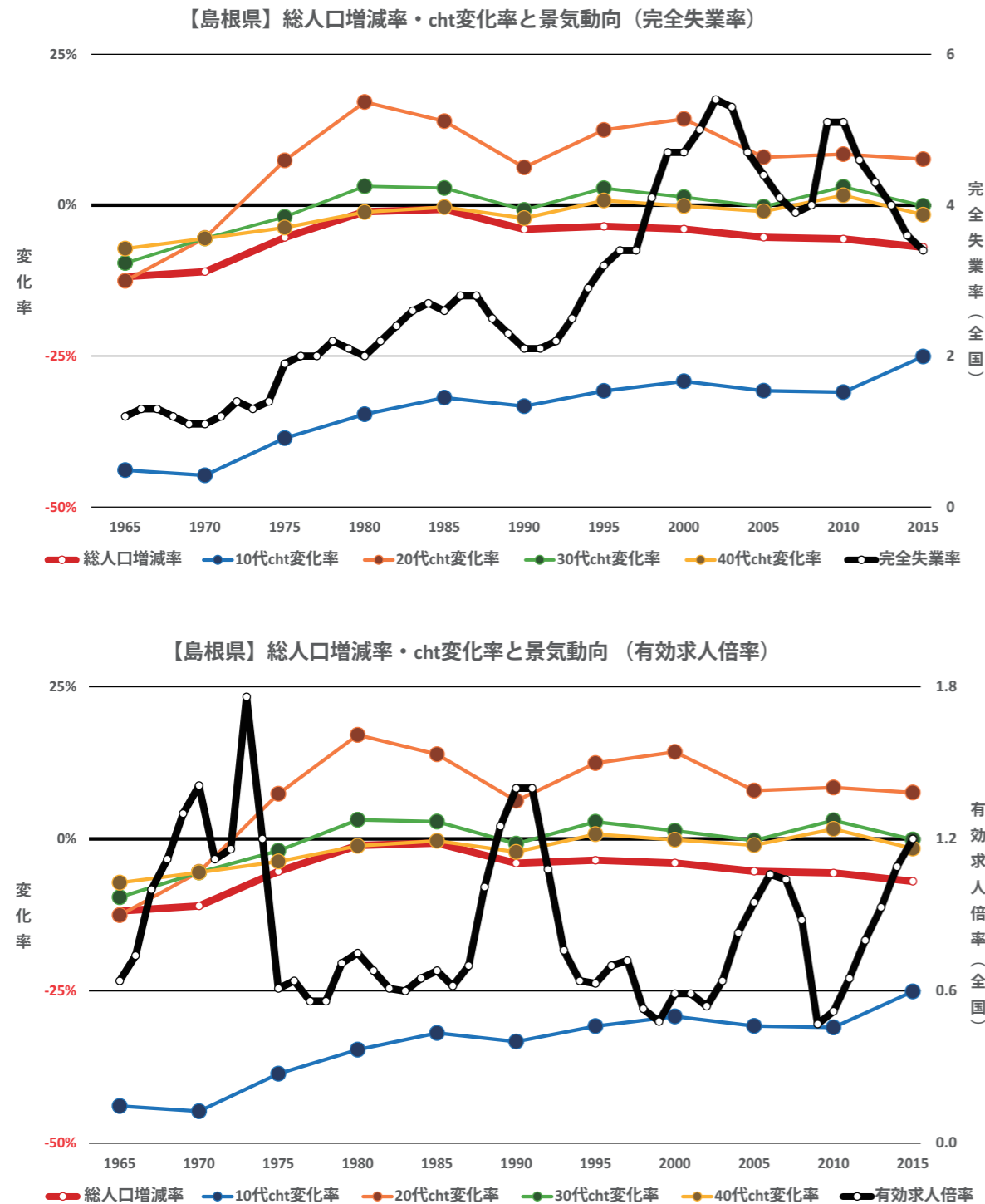
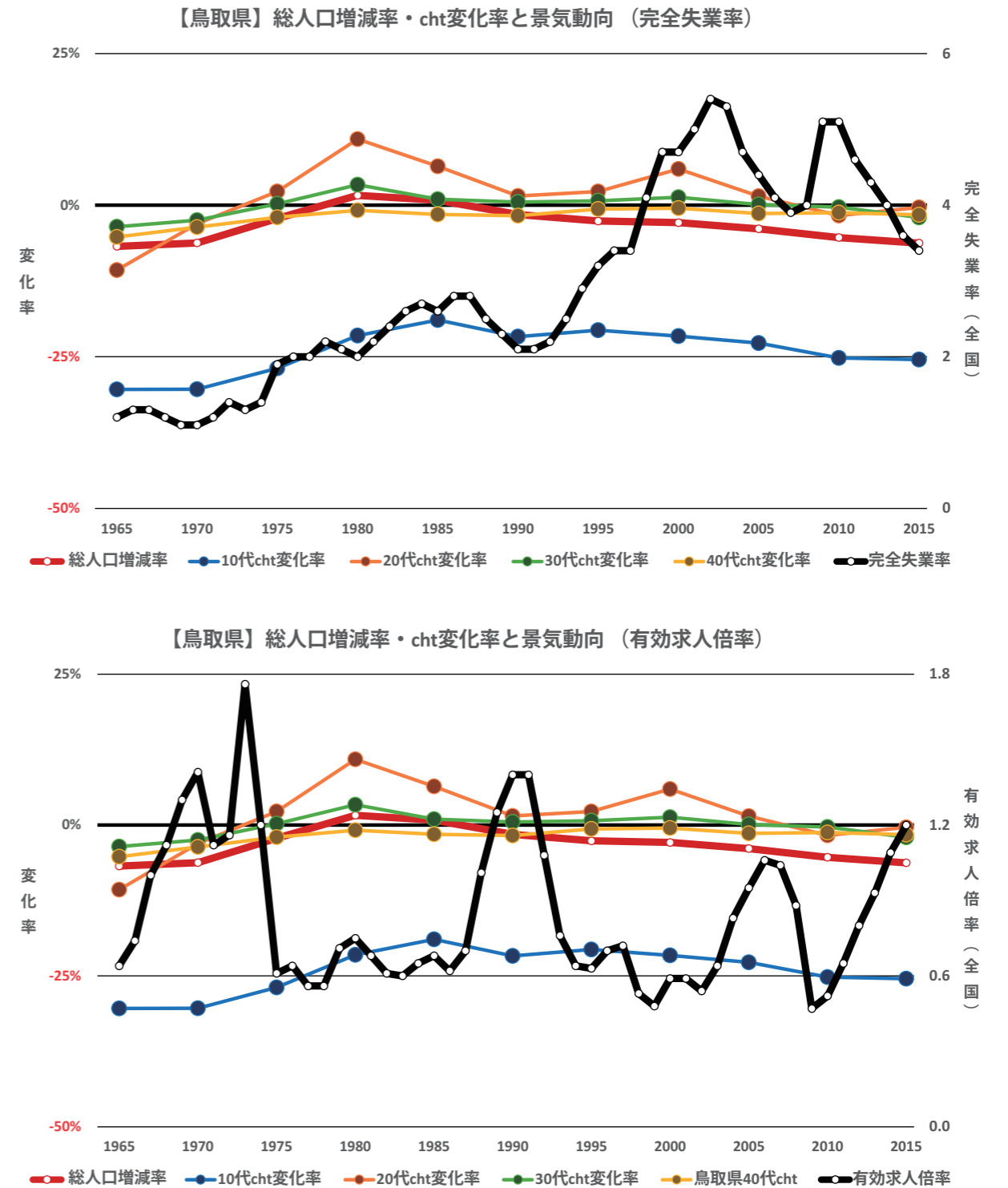


図 2-7 鳥取県の人口増減と景気との関連性 (国勢調査・労働力調査・職業安定業務統計)



人口増減と景気との連動性をみると、完全失業率が上昇および有効求人倍率が下降するタイミングで各年代の変化率が上昇しています。ここからは、好景気時には県外への転出、不景気時には県内へ転入していることが考えられます。しかし、2010年以降このような景気との連動が弱くなっており、20歳代では一定数の転入が継続していることが確認できます。

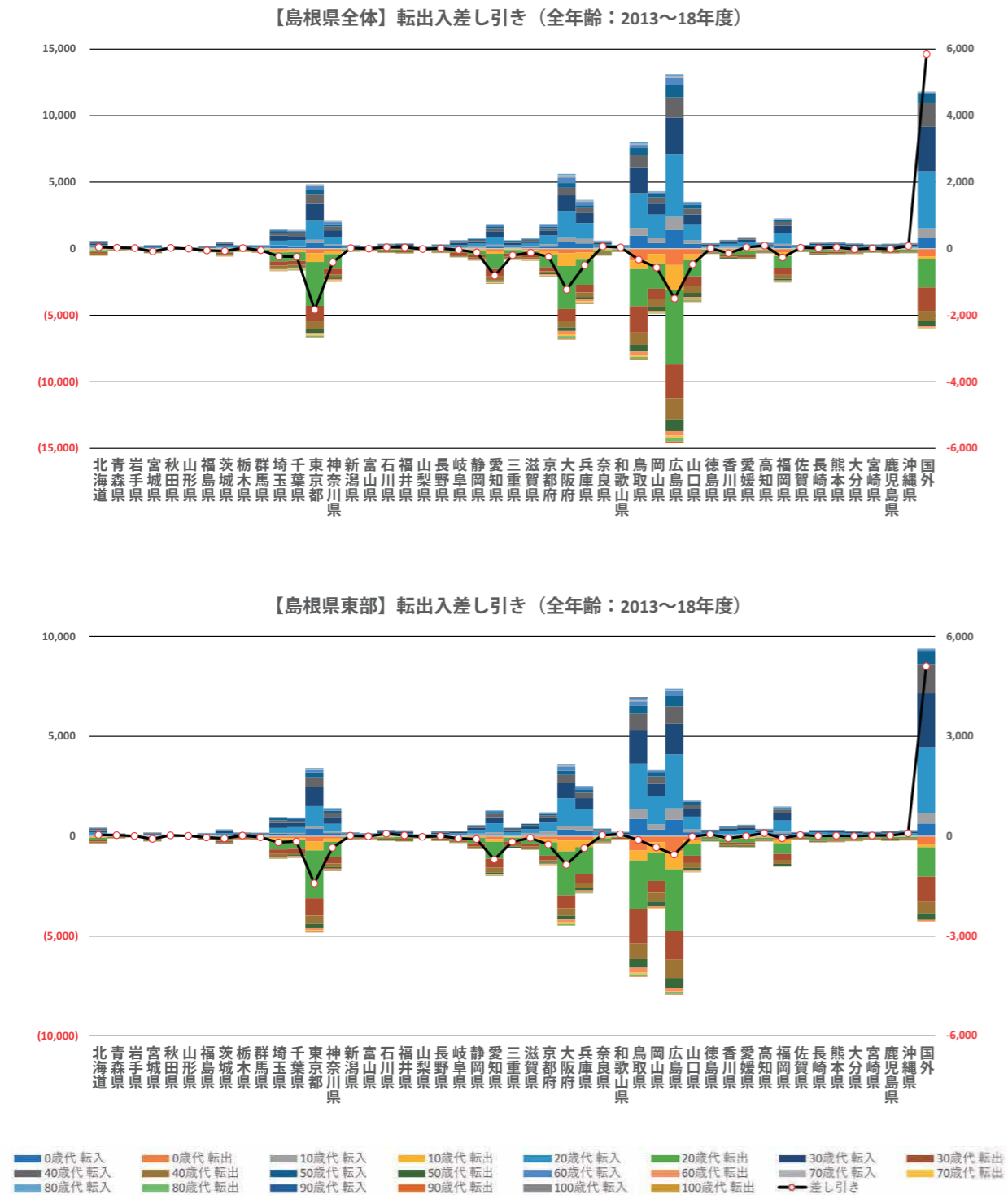
4. 近年の転出入の状況（島根県）

(1) 島根県の転出入状況（全体）

島根県人口移動調査を用いて、2013～18年度の6カ年の島根県からの転出および転入の状況を年代別で都道府県ごとに分析しました。

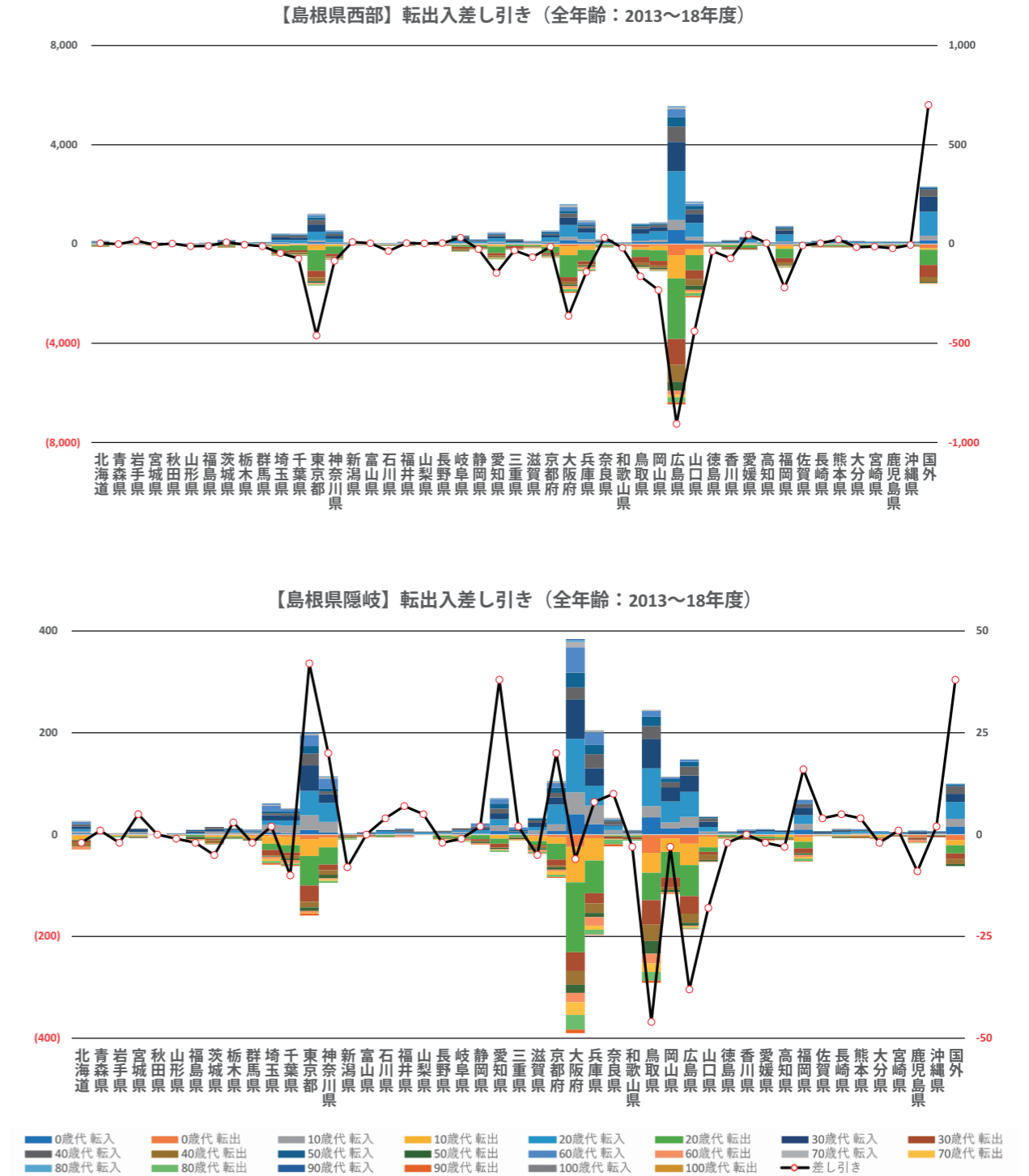
島根県全体では、広島県、鳥取県、大阪府の順に転出入が多く、差し引きでは、東京都、広島県、大阪府の順にマイナスとなっています。

図 2-8 島根県の転出入状況：全年齢（島根県人口移動調査）



島根県内の圏域別では、東部は広島県、鳥取県、東京都の順に転出入が多く、差し引きでは、東京都、大阪府、愛知県、順にマイナスとなっています。西部は広島県、山口県、大阪府の順に転出入が多く、差し引きでは、広島県、山口県、東京都の順にマイナスとなっています。隠岐では傾向が異なり、大阪府、鳥取県、兵庫県の順に転出入が多く、差し引きでは、鳥取県、広島県、山口県ではマイナスですが、東京都、愛知県、神奈川県、京都府ではプラスとなっており、都市部を抱える都府県からの人口が増加しています。

図 2-9 島根県の転出入状況：全年齢（島根県人口移動調査）

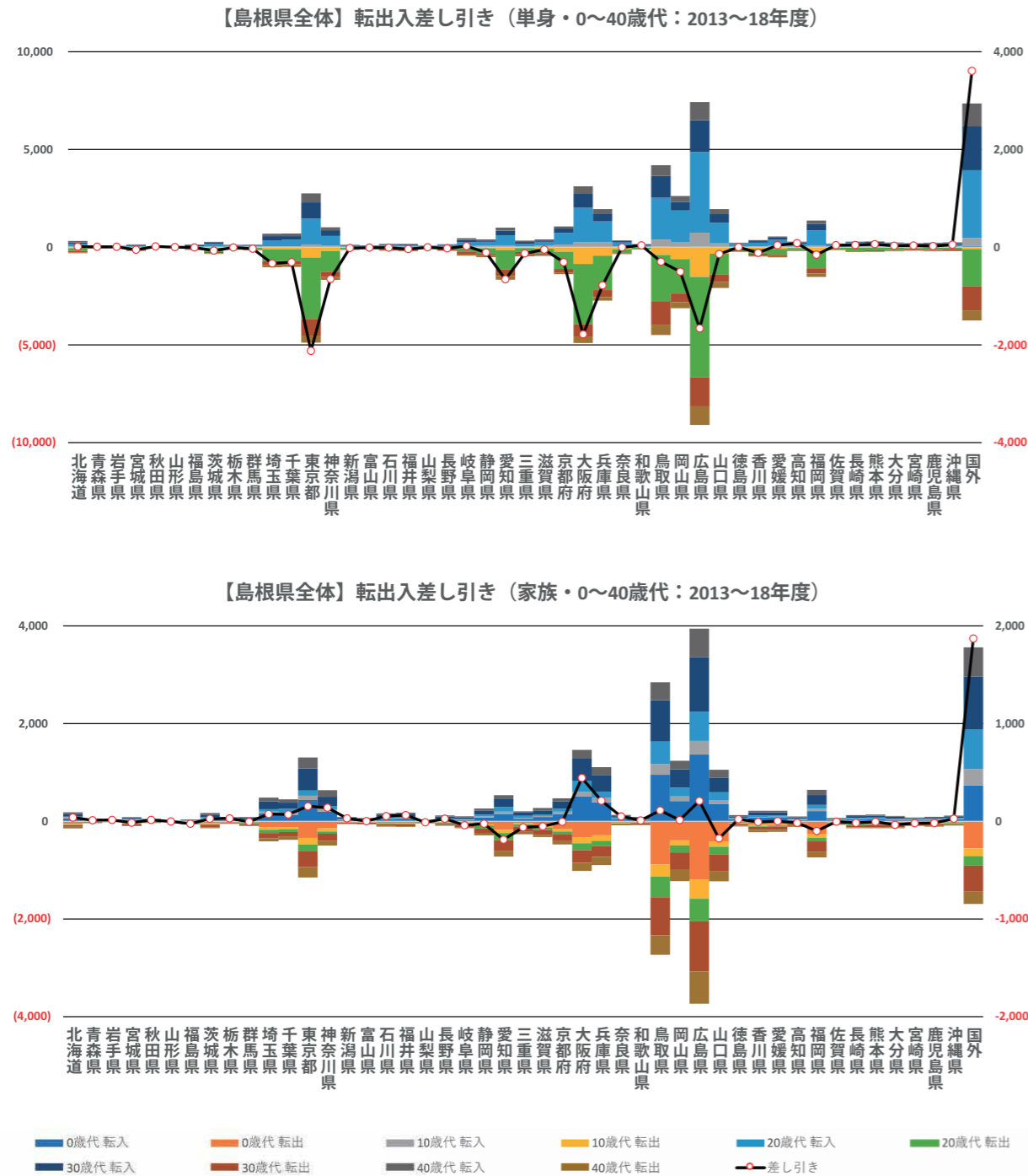


(2) 島根県の転出入状況（若者世代：10～40歳代）

若者世代（10～40歳代）について、島根県全体の2013～18年度の転出入の状況を、単身と家族に分けて10歳階級ごとに分析をしたところ、単身者では10～20歳代は進学や就職等で県外に転出していると考えられ、東京都、大阪府、広島県をはじめとした都府県に転出していることを確認することができます。

他方、家族では、大阪府、兵庫県、広島県をはじめとして差し引き人口が増加していることを確認することができます。若者世代（10～40歳）では、単身者として島根県から転出する方が多いものの、県外で結婚などにより家族を伴って島根県に転入している方も多いと考えられます。

図 2-10 島根県の転出入状況：家族・単身 0～40歳代（島根県人口移動調査）



5. 小括

統計分析では、島根県・鳥取県の平成合併前の市町村単位の総人口は、県庁所在地など一部の市町村を除いて減少していることがわかりました。しかし、年代ごとに分析することによって、中山間地域をはじめとした地方部においても若者世代の増加を確認することができました。

両県の特徴として、10歳代は進学、就職を機に県外に転出するものの、20歳代はU・Iターン等で県内に転入している状況が増加しているものと考えられます。かつては、景気に連動するかたちで好景気時は県外、不景気時は県内へ人の流れがあったものが、近年では景気に左右されることが少なくなるとともに、若者世代を中心とした地方移住が増加していることがわかりました。

また、島根県人口移動調査からは、県内県域ごとに関係する都道府県の違いが見られました。東部では広島県、鳥取県、山口県、西部では、広島県、山口県、大阪府、隠岐では大阪府、鳥取県、兵庫県への転出がみられました。隠岐では他の圏域と異なり、東京都、愛知県、神奈川県、京都府などで転入が転出を上回っています。そして、全体的な傾向として、一時的に単身で県外に転出する方が多いものの、結婚等によって家族を伴うかたちで島根県に転入している方も多い傾向がみえてきました。

第3章

中山間地域に居住する若者世代の特徴

1. 若者世代（20～44歳）へのアンケート調査の概要

(1) 調査手法・回答状況

1) 調査の目的

若者世代に選ばれる地域の条件（移住に際し重視する条件、今後も暮らし続けるための条件）を明らかにするために、島根県、鳥取県の中山間地域に居住する20～44歳の方を対象に、今後の居住意向、居住地を決めた理由、現在の生活満足度、移住の際に活用した情報・支援制度、幼少期からの地域との関わりについてアンケート調査を行いました。

なお、分析にあたっては、Uターン者、Iターン者、継続居住者によって傾向が異なると考え、それぞれの状況がわかる形で実施しました。

2) 調査手法

① 調査対象

ア) 調査対象地

島根県：仁多郡奥出雲町、飯石郡飯南町、鹿足郡吉賀町、隠岐郡海士町、隠岐郡知夫村
鳥取県：日野郡日南町、日野郡日野町、日野郡江府町 計8町村

イ) 調査対象者

住民基本台帳に登録されている20～44歳の方 全員

② 調査方法

アンケート調査票を郵送し、返送もしくは電子フォームに入力し回答

回答期間：2019年8～10月

3) 回答状況

調査対象全体における回答率は35.9%でした。最も回答率が高かったのは知夫村(42.1%)で、次いで海士町(38.9%)と隠岐圏域で高く、日野町(32.3%)や日南町(33.4%)など鳥取県日野郡でやや低い傾向にありました。

表3-1 各自治体における回答状況

自治体名	回答数	配布数 (宛名不明分除く)	回答率
奥出雲町	811	2,370	34.2%
飯南町	323	866	37.3%
吉賀町	435	1,152	37.8%
海士町	181	465	38.9%
知夫村	61	145	42.1%
日南町	242	725	33.4%
日野町	164	508	32.3%
江府町	186	520	35.8%
無回答	18	-	-
計	2,421	6,751	35.9%

(2) 回答者の属性

1) 回答者の性別・年齢・職業

回答者の性別は女性が1,243人(51.3%)と男性(1,148人、47.4%)よりやや多く、年齢は40～45歳の方が673人(27.8%)と最も多く、次いで35～39歳545人(22.5%)、30～34歳454人(18.8%)、25～29歳364人(15.0%)、20～24歳271人(11.2%)の順となっています(表3-2)。

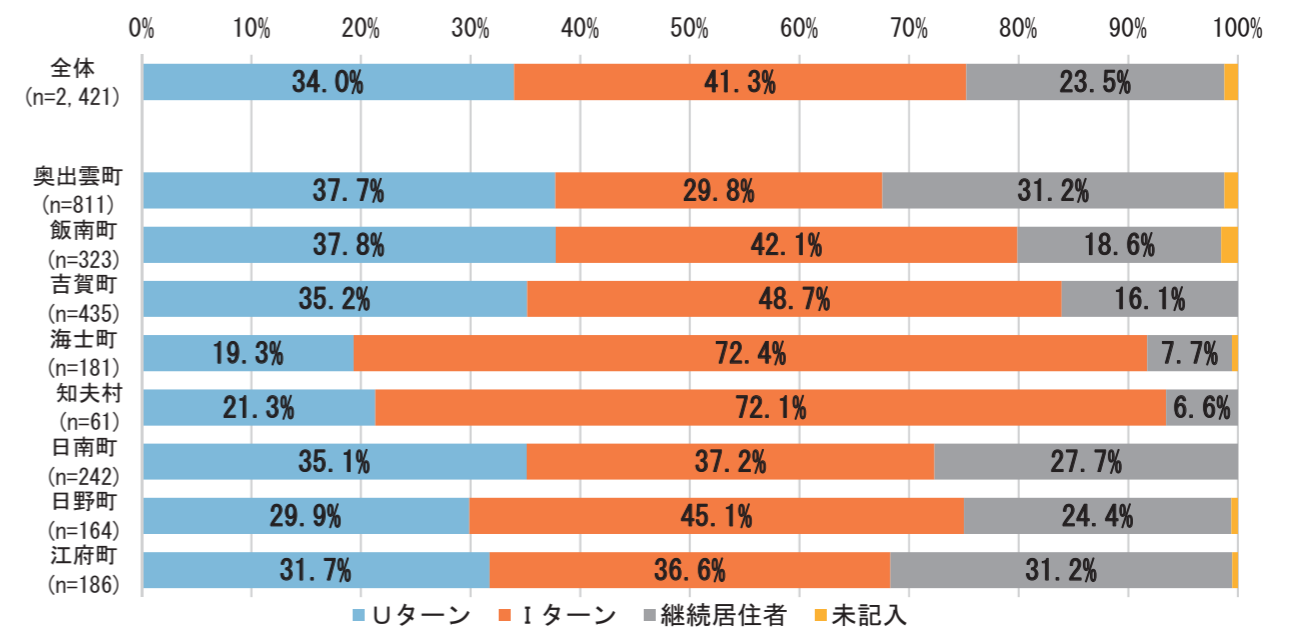
回答者がお住まいになっている自治体は、奥出雲町が811人(33.5%)と最も多く、次いで吉賀町435人(18.0%)でした。一方、最も少なかったのは知夫村61人(2.5%)でした。

回答者の転居状況は、Iターン者が999人(41.2%)と最も多く、次いでUターン者822人(34.0%)、継続居住者570人(23.5%)の順となっています。自治体別に見ると海士町や知夫村ではIターン者が70%以上となっています(図3-1)。

表3-2 回答者の属性

属性	回答者数(割合)		
性別	男性：1,148人(47.4%)	女性：1,243人(51.3%)	その他：2人(0.1%)
年齢	20～24歳：271人(11.2%)	25～29歳：364人(15.0%)	30～34歳：454人(18.8%)
	35～39歳：545人(22.5%)	40～45歳：673人(27.8%)	
お住まいの町村	奥出雲町：811人(33.5%)	飯南町：323人(13.3%)	吉賀町：435人(18.0%)
	海士町：181人(7.5%)	知夫村：61人(2.5%)	
	日南町：242人(10.0%)	日野町：164人(6.8%)	江府町：186人(7.7%)
転居状況	Uターン者：822人(34.0%)	Iターン者：999人(41.2%)	継続居住者：570人(23.5%)
	現在お住まいの町村が出身地で、転出後に戻ってきた		
	現在お住まいの町村が出身地でなく、何かをきっかけに転入		
	継続居住者：570人(23.5%) 現在お住まいの町村に住み続けている(転出経験がない)		

図3-1 自治体別の回答者転居状況

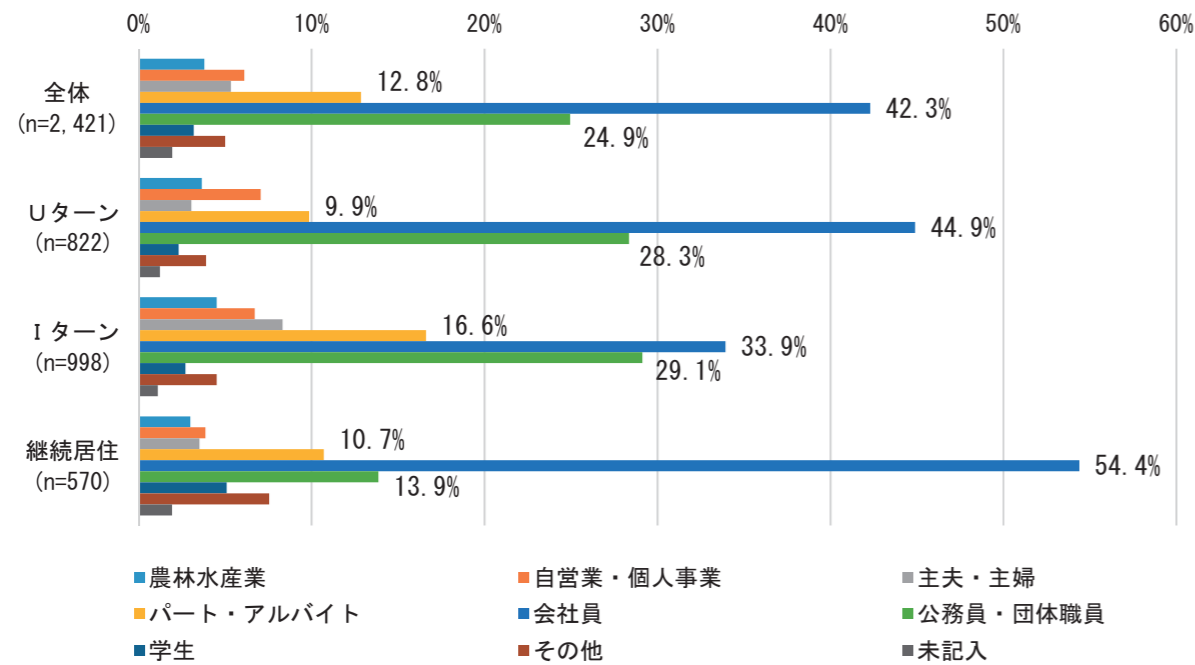


回答者の職業は、会社員 1,024 人 (42.3%)、公務員・団体職員 604 人 (24.9%)、パート・アルバイト 311 人 (12.8%) の順に多くなっています。転居状況別にみると、継続居住者では会社員が 54.4% と半数以上となっており、公務員・団体職員が 13.9% と少なくなっています。Uターン者に比べ I ターン者では、会社員の割合が 33.9% (Uターン者 44.9%) と低く、パート・アルバイトが 16.6% (Uターン者 9.9%) と高くなっています (図 3-2)。

2) 家族、家業の状況

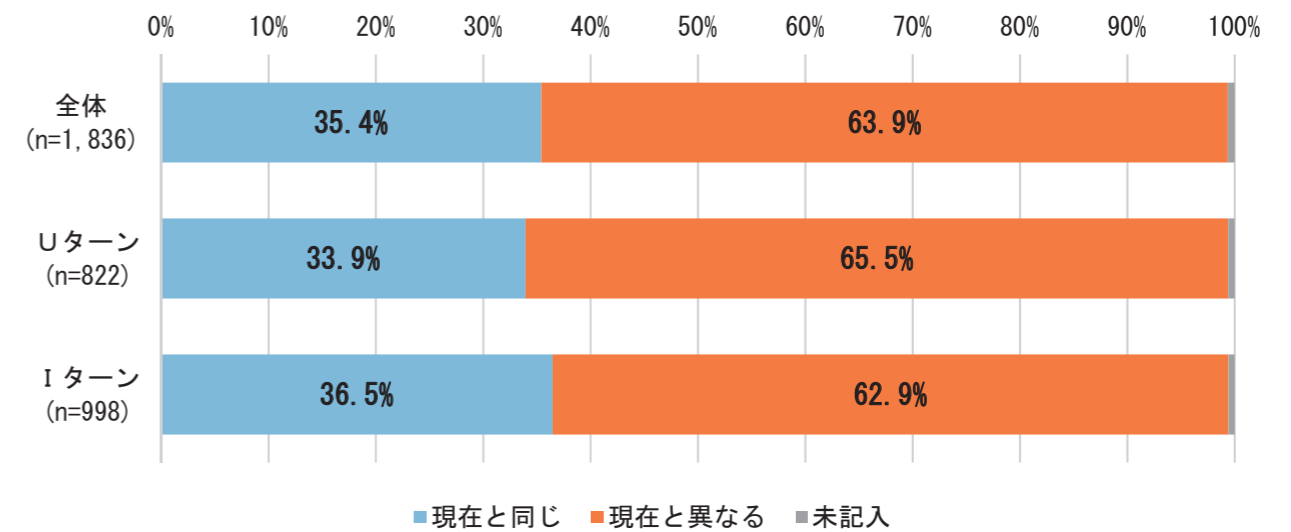
移住後間もない方など、移住時と現在の家族構成が同じ方は 650 人 (35.4%) でした。一方、移住後、結婚や出産などにより家族構成が変わった方は 1,174 人 (63.9%) と多く、Uターン者と I ターン者による違いは大きくありませんでした (図 3-4)。

図 3-2 回答者の職業 (複数回答)



回答者のうち、長男・長女が占める割合は 65.2% となっています。そのうち一人っ子は 117 人 (4.8%) でした (図 3-3)。転居状況別にみると、I ターン者で長女の割合が 41.4% と多くなっています。

図 3-4 移住時と現在の家族構成の変化



移住時と現在の家族構成を詳細に見ると、移住時の家族構成は 1 人暮らしだった方が最も多く 717 人 (38.7%)、配偶者とともに移住された方は 615 人 (33.2%) となっています。転居状況別にみると、Uターン者では親と同居されていた方が 344 人 (41.8%) と最も多く、I ターン者は配偶者が 429 人 (42.9%) と最も多くなっています。また、全体では 500 人 (27.0%) の方が子どもを連れて移住されています (図 3-5)。

一方、現在の家族構成は半数程度の方が配偶者や子ども、親と同居しており、1 人暮らしの方は 337 人 (13.9%) と少なくなっています。

図 3-3 回答者のきょうだい属性 (回答者自身)

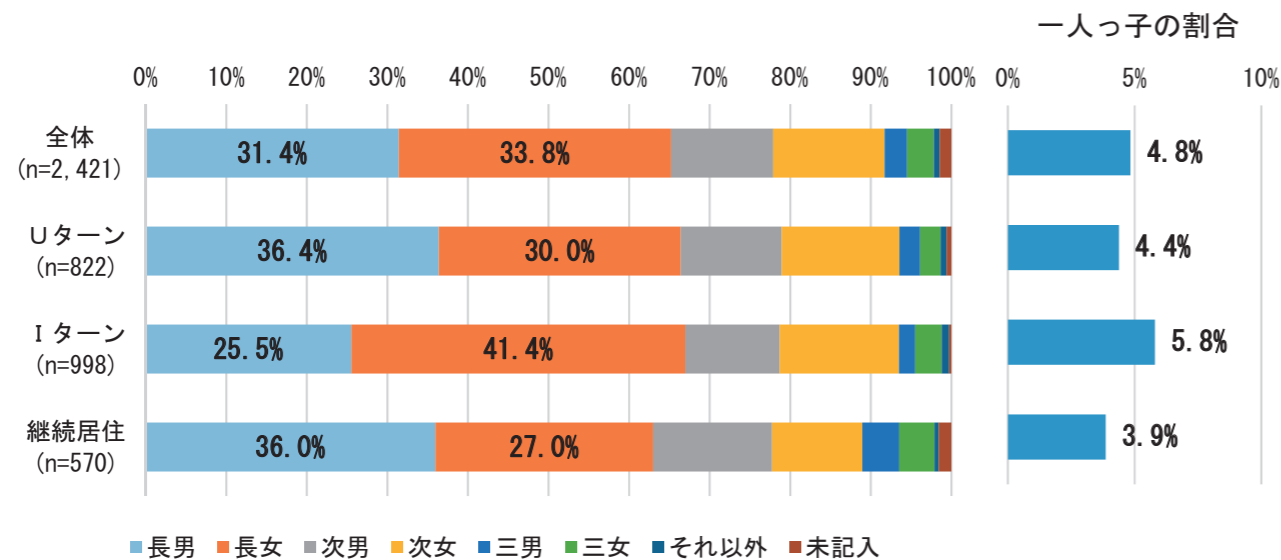
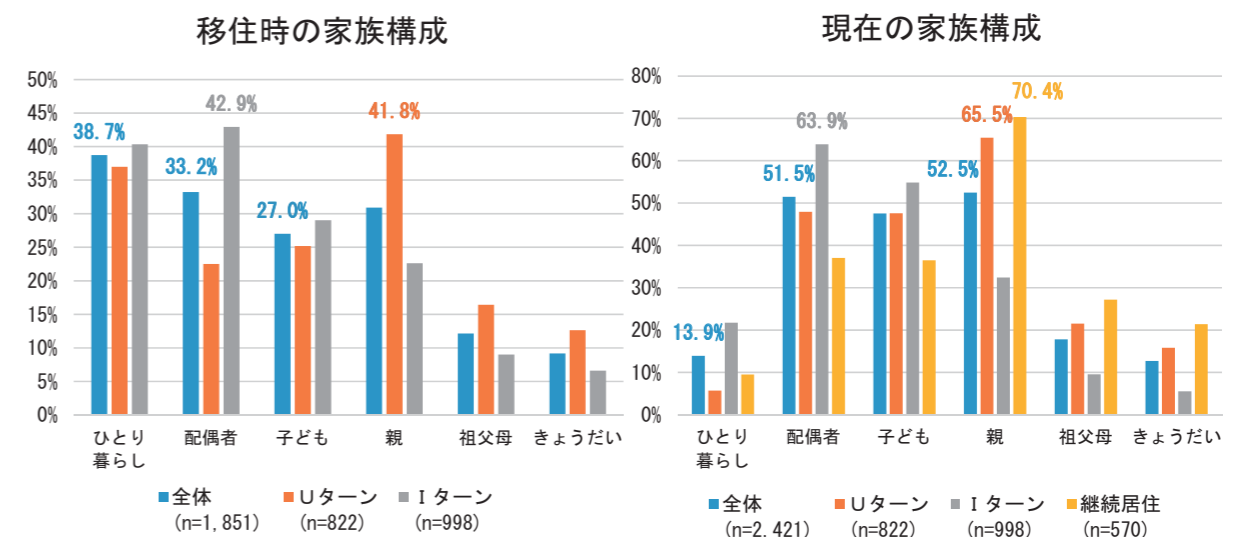
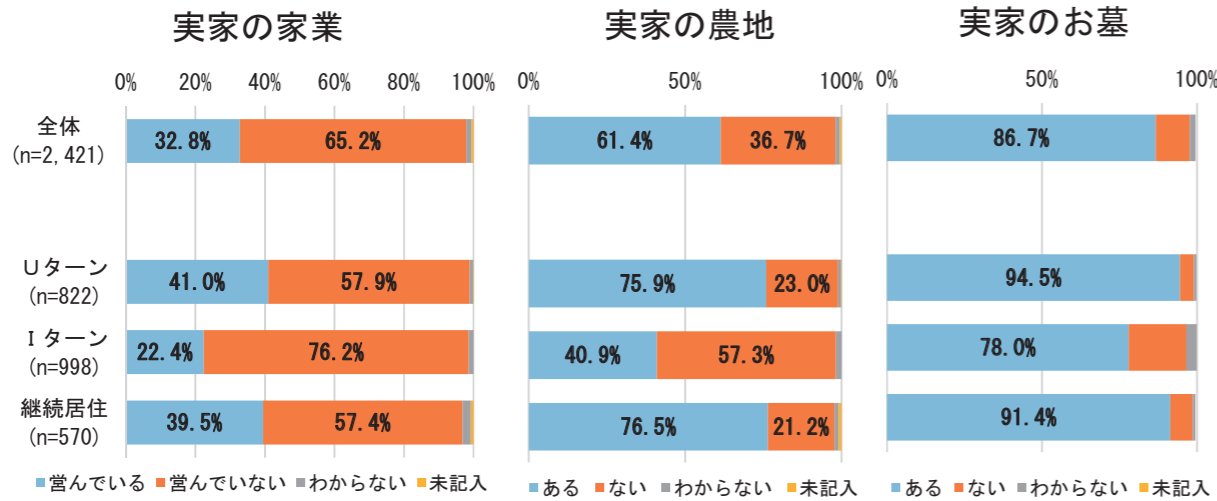


図 3-5 移住時および現在の家族構成



回答者のうち、実家が家業を営んでいる方は793人(32.8%)、農地がある方は1,486人(61.4%)、お墓がある方は2,098人(86.7%)でした。いずれも1ターン者で低く、Uターン者と継続居住者は同程度という傾向にありました(図3-6)。

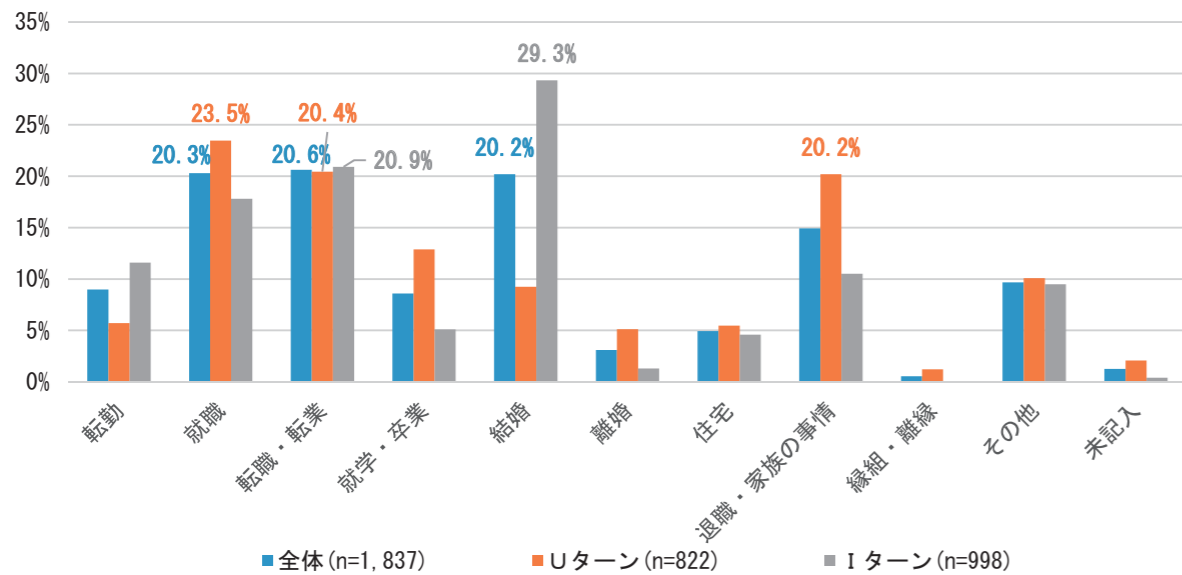
図3-6 実家の家業、農地、お墓の有無



3) 転入理由

現在居住している自治体への転入理由は、転職・転業(20.6%)、就職(20.3%)、結婚(20.2%)の順に多くなっています。Uターン者は就職が23.5%と最も多く、次いで転職・転業(20.4%)となっており、退職・家族の事情が20.2%と多くなっています。一方、1ターン者は結婚が29.3%と最も多く、結婚を機に配偶者の居住地や出身地に転入したと推察されます(図3-7)。

図3-7 転入理由(複数回答)



2. 移住時における若者世代の状況

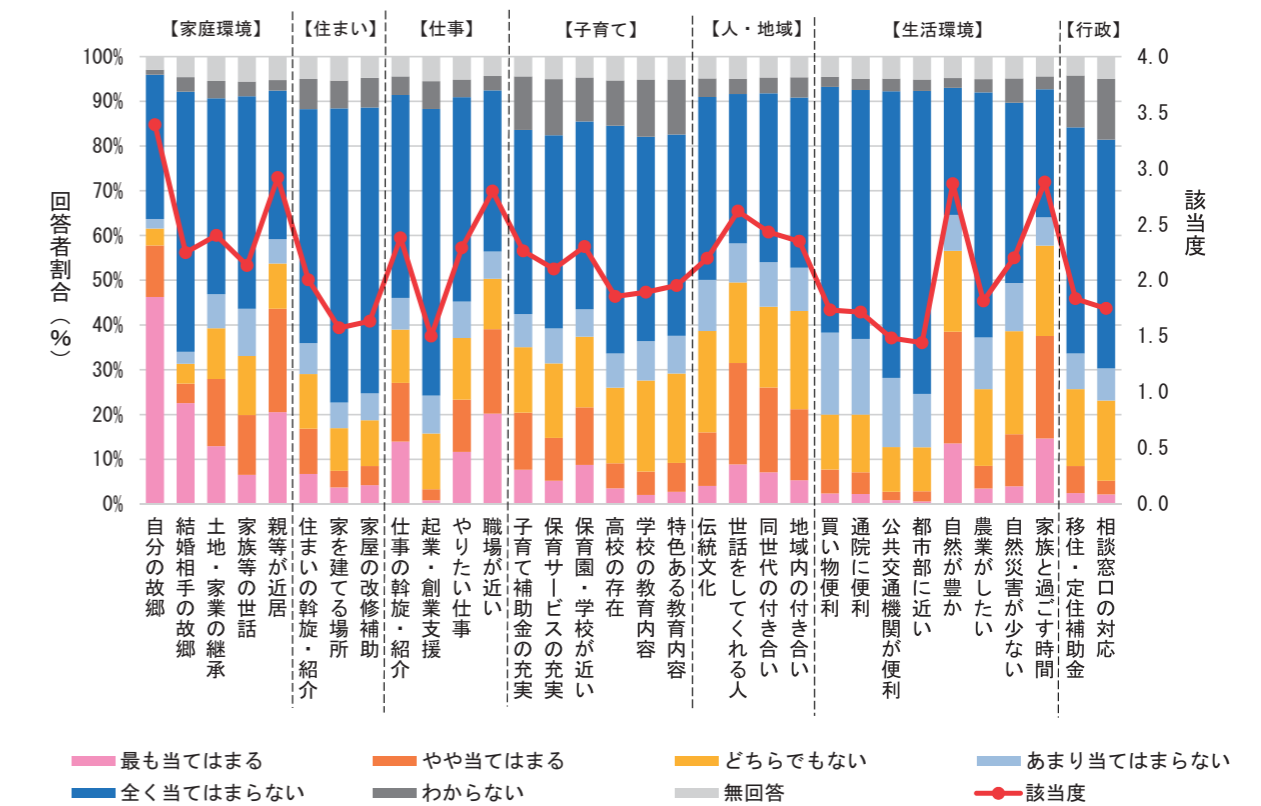
(1) 現在の居住地を選んだ理由

現在の居住地に住むことを決めた理由として、「最も当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した方が多い項目は、「自分の故郷」(57.8%)、「親等が近居」(43.7%)、「職場が近い」(39.1%)、「自然が豊か」(38.5%)、「家族と過ごす時間」(37.5%)、「世話をしてくれる人」(31.5%)でした(図3-8)。

一方、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」との回答割合が高い項目は、「都市部に近い」(79.6%)、「公共交通機関が便利」(79.5%)、「買い物便利」(73.2%)、「起業・創業支援」(72.5%)、「通院に便利」(72.5%)、「家を建てる場所」(71.4%)、「家屋の改修補助」(69.9%)となっています。

なお、複数の属性を比較するために、「最も当てはまる」(5点)〜「全く当てはまらない」(1点)と点数を付け、該当度として評価しても傾向が把握できるため、以下は該当度として評価しました。

図3-8 居住地決定理由(N=2,421)

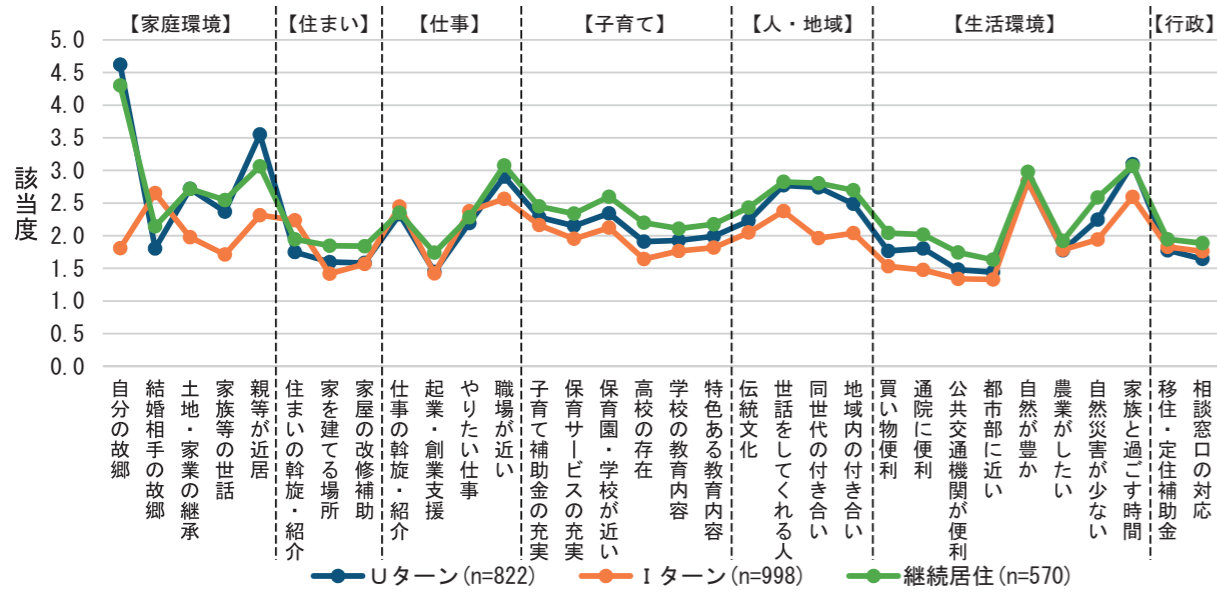


$$\text{該当度} = \frac{\text{最も当てはまる} \times 5 + \text{やや当てはまる} \times 4 + \text{どちらでもない} \times 3 + \text{あまり当てはまらない} \times 2 + \text{全く当てはまらない} \times 1}{\text{「わからない」「未記入」を除いた回答数}}$$

転居状況別の違いを該当度で評価すると、Uターン者と継続居住者は同様の傾向であり、「自分の故郷」、「親等が近居」など家庭環境に関する分野で高く、その他の分野では「家族と過ごす時間」、「自然が豊か」、「職場が近い」などの項目で高くなっています（図3-9）。

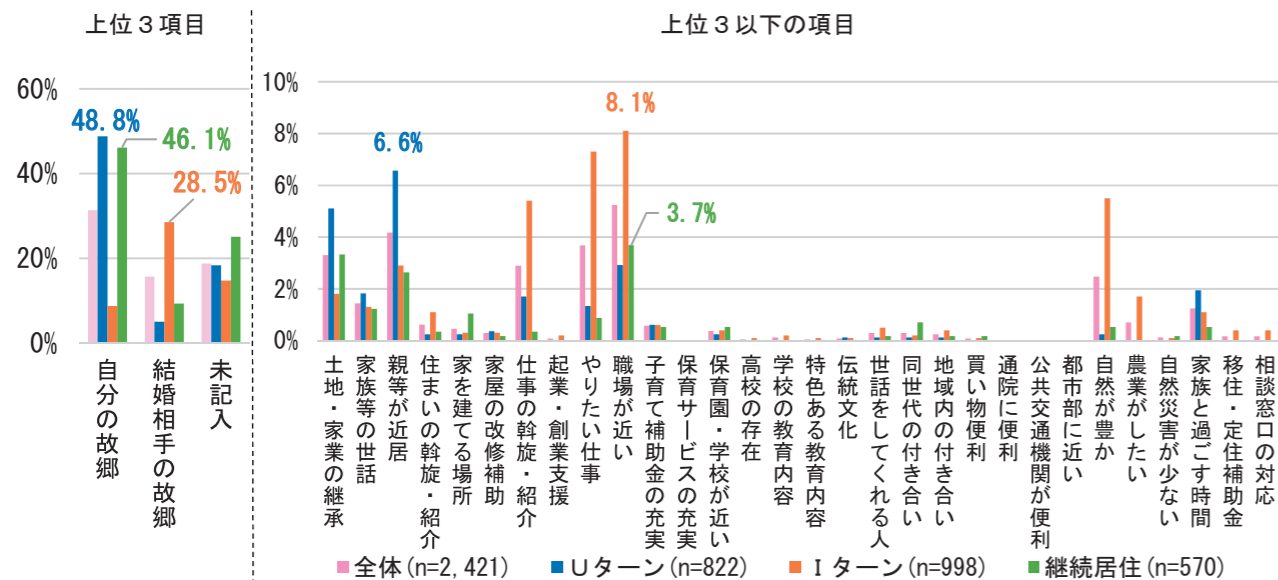
他方、Iターン者で該当度が高い項目は、「自然が豊か」、「家族と過ごす時間」、「結婚相手の故郷」、「職場が近い」となっています。

図3-9 転居状況別居住地決定理由



上記の項目のうち、居住地を決めた一番の理由を尋ねたところ、Uターン者や継続居住者は「自分の故郷」(48.8%、46.1%)、Iターン者は「結婚相手の故郷」(28.5%) が最も多くなっています。これ以外の項目（未記入除く）では、Uターン者は「親等が近居」(6.6%)、Iターン者や継続居住者は「職場が近い」(8.1%、3.7%) が多くなっています（図3-10）。

図3-10 居住地を決めた一番の理由



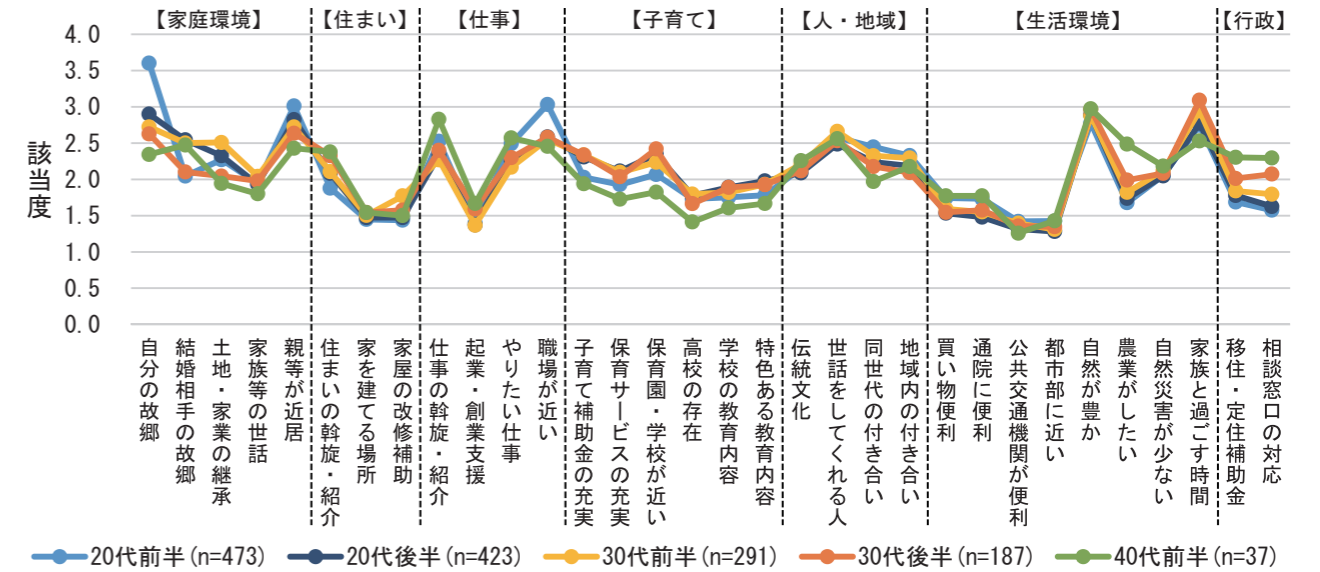
(2) 年齢、性別、家族構成による居住地決定理由の違い

1) 年齢による違い

移住時の年齢（現在の年齢から引越後の経過年数を引いて算出）による居住地を決めた理由をみると、「自分の故郷」、「親等が近居」、「同世代の付き合い」などは移住時の年齢が若いほど該当度が高い傾向にありました（図3-11）。

一方、「住まいの斡旋・紹介」、「仕事の斡旋・紹介」、「移住・定住補助金」、「移住相談窓口の対応」などは、40代前半で移住された方が最も高く、若くなるにつれ低くなる傾向にありました。

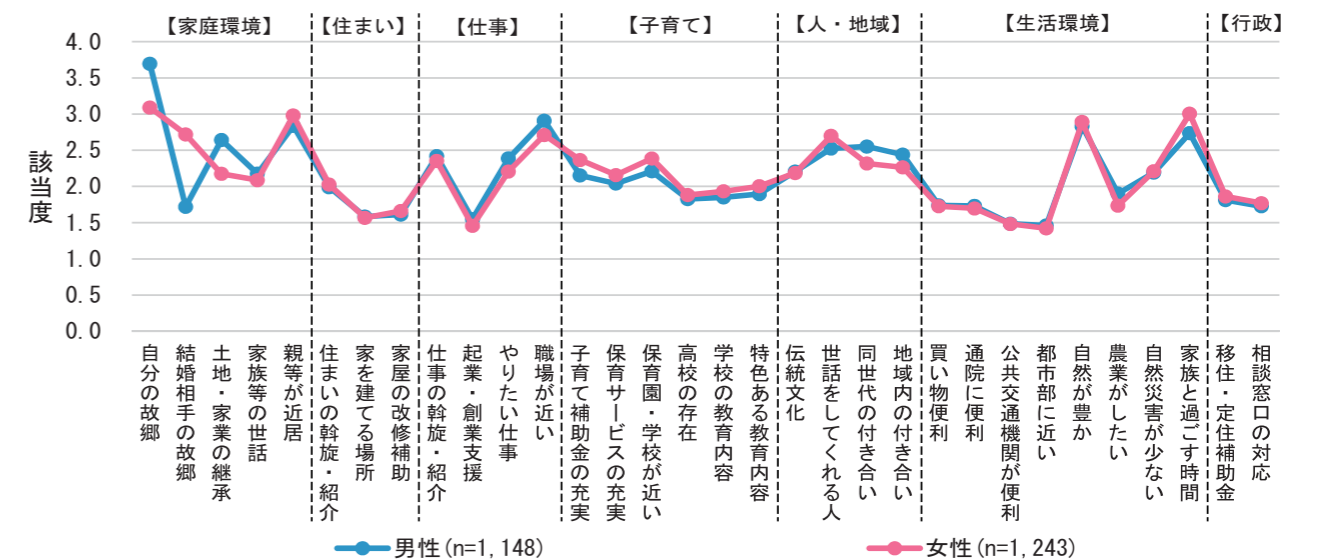
図3-11 移住時の年齢別居住地決定理由(10代以下除く)



2) 性別による違い

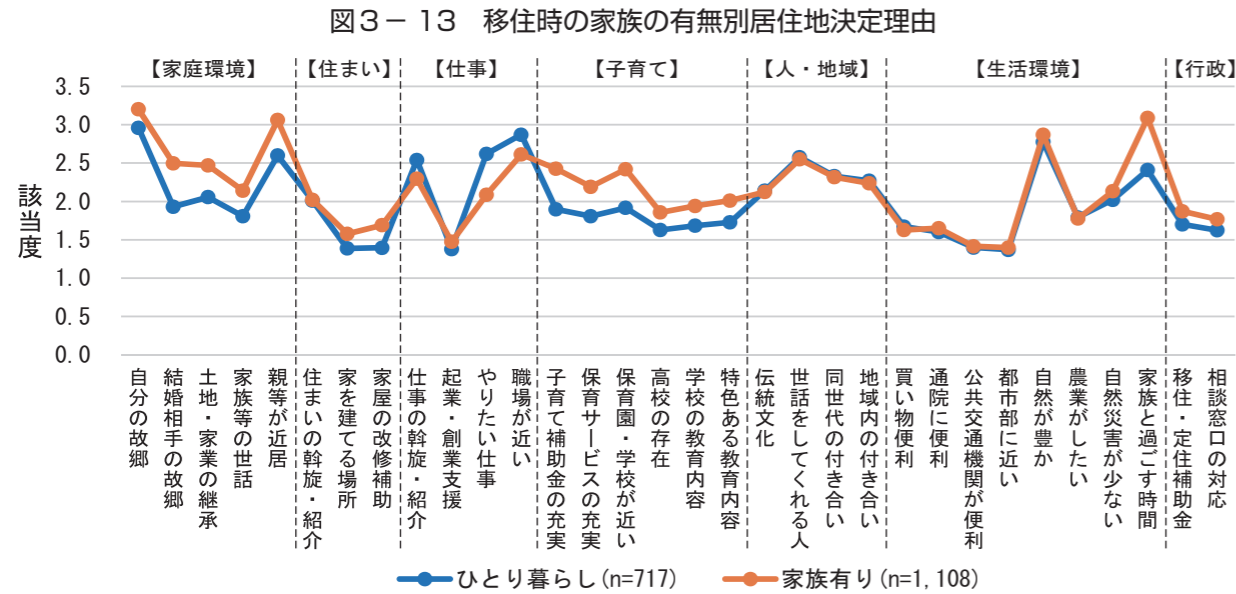
性別により大きく異なる項目は、「自分の故郷」、「土地・家業の継承」、「同世代の付き合い」などは男性で該当度が高く、「結婚相手の故郷」、「子育て補助金の充実」、「世話をしてくれる人」などは女性が高くなっています（図3-12）。

図3-12 男女別居住地決定理由



3) 移住時の家族の有無による違い

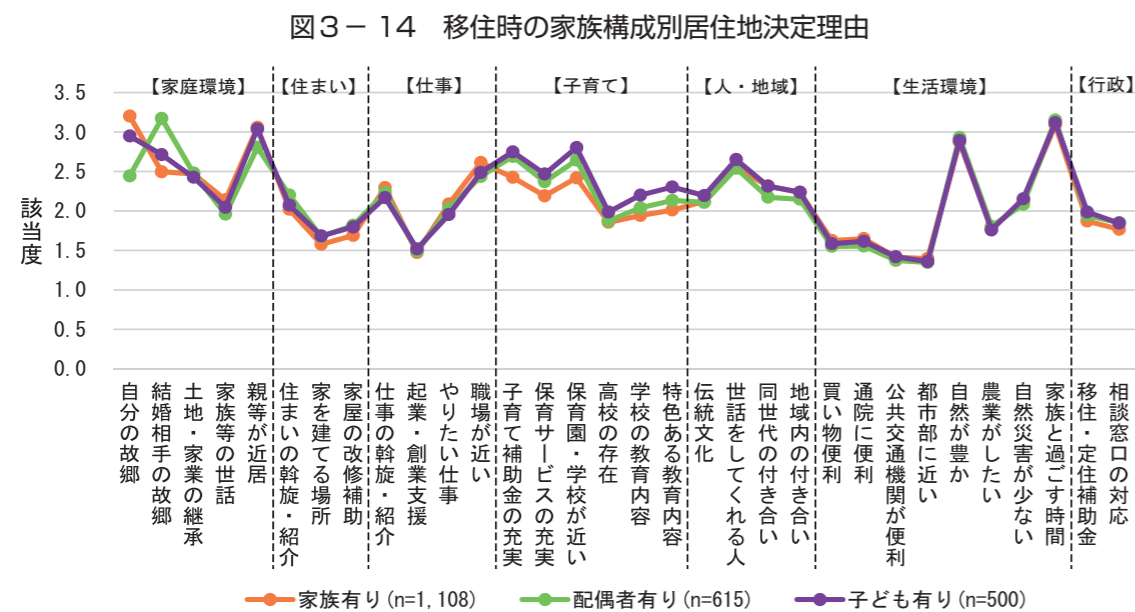
移住時にひとり暮らしだった方は「職場が近い」、「やりたい仕事」、「仕事の斡旋・紹介」など仕事に関する分野で、家族がいる方に比べ高くなっています。一方、家族で移住された方は、ひとり暮らしの方に比べ家庭環境や子育てに関する分野で高く、項目別では「家族と過ごす時間」が高くなっています（図3-13）。



4) 移住時の配偶者・子どもの有無による違い

移住時に配偶者がいる方、子どもがいる方ともに「親等が近居」「自然が豊か」「家族と過ごす時間」などが高くなっています。

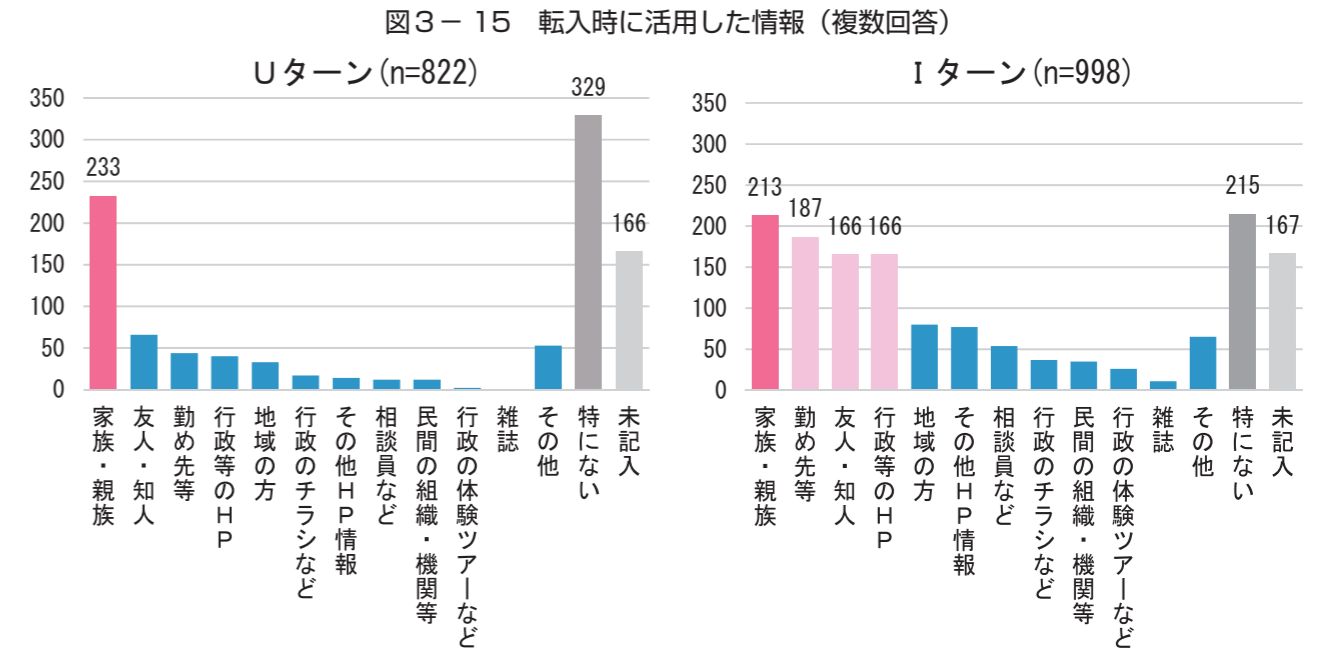
また、移住時に子どもがいる方は配偶者の方と比較すると、子育て、人・地域の分野で高い傾向にありました。



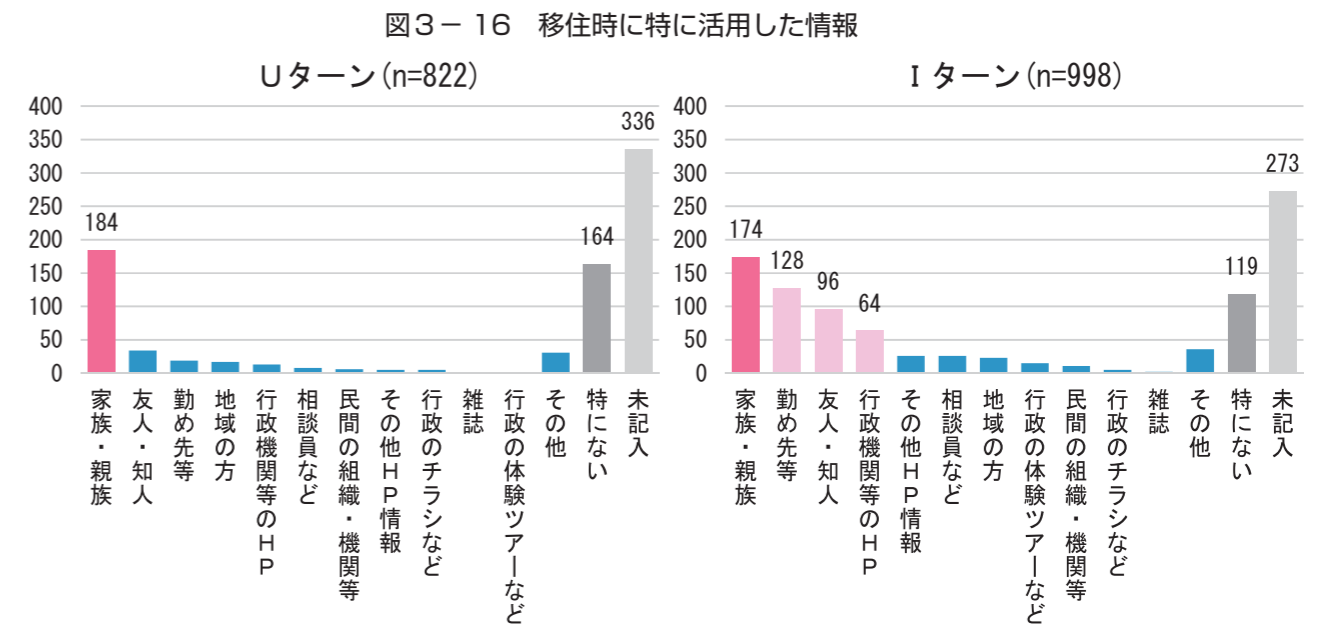
(3) 移住する時に活用した情報や支援制度

1) 移住する時に活用した情報

Uターン者、Iターン者ともに、現在の自治体に転入した際に活用した情報として最も多い回答は「特にない」（Uターン者 329人、Iターン者 215人）でした。次いで「家族や親族」（Uターン者 233人、Iターン者 213人）となっています。Uターン者に比べ、Iターン者では「勤め先等」（187人）、「友人・知人」（166人）、「行政等のホームページ」（166人）も多くなっています（図3-15）。



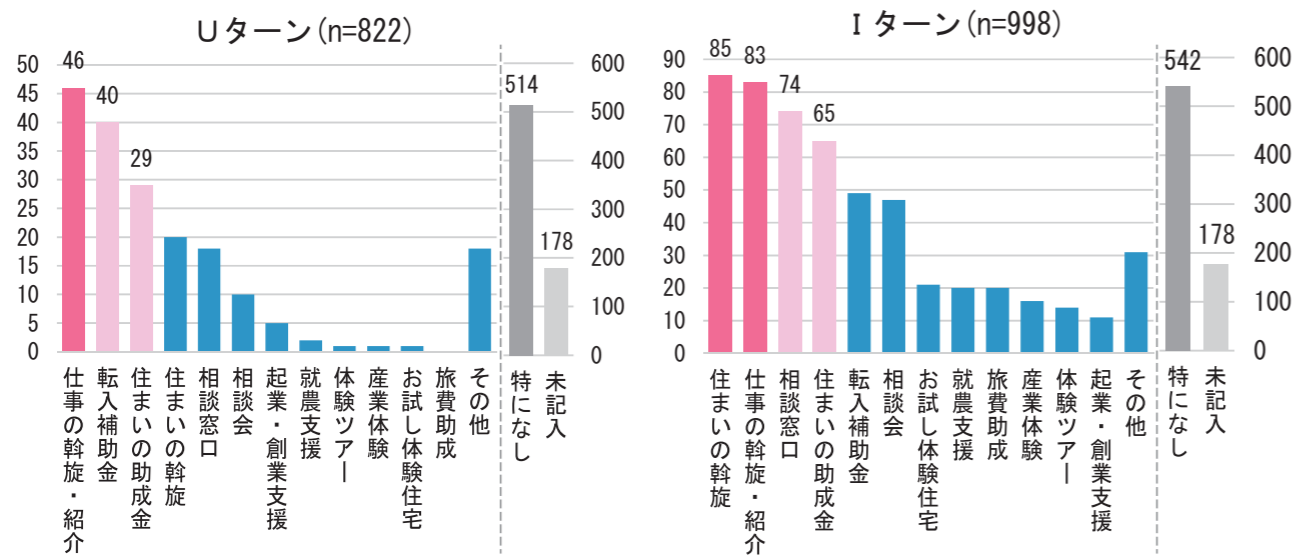
また、特に活用した情報は、「未記入」、「特にない」を除いた中で最も多かったのは、Uターン者、Iターン者ともに「家族や親族」（Uターン者 184人、Iターン者 174人）となっています。また、Iターン者では「勤め先等」（128人）、「友人・知人」（96人）、「行政機関等のホームページ」（64人）も多くなっています（図3-16）。



2) 移住する時に活用した支援制度

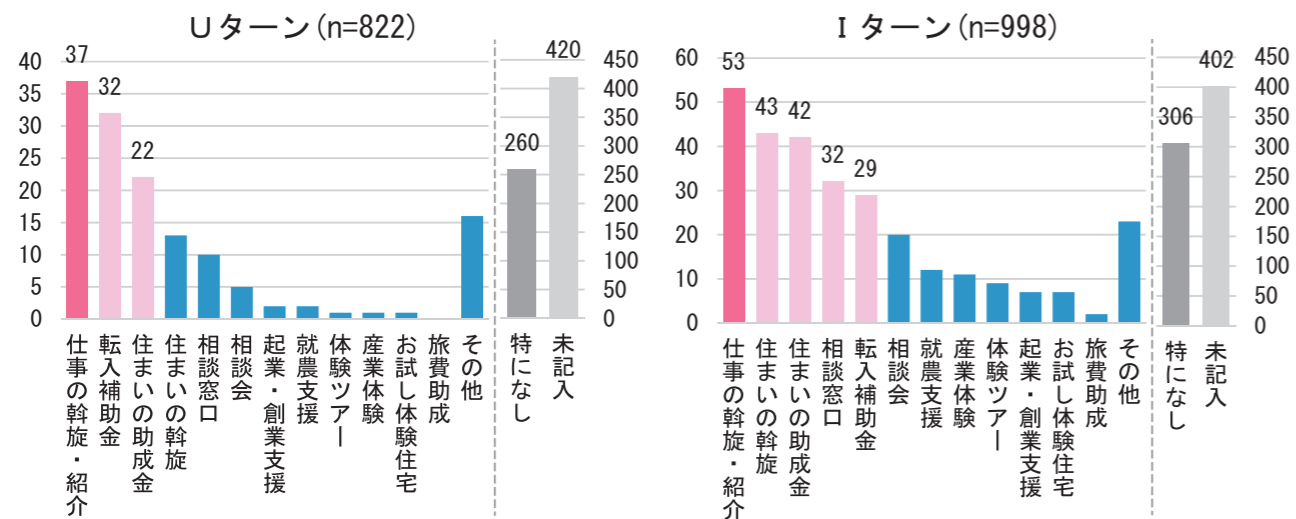
移住時に活用した支援制度については、Uターン者、Iターン者ともに半数以上が「特になし」と回答し、次いで未記入が多くなっています。これ以外では、Uターン者は「仕事の斡旋・紹介」(48人)、「転入補助金」(40人)、「住まいの助成金」(29人)、Iターン者は「住まいの斡旋」(85人)、「仕事の斡旋・紹介」(83人)、「相談窓口」(74人)、「住まいの助成金」(65人)の順に多くなっています(図3-17)。

図3-17 移住時に活用した支援制度(複数回答)



また、特に有効だった支援制度は、半数以上が未記入であり、次いで「特になし」が多くなっています。これ以外の回答で最も多かったのは、Uターン者、Iターン者ともに「仕事の斡旋・紹介」(Uターン者37人、Iターン者53人)となっています。Iターン者では「住まいの斡旋」(43人)や「住まいの助成金」(42人)のように住居に関する支援も多くなっています(図3-18)。

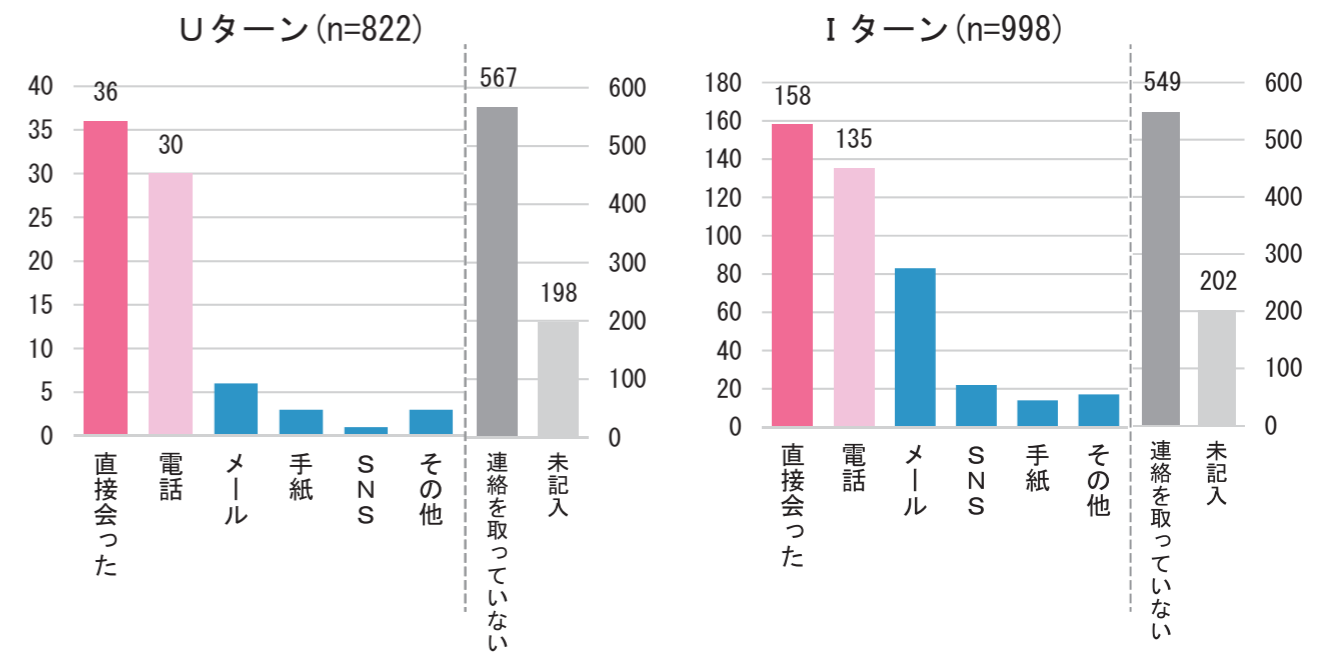
図3-18 移住時に特に有効だった支援制度



3) 移住する時に移住支援者(コーディネーターなど)と連絡を取った手段

移住する時に連絡を取った手段については、「連絡を取っていない」が最も多くUターン者で567人(69%)、Iターン者で549人(55%)となっています。連絡を取った中ではUターン者、Iターン者ともに「直接会った」(Uターン者36人、Iターン者158人)、「電話」(Uターン者30人、Iターン者135人)の順に多く、Uターン者に比べIターン者では回答数が多くなっています(図3-19)。

図3-19 移住時に連絡を取った手段



3. 住み続けることへの若者世代の意識

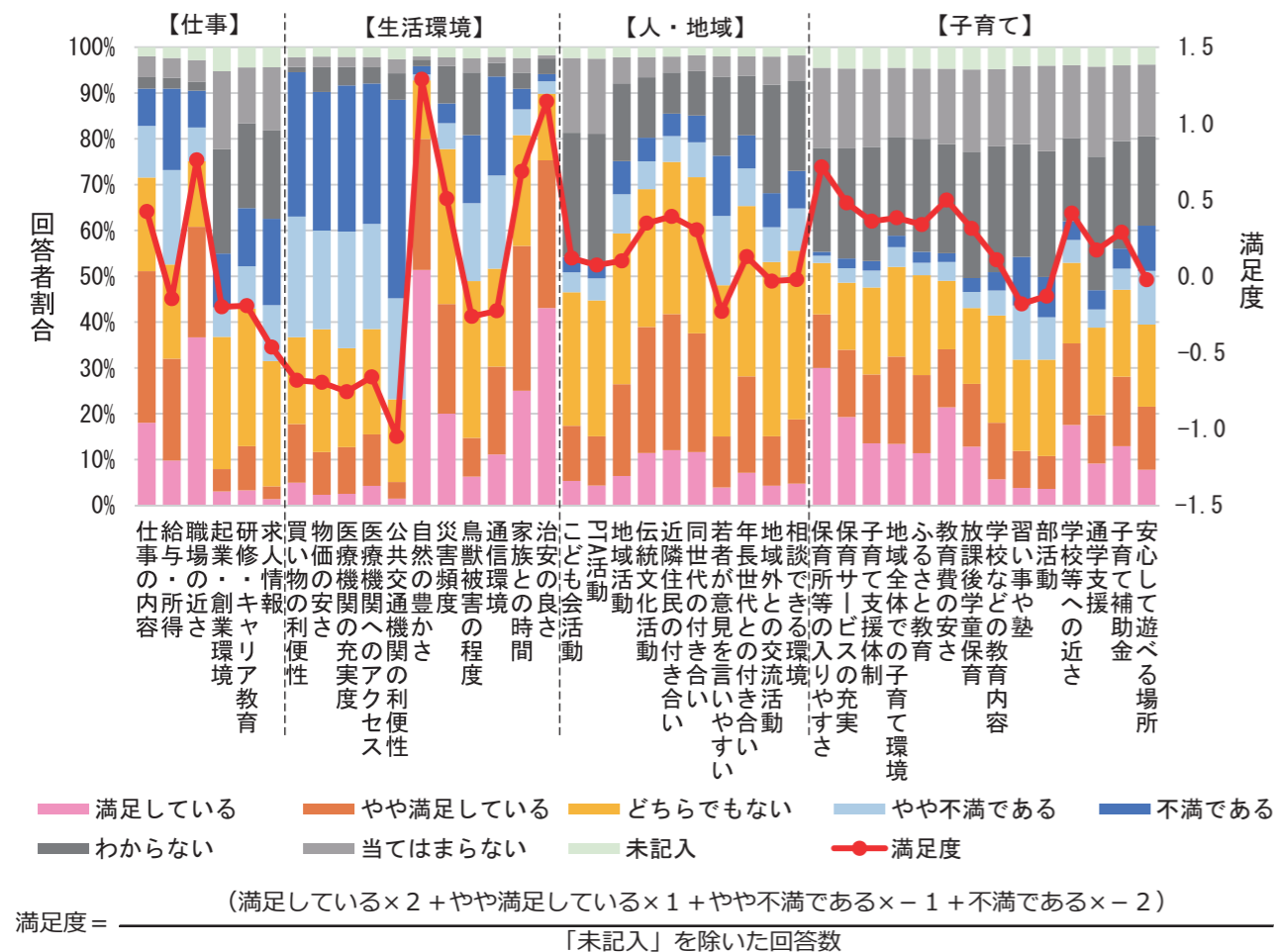
(1) 現在の暮らしの満足度

現在の暮らしに「満足している」、「やや満足している」と回答した方が50%を超えている項目は、「自然の豊かさ」(79.9%)、「治安の良さ」(75.3%)、「職場の近さ」(60.8%)、「家族との時間」(56.6%)、「仕事の内容」(51.1%)でした。

一方、「やや不満である」、「不満である」と回答した割合が50%を超えていた項目は、「公共交通機関の利便性」(65.4%)、「買い物の利便性」(57.8%)、「医療機関の充実度」(57.3%)、「医療機関へのアクセス」(53.6%)、「物価の安さ」(51.8%)と生活環境に関する項目で高くなっています(図3-20)。

満足度を点数化して評価すると、上記の項目に加え、人・地域の分野や子育て分野で比較的高くなっています。人・地域の分野では、「伝統文化活動」や「近隣住民の付き合い」や「同世代の付き合い」などで満足度が高く、「若者が意見を言いやすい」で低くなっています。子育て分野では「保育所等の入りやすさ」や「学校等への近さ」などで高く、「部活動」や「習い事や塾」などの学校以外の教育環境で低い状況にありました。

図3-20 生活満足度 (N=2,421)



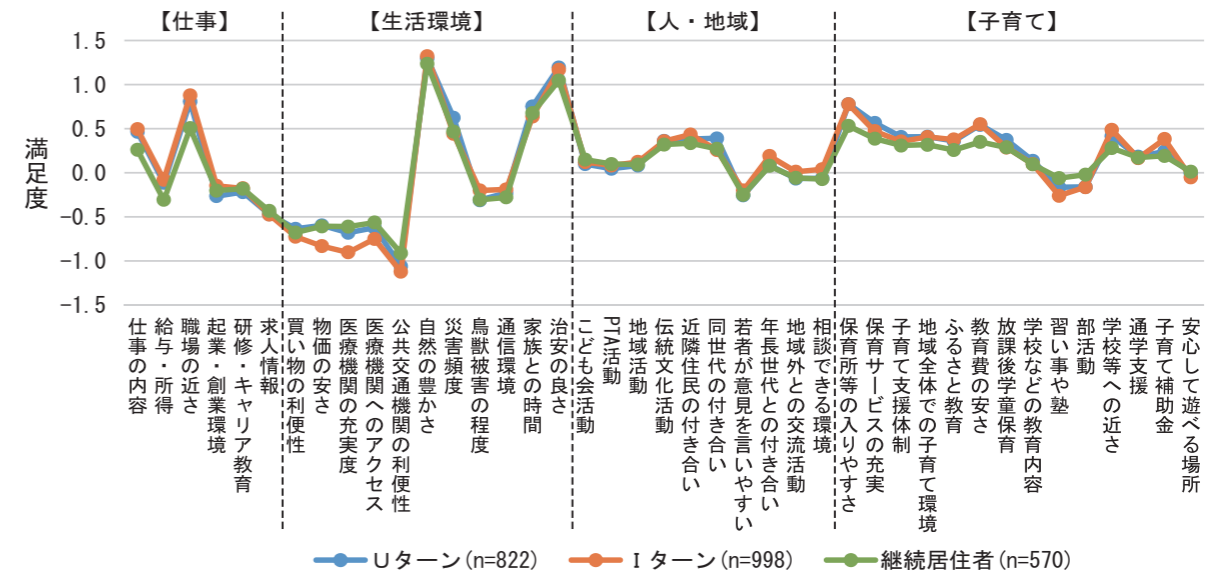
(2) 回答者属性による生活満足度の違い

1) 転居状況による違い

Uターン者や継続居住者に比べ、Iターン者は「物価の安さ」、「医療機関の充実度」や「医療機関へのアクセス」、「習い事や塾」、「部活動」などで満足度が低くなっています(図3-21)。

一方、継続居住者に比べ、Uターン者やIターン者は「仕事の内容」、「給与・所得」、「職場の近さ」など仕事の分野や、「保育所等の入りやすさ」や「保育サービスの充実」など子育て分野で高い傾向にありました。

図3-21 転居状況別の生活満足度

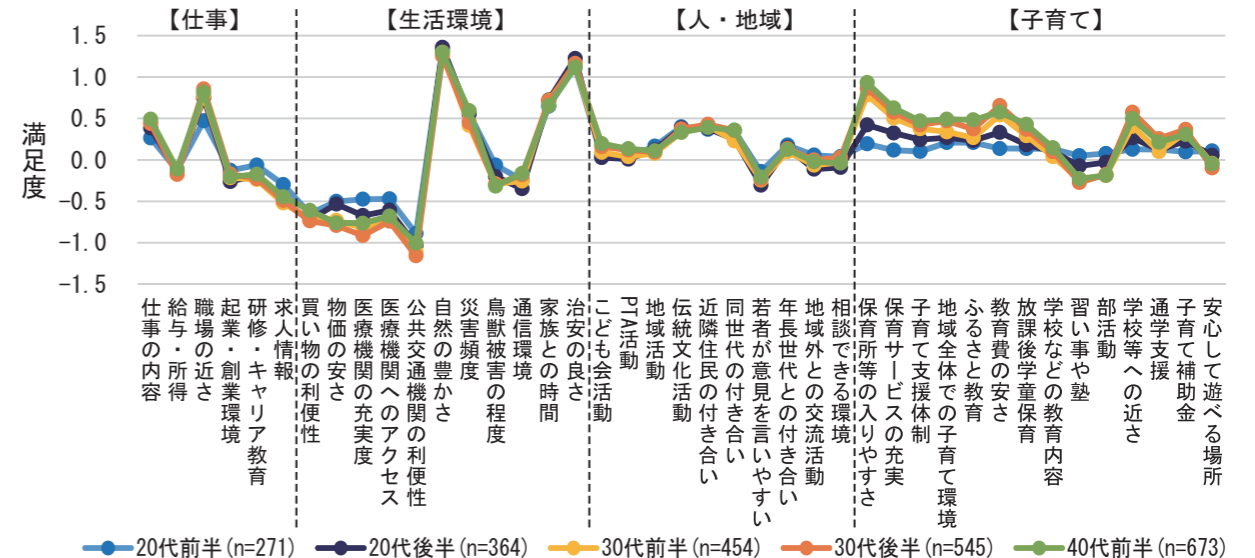


2) 年齢による違い

「職場の近さ」、「仕事の内容」など仕事の分野や、「保育所等の入りやすさ」など子育て分野で、20代に比べ、30代、40代で満足度が高くなる傾向にありました(図3-22)。

一方、「物価の安さ」、「医療機関の充実度」など生活環境に関する分野では、30代、40代に比べ、20代が高い傾向にありました。

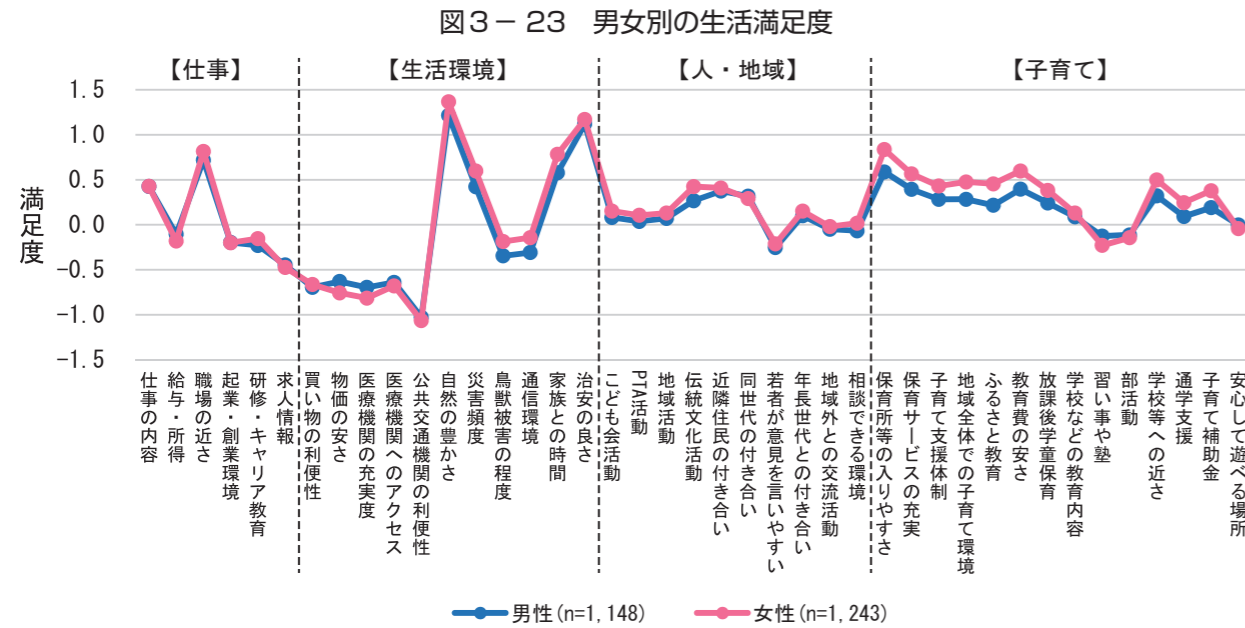
図3-22 現在の年齢別生活満足度



3) 性別による違い

性別による生活満足度の違いをみると、「保育所等の入りやすさ」、「教育費の安さ」など子育てに関する分野では多くの項目で女性の満足度が高くなっています（図3-23）。

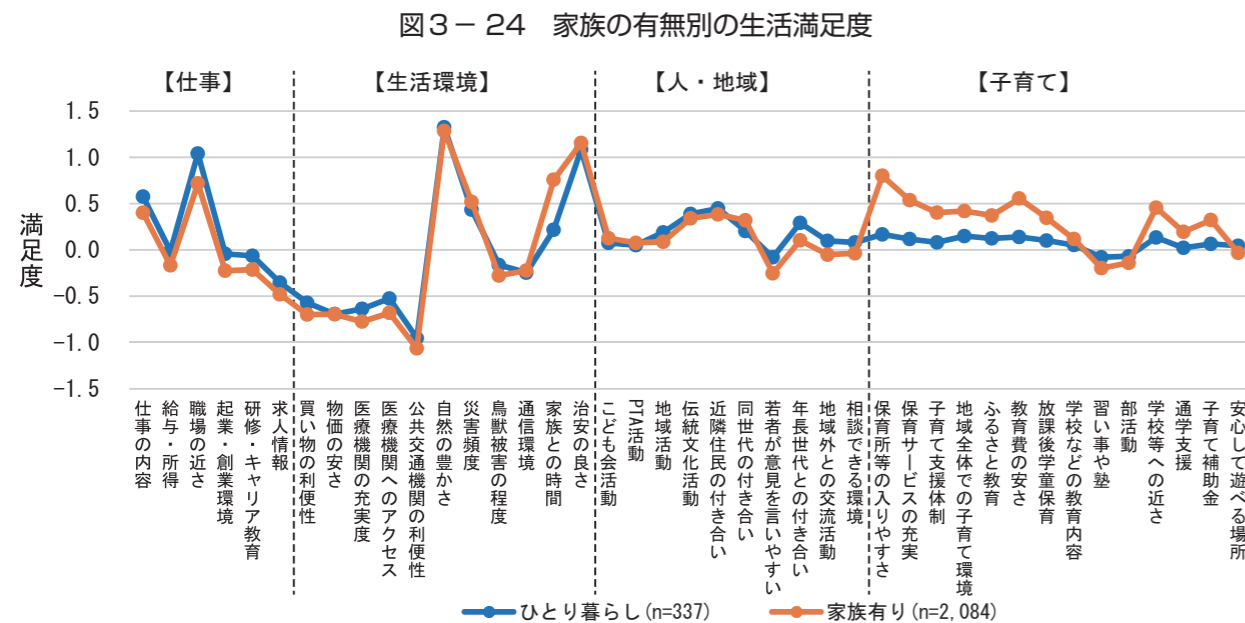
一方で満足度が低い項目についてみると、「鳥獣被害の程度」「通信環境」は女性より男性の満足度が低くなっています。また、「物価の安さ」、「医療機関の充実度」、「習い事や塾」、「部活動」は男性よりも女性の方が満足度は低くなっています。



4) 家族の有無による違い

家族の有無による違いをみると、家族がいる方は「保育所等の入りやすさ」など子育てに関する分野の満足度がひとり暮らしをされている方よりも非常に高い傾向にありました（図3-24）。

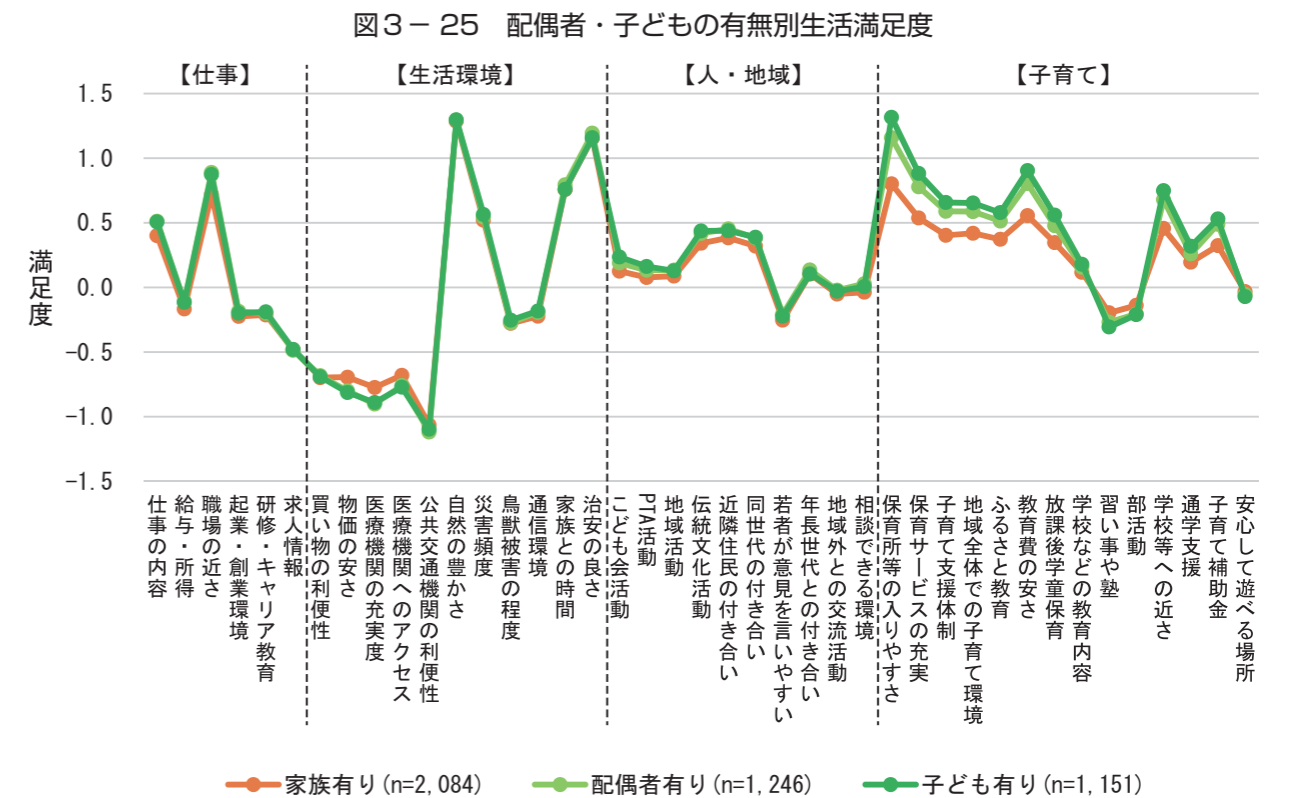
一方、ひとり暮らしをされている方は「職場の近さ」などの仕事の分野や「年長世代との付き合い」「地域外との交流活動」などの人・地域の分野の満足度は家族がいる方よりも高くなっています。



5) 配偶者・子どもの有無による違い

家族がいる方の中で、配偶者や子どもの有無による違いをみると、「保育所等の入りやすさ」、「教育費の安さ」、「学校への近さ」、「子育て補助金」など子育ての分野で、配偶者や子どもがいる方の満足度が高くなっています。特に子どもがいる方で生活満足度が高くなる傾向にありました（図3-25）。

一方、「物価の安さ」、「医療機関の充実度」、「医療機関へのアクセス」、「習い事や塾」、「部活動」では、配偶者や子どもがいる方の生活満足度が低くなっています。

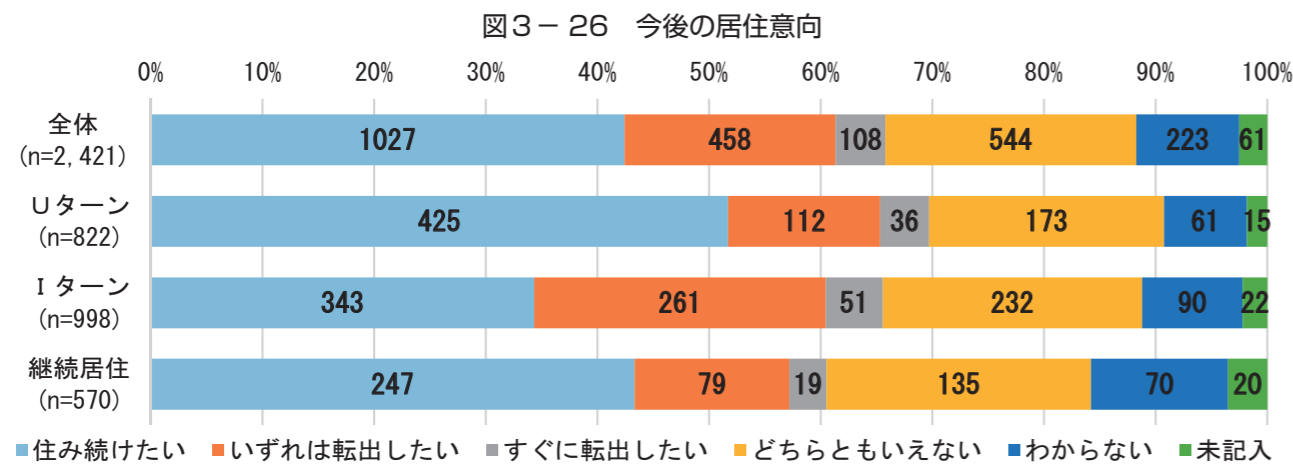


(3) 今後の居住意向

1) 転居状況・家族構成別の今後の居住意向

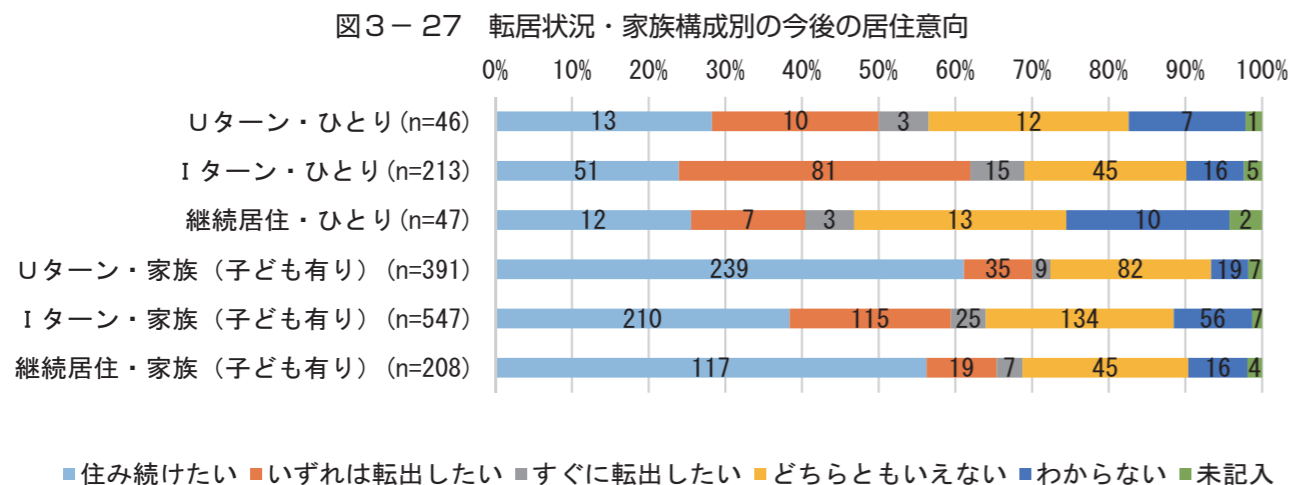
今後の居住意向については、「今後も住み続けたい」と回答した方が1,027人(42.4%)と最も多く、ついで「どちらともいえない」544人(22.5%)、「いずれは転出したい」458人(18.9%)の順となっています。「すぐに転出したい」と回答した方は108人(4.5%)と少なくなっています(図3-26)。

転居状況別に見ると、「今後も住み続けたい」との回答がそれぞれ最も多くなっていますが、特にUターン者は「今後も住み続けたい」との回答が半数を超えて(51.7%)います。また、Iターン者は「いずれは転出したい」(26.1%)、継続居住者は「わからない」(12.3%)との回答割合が全体に比べ高くなっています。



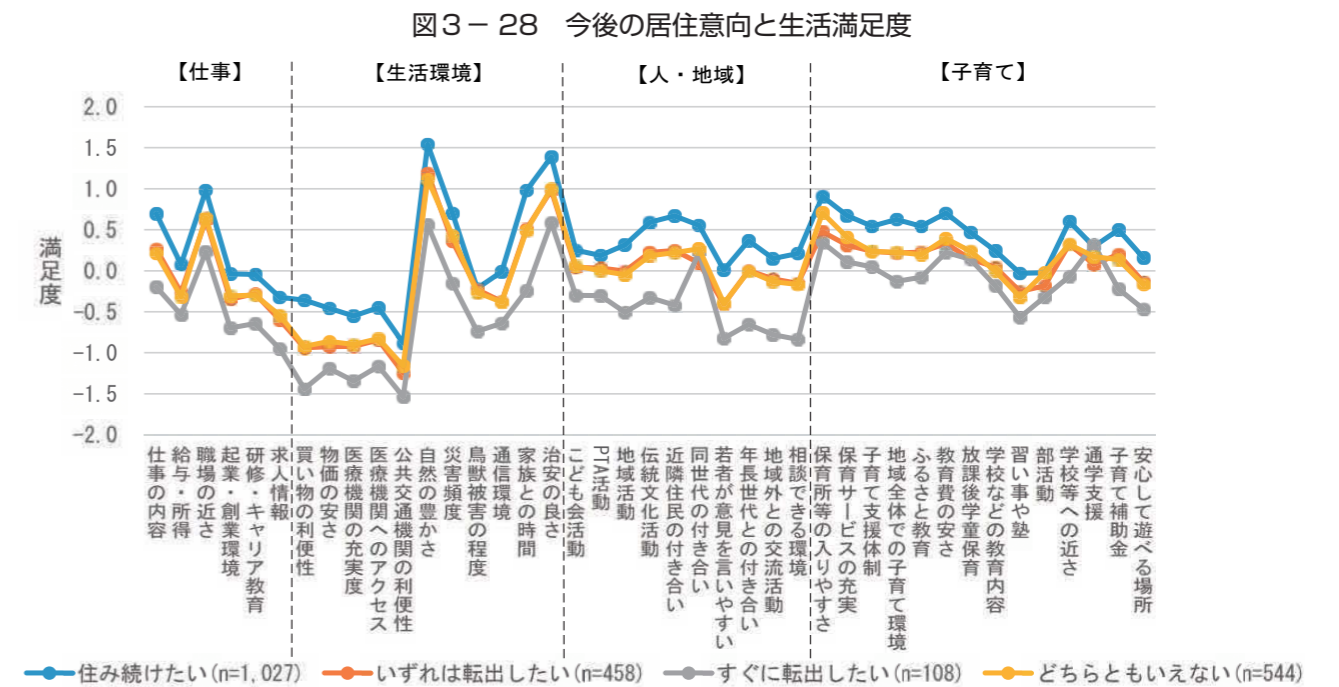
今後の居住意向について、家族構成(ひとり暮らし、子どもがいる)で比較すると、ひとり暮らしの方については、Uターン者や継続居住者において「わからない」との回答割合が増加し、特にIターン者は「いずれ転出したい」が最も多く、38.0%となっています(図3-27)。

子どもがいる方はひとり暮らしの方よりも「今後も住み続けたい」と回答した方が多くなっています。特にUターン者や継続居住者では60%程度の方が「今後も住み続けたい」と回答しています。

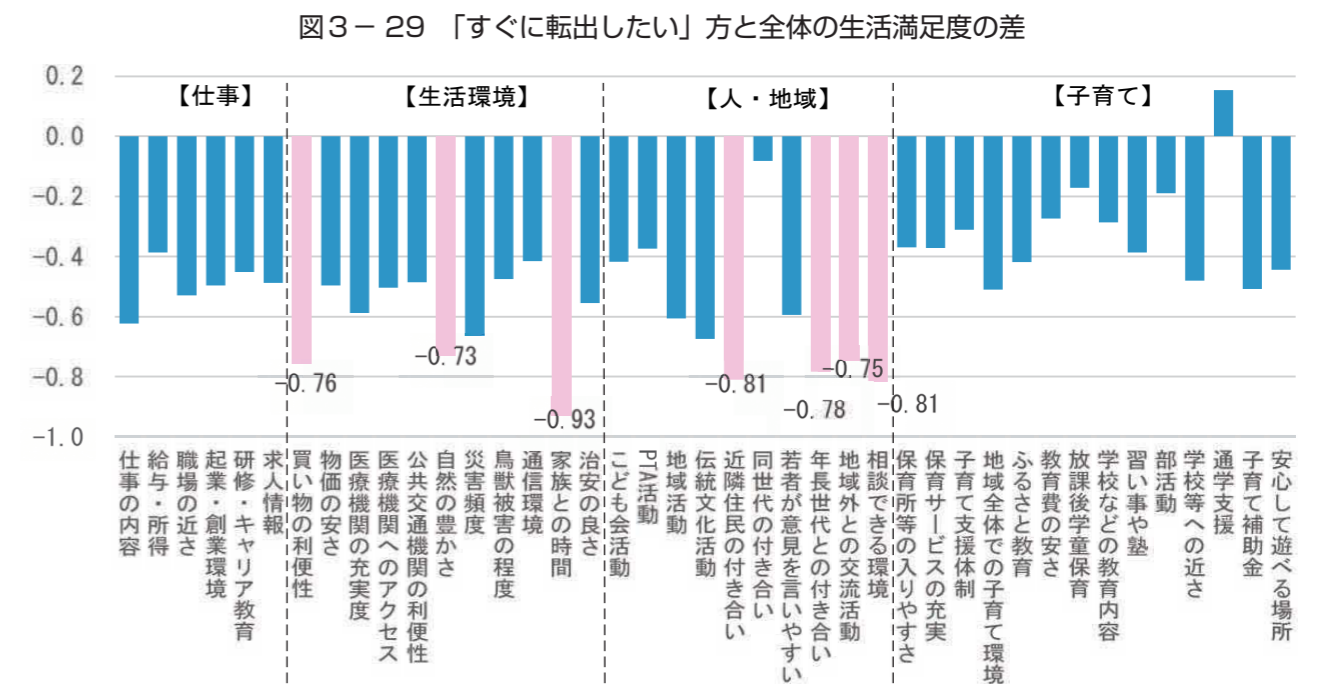


2) 今後の居住意向と生活満足度

今後の居住意向別に生活満足度をみると、ほとんどの項目で「今後も住み続けたい」が最も高くなっており、「いずれは転出したい」と「どちらともいえない」が同程度、「すぐに転出したい」が最も低い傾向にありました(図3-28)。



全体の満足度と比較し、「すぐにでも転出したい」方の満足度が0.7ポイント以上低い項目は、「家族との時間」、「近隣住民の付き合い」、「年長世代との付き合い」、「相談できる環境」、「買い物物の利便性」等となっています(図3-29)。



4. Uターン者の子どもの頃、他出後の地域との関わり

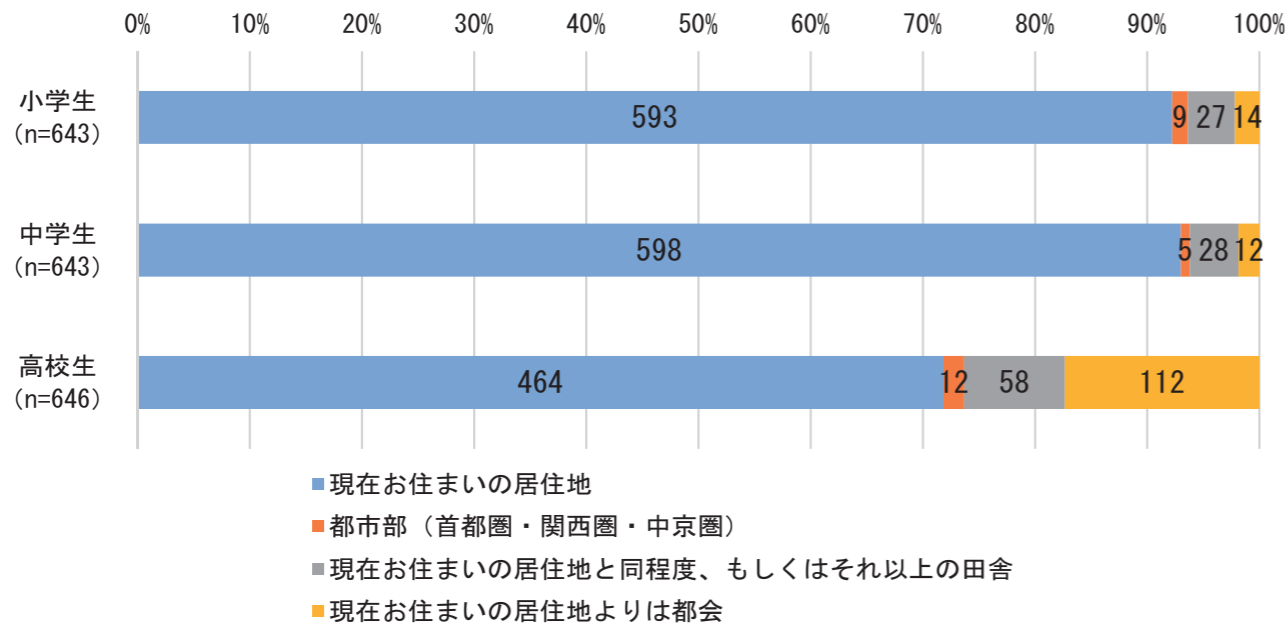
子どもの頃の地域との関わりや出身地との関わりがUターンの要因になっているのではないかと考えるのもと、小・中・高の期間の居住地や、田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識、地域との関わり方について明らかにしました。

(1) Uターン者の子どもの頃の背景

1) 小・中・高の期間の居住地

Uターン者の小・中・高それぞれの期間の居住地については、「現在お住まいの居住地」が小学生：593人（92.9%）、中学生：598人（93.0%）、高校生：464人（71.8%）と多くなっています。中学生から高校生にかけては「現在お住まいの居住地」の回答の割合が減り、一方で「現在お住まいの居住地よりは都会」の回答の割合が高くなります（図3-30）。

図3-30 小・中・高の期間の居住地

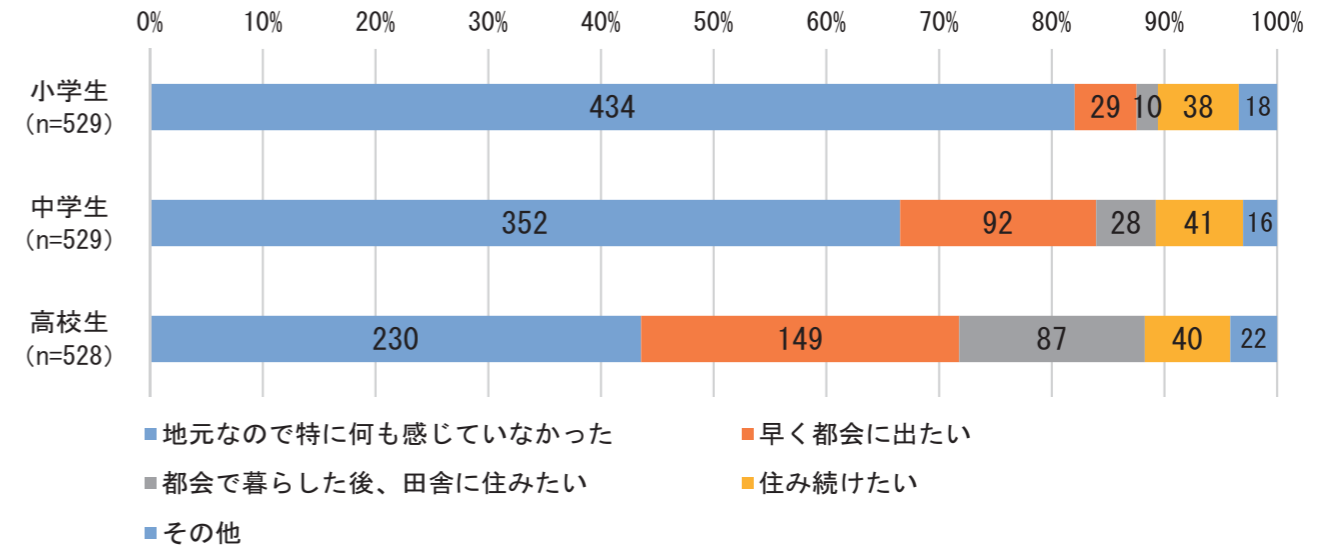


2) 田舎や農山漁村への訪問理由・暮らすことに対する意識

小・中・高それぞれの期間における田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識については、どの期間も「地元なので特に何も感じていなかった」が小学生：434人（82.0%）、中学生：352人（66.5%）、高校生：230人（43.6%）と回答が多くなっています。小学生の期間は、将来自分がどこで暮らしたいのかなど、将来のことは考えられていないため「地元なので特に何も感じていなかった」の回答が多くなっていることが考えられます。

小学生、中学生、高校生になるにつれては「早く都会に出たい」「都会で暮らした後、田舎に住みたい」の割合が高くなるため、他出意向や都会への興味・関心が高まっていることが分かります。（図3-31）。

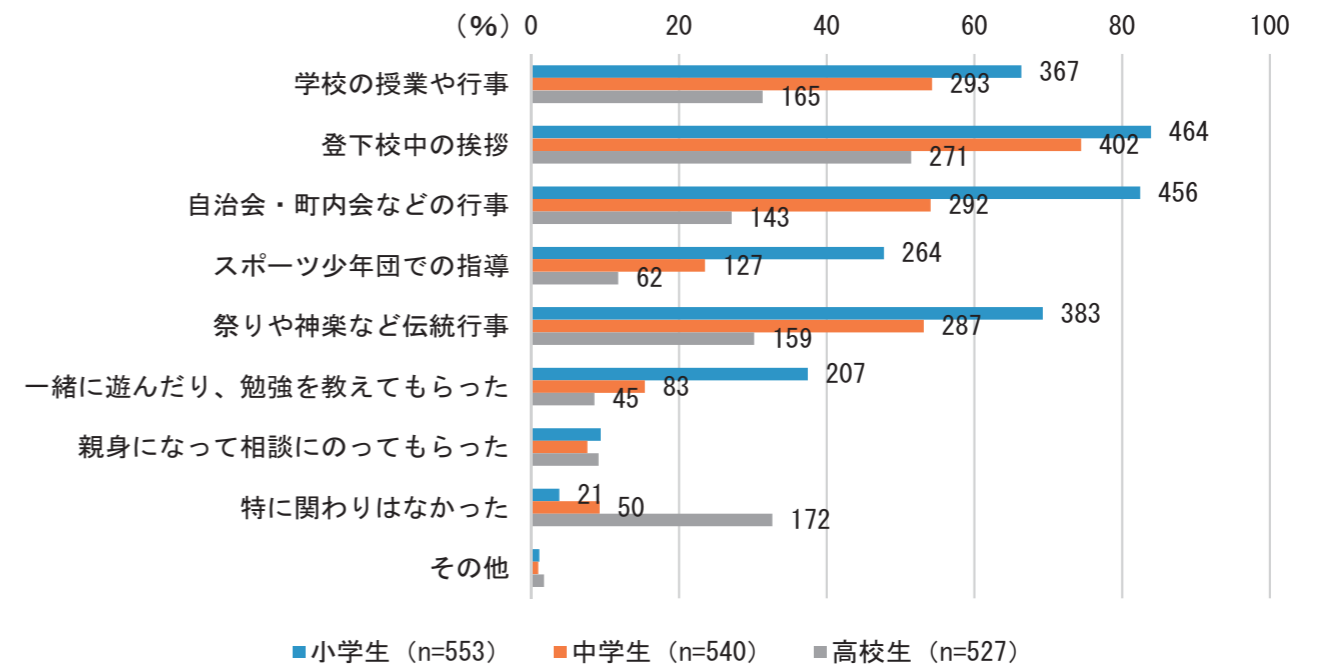
図3-31 田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識



3) 地域との関わり

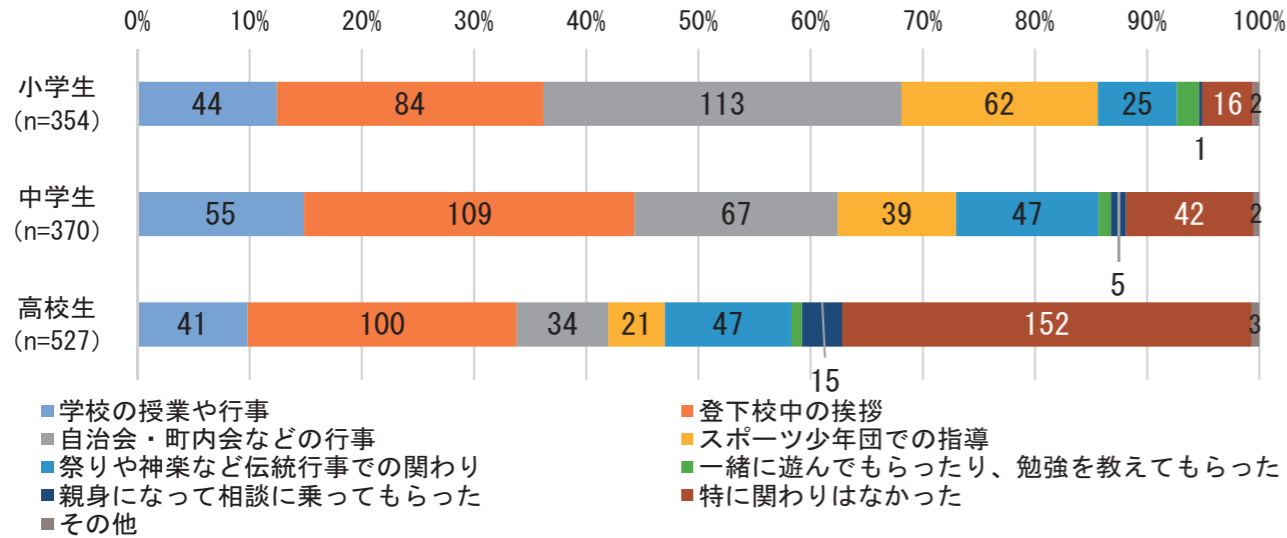
小・中・高それぞれの期間における地域との関わり方については、どの期間も「登下校中の挨拶」が小学生の期間：464人（83.9%）、中学生の期間：402人（74.4%）、高校生の期間：271人（51.4%）と最も多くなっています。小学生の期間は各項目への回答数が多くなっていますが、中学生、高校生になるにつれて回答数は減っており、「特に関わりはなかった」の回答は増えています（図3-32）。

図3-32 地域との関わり（複数回答）



地域との関わりの中で最も関わりが多かった項目については、小学生の期間は「自治会・町内会などの行事」が113人（31.9%）と最も多く、中学生になると「登下校中の挨拶」が109人（29.5%）と多くなり、高校生になると「特に関わりはなかった」が152人（36.5%）と最も多くなっています（図3-33）。このように、小学生から高校生になるにつれて、地域との関わり方が変化していること、関わりが薄くなっていることが分かります。

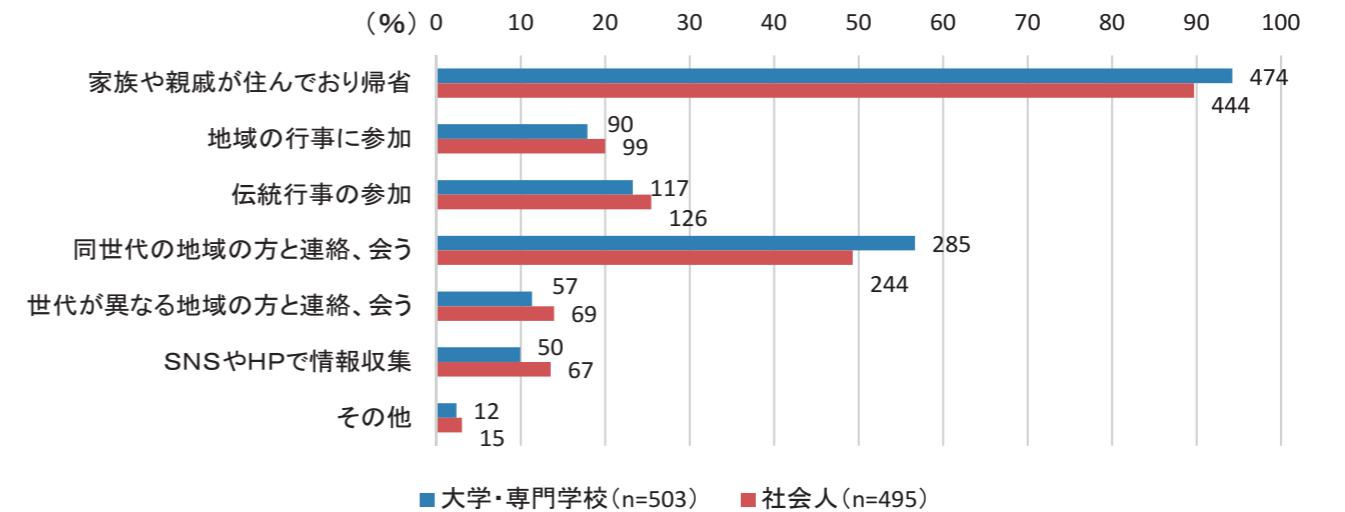
図3-33 地域との関わり（最も関わりが深かった項目）



2) 他出後の出身地との関わり

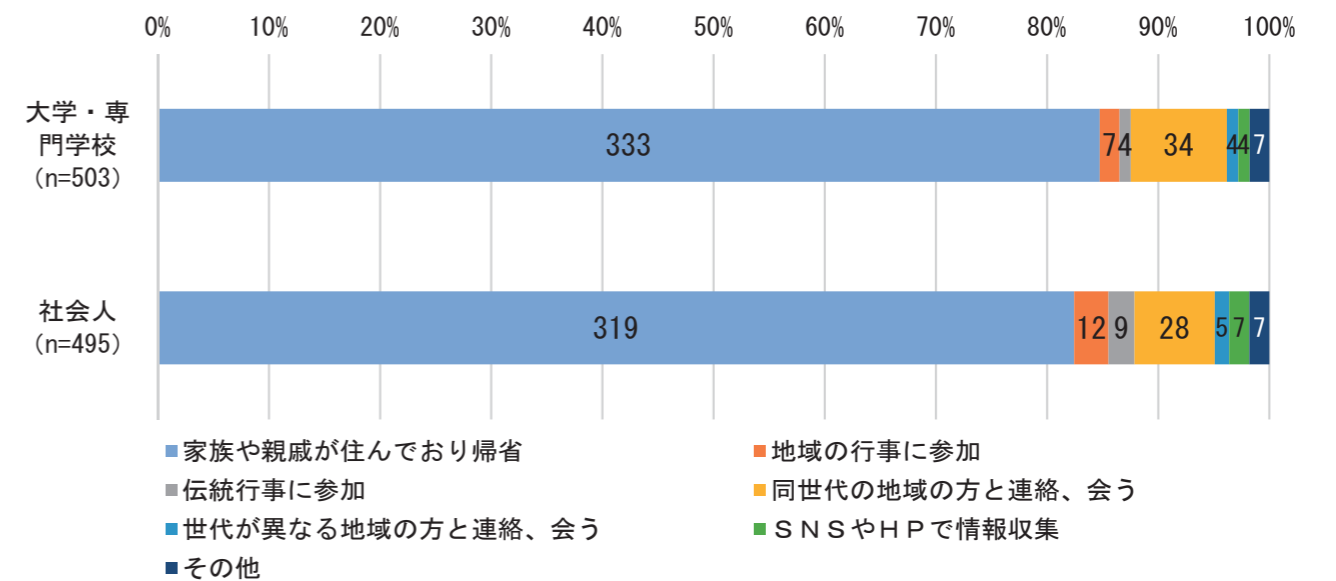
大学・専門学校、社会人の期間における出身地との関わりについては、両期間ともに「家族や親戚が住んでおり帰省」が大学・専門学校：474人（94.2%）、社会人：444人（89.7%）と最も多く、次いで「同世代の地域の方と連絡・会う」が大学・専門学校：285人（56.7%）、社会人：244人（49.3%）と多くなっています（図3-35）。

図3-35 他出後の出身地との関わり（複数回答）



他出後の出身地との関わりで最も多かった項目については、両期間ともに「家族や親戚が住んでおり帰省」が大学・専門学校：333人（84.7%）、社会人：319人（82.4%）と最も多く、次いで「同世代の地域の方と連絡、会う」が大学・専門学校：34人（8.7%）、社会人：28人（7.2%）と多くなっています（図3-36）。

図3-36 他出後の地域との関わり（最も頻度が多かった項目）

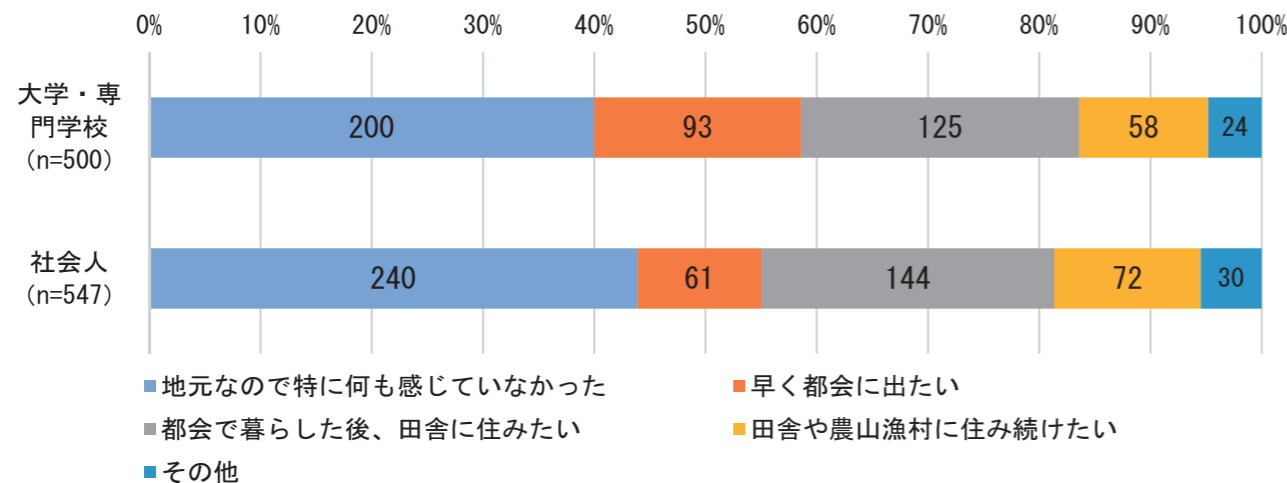


(2) Uターン者の高校卒業後の出身地との関わり

1) 田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識

大学・専門学校、社会人の期間における田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識については、両期間とも「地元なので特に何も感じていなかった」が大学・専門学校の期間：200人（40.0%）、社会人の期間：240人（43.9%）と回答が最も多くなっています。社会人の期間は、大学・専門学校の期間よりも「地元なので特に何も感じていなかった」の回答の割合が高くなり、「早く都会に出たい」の割合が低くなっています（図3-34）。

図3-34 田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識



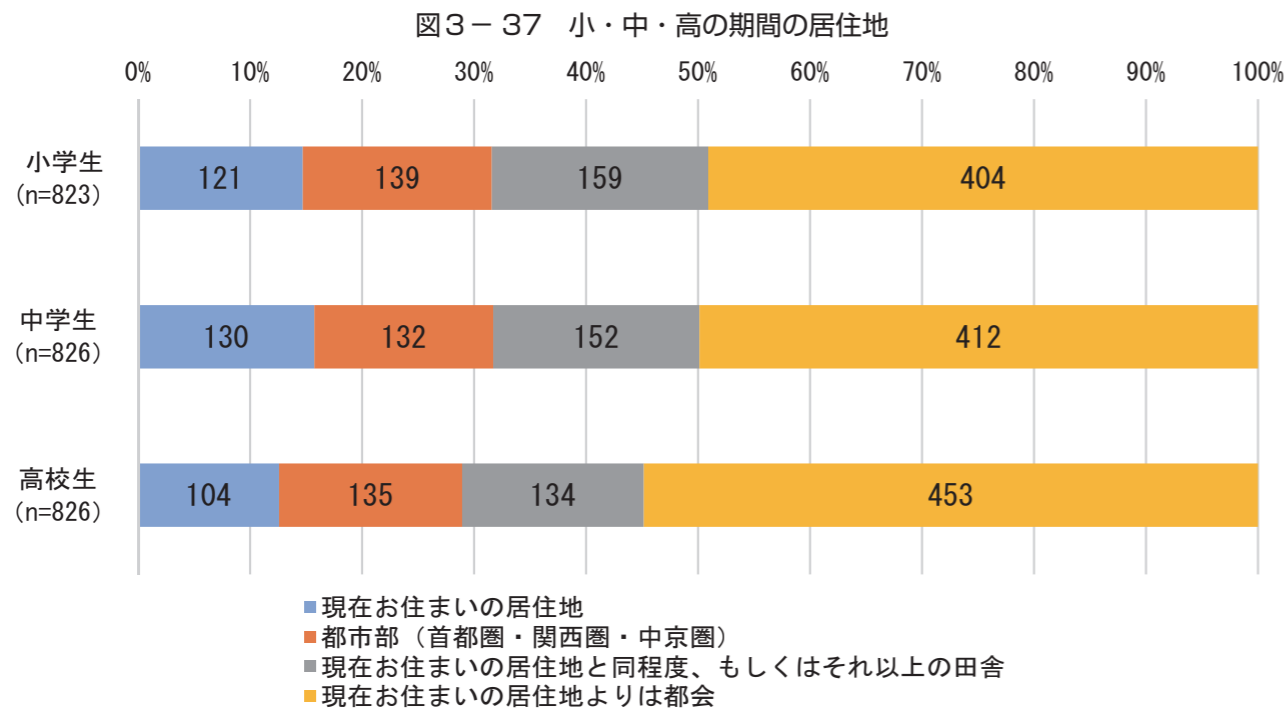
5. Iターン者の子どもの頃の地域との関わり

(1) Iターン者の背景

Iターン者についてもUターン者と同様に子ども頃の田舎や農山漁村との接点、地域との関わりなど個人の背景がIターンの要因になっているのではないかという考えのもと、小・中・高の期間に住んでいた場所や、田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識、当時の地域との関わりについて明らかにしました。

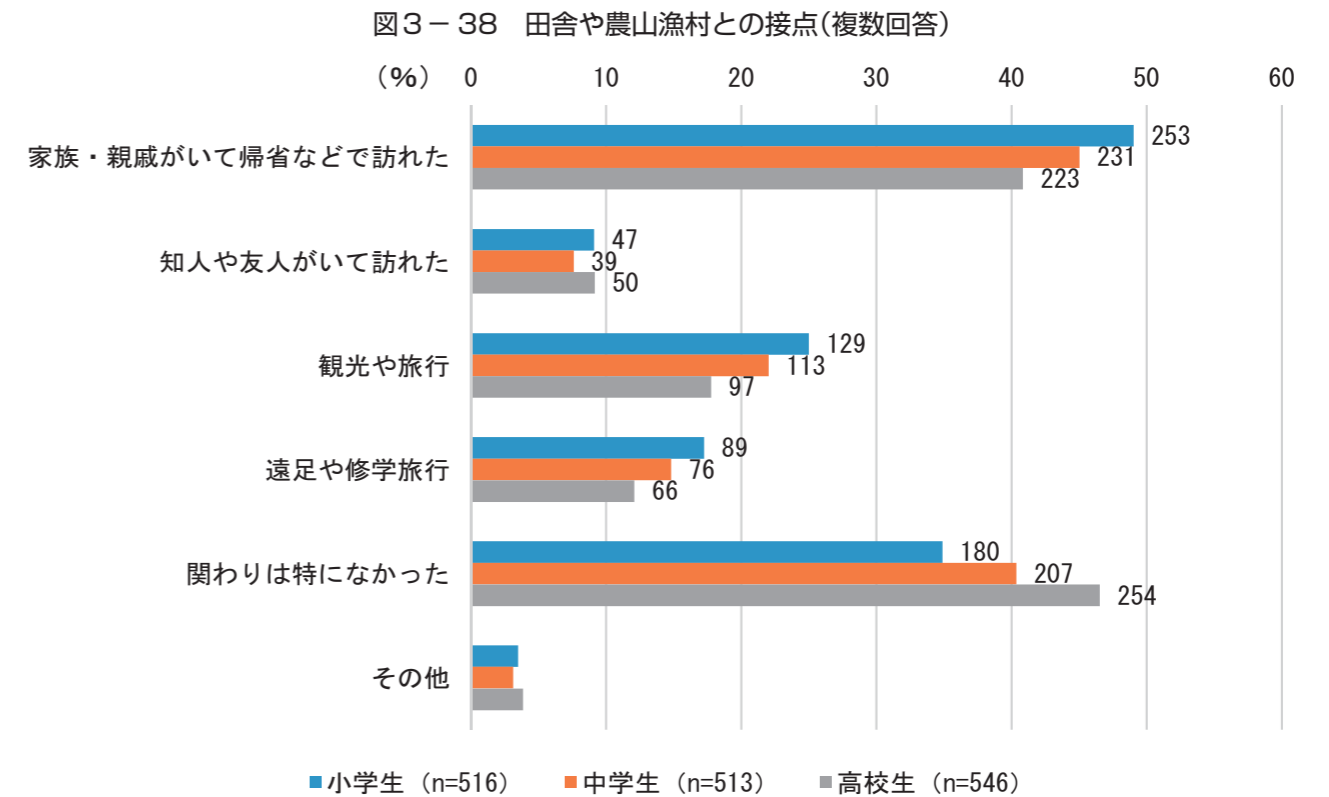
1) 小・中・高の期間の居住地

Iターン者の小・中・高それぞれの期間の居住地については、どの期間も「現在お住まいの居住地よりは都会」が、小学生：404人（49.1%）、中学生：412人（49.9%）、高校生：453人（54.8%）と回答が多くなっています（図3-37）。

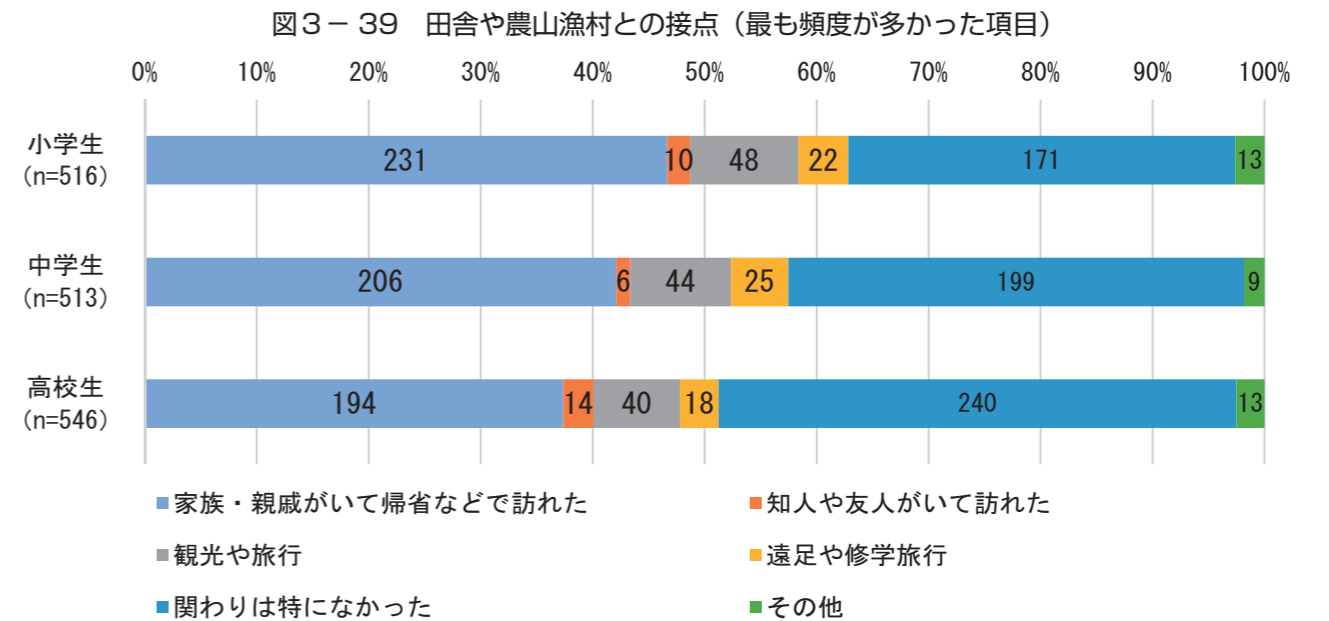


2) 田舎や農山漁村との接点、暮らすことに対する意識

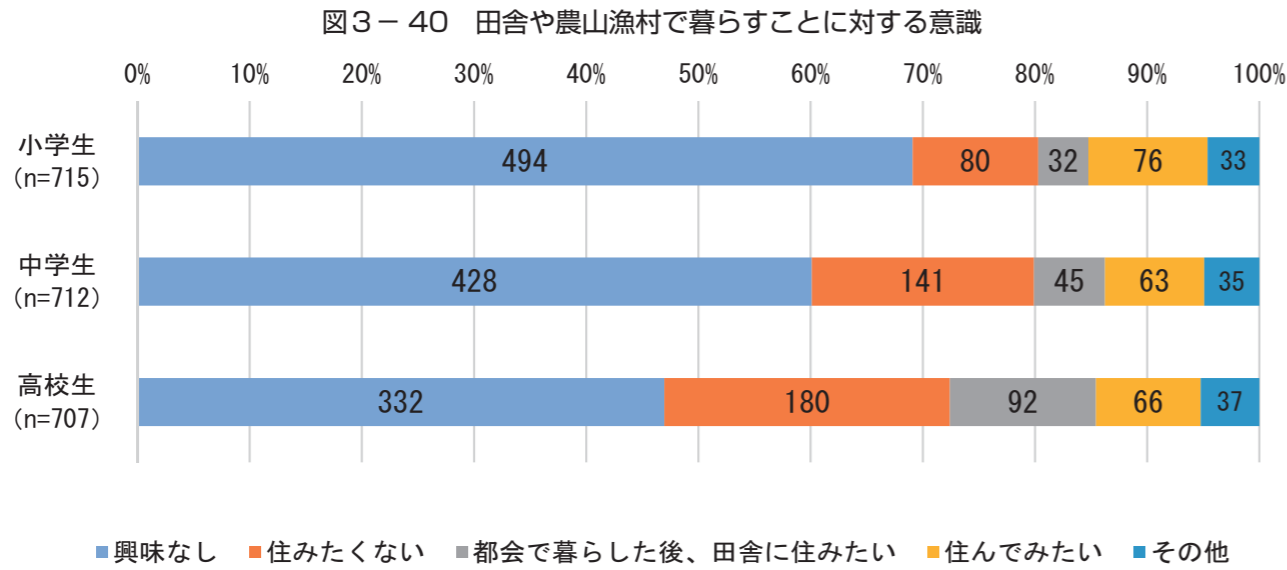
小・中・高それぞれの期間における田舎や農山漁村との接点については、小・中学生の期間は「家族や親戚がいて帰省などで訪れた」が小学生：253人（49.0%）、中学生：231人（45.0%）と最も多く、高校生の期間は、「関わりは特になかった」が254人（46.5%）と最も多くなっています。また、「家族や親戚がいて帰省などで訪れた」「観光や旅行」「遠足や修学旅行」は小学生、中学生、高校生になるにつれて回答数は減少し、一方で「関わりは特になかった」の回答数は小学生から高校生になるにつれて増加しています（図3-38）。



田舎や農山漁村との接点の中で最も多かった項目についても同様に、小学生の期間は「家族・親戚がいて帰省などで訪れた」が231人（46.7%）と最も多く、中学生、高校生になるにつれて「関わりは特になかった」が増加しています（図3-39）。



小・中・高それぞれの期間における田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識については、いずれの期間も「興味なし」が小学生：494人（69.1%）、中学生：428人（60.1%）、高校生：332人（47.0%）と最も多くなっています。また、小学生から高校生になるにつれて「住みたくない」、「都会で暮らした後、田舎に住みたい」が増加している一方で、「住んでみたい」の回答の割合はあまり変化していないことがわかります（図3-40。）

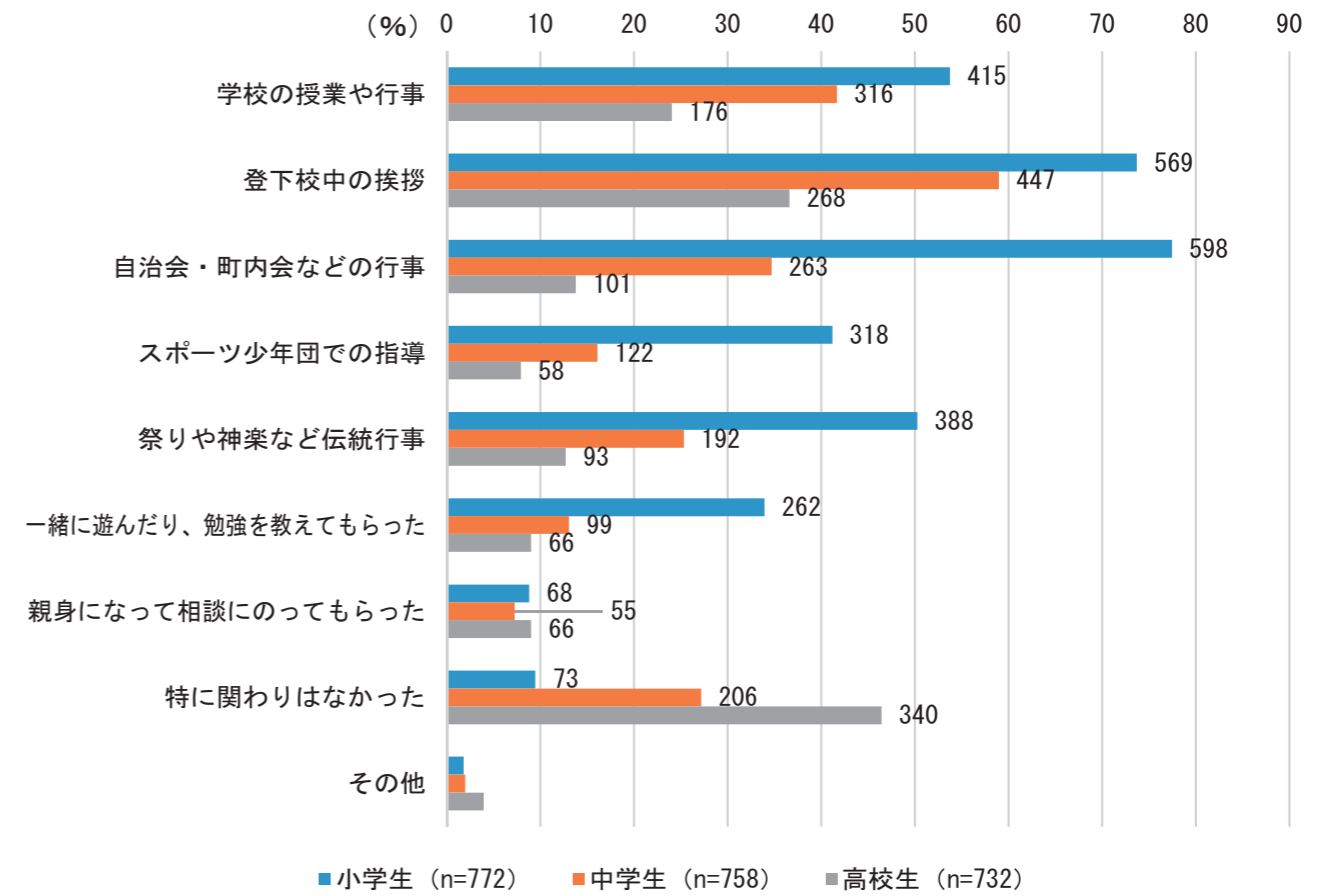


3) 地域との関わり

小・中・高それぞれの期間に住んでいた地域との関わりについては、小学生の期間は「自治会・町内会などの行事」が598人（77.5%）と最も多く、次いで「登下校中の挨拶」が569人（73.7%）と多くなっています。中学生の期間は「登下校中の挨拶」が447人（59.0%）と最も多く、次いで「学校の授業や行事」が316人（41.7%）と多くなっています。高校生の期間は、「特に関わりはなかった」が340人（46.4%）と最も多く、次いで「登下校中の挨拶」268人（36.6%）と多くなっています。

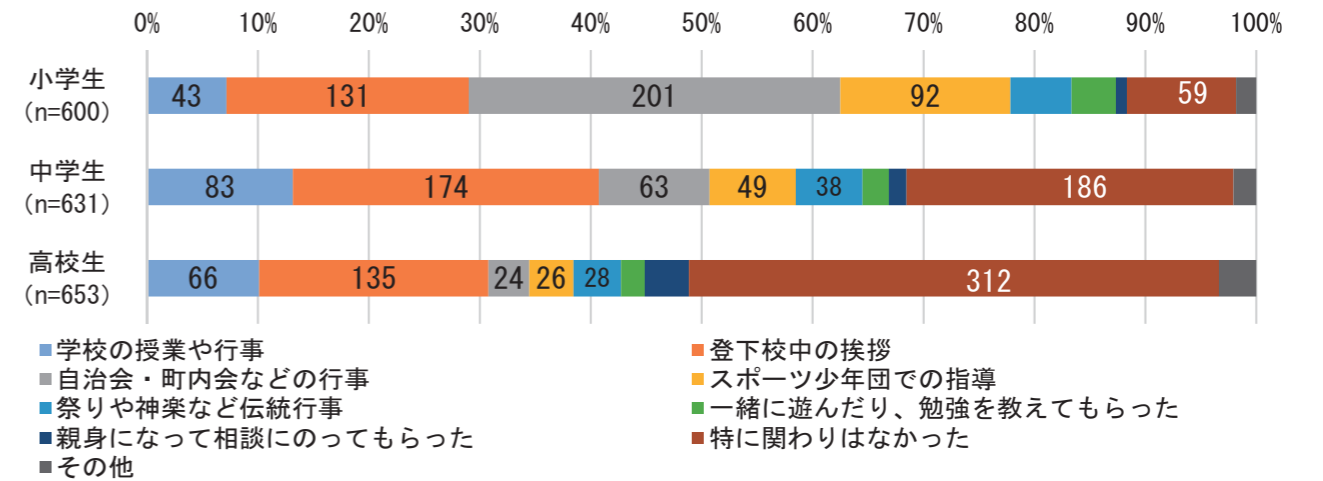
小学生の期間は各項目への回答数が多くなっていますが、中学生、高校生になるにつれて回答数は減っており、「特に関わりはなかった」の回答は増えています（図3-41）。

図3-41 地域との関わり（複数回答）



また、小・中・高それぞれの期間の地域との関わりについて最も関わりが多かった項目を比較すると、小学生の期間は「自治会・町内会などの行事」201人（33.5%）と最も多く、中学生、高校生になるにつれて「自治会・町内会などの行事」や「スポーツ少年団での指導」の回答が減り、「特に関わりはなかった」の回答の割合が増えています（図3-42）。

図3-42 地域との関わり（最も関わりが深かった項目）

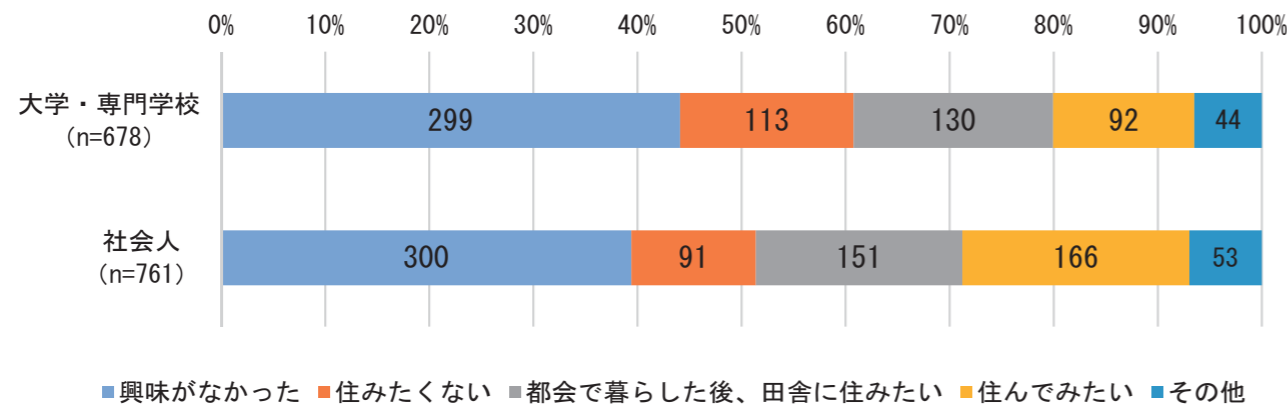


(2) 高校卒業以降の田舎や農山漁村との関わり

1) 田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識

高校卒業以降の田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識については、大学・専門学校の期間は「興味なし」が299人(44.1%)と最も多く、次いで「都会で暮らした後、田舎に住みたい」が130人(19.2%)と多くなっています。社会人の期間も同様に「興味なし」が300人(39.4%)と最も多く、次いで「住んでみたい」が166人(21.8%)と多くなっています。大学・専門学校生から社会人になるにつれ、「住んでみたい」の回答が多くなっています(図3-43)。

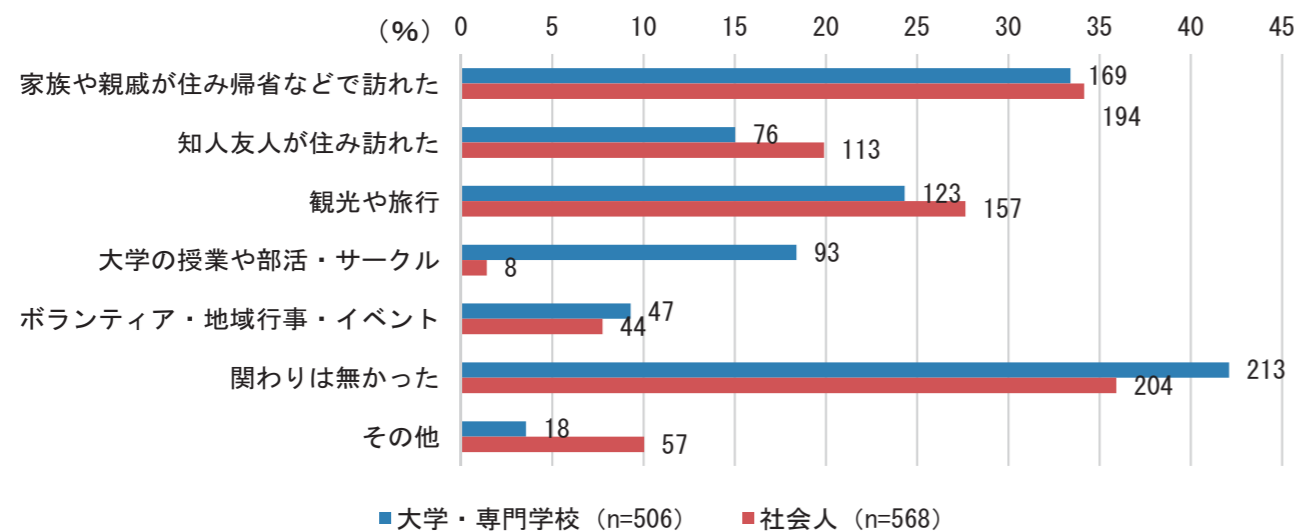
図3-43 田舎や農山漁村で暮らすことに対する意識



2) 田舎や農山漁村への訪問理由

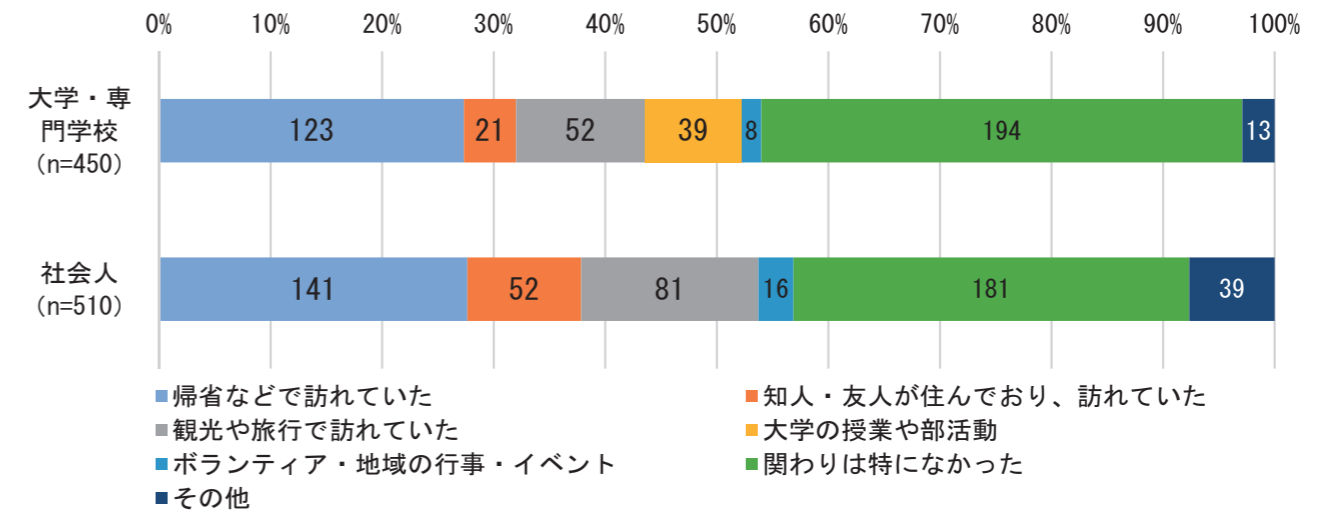
田舎や農山漁村への訪問理由については、両期間共に、「関わりは特になかった」が大学・専門学校:213人(42.1%)、社会人:204人(35.9%)と最も多くなっています。次いで「家族や親戚が住んでおり、帰省などで訪れていた」「観光や旅行」の回答が多くなっており、社会人の期間の方が田舎や農山漁村に訪問していたことがわかります(図3-44)。

図3-44 田舎や農山漁村への訪問理由(複数回答)



田舎や農山漁村への訪問理由で最も頻度が多かったものについても「関わりは特になかった」が両期間とも最も多くなっており、社会人の期間は大学生と比較して、「知人・友人が住んでおり、訪れていた」「観光や旅行で訪れていた」の回答の割合が高くなっています(図3-45)。

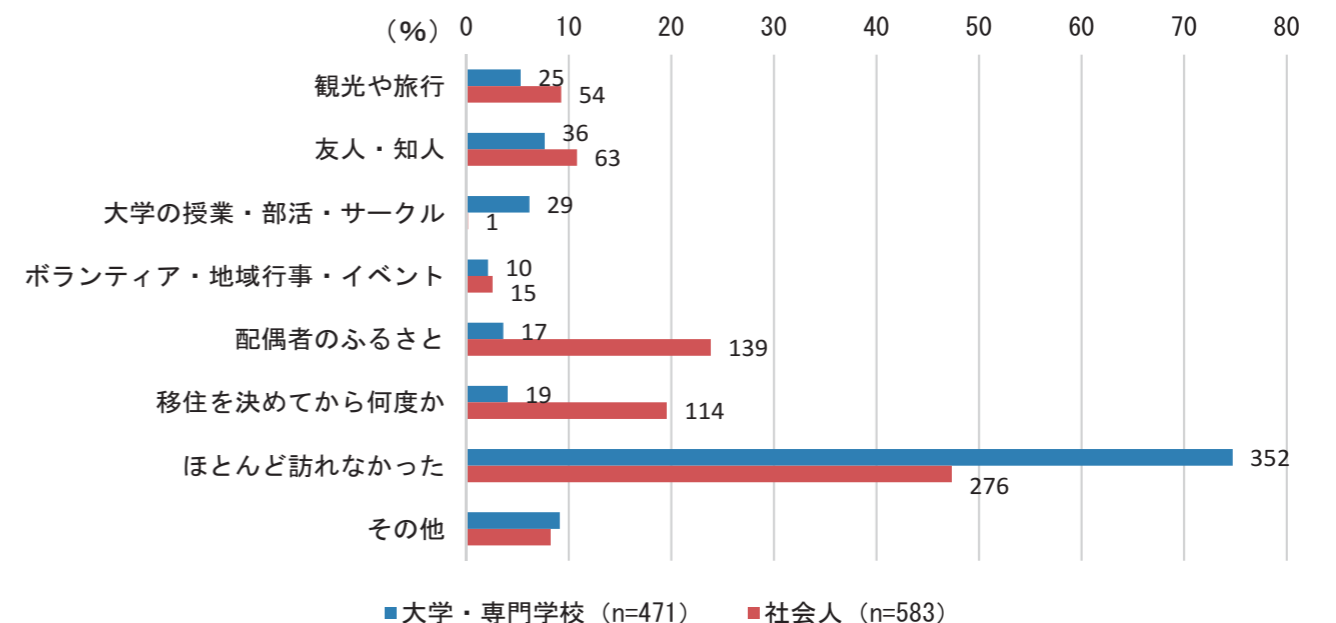
図3-45 田舎や農山漁村への訪問理由(最も頻度が多かった項目)



3) Iターン先との関わり

大学・専門学校、社会人の期間におけるIターン先との関わりについては、両期間とも「ほとんど訪れなかった」が大学・専門学校:352人(74.7%)、社会人の期間:276人(47.3%)と最も多くなっています。社会人の期間は「配偶者のふるさと」139人(23.8%)、「移住を決めてから何度か」114人(19.6%)が大学・専門学校の期間よりも多くなっています(図3-46)。

図3-46 Iターンした地域との関わり(複数回答)



6. 小括

島根・鳥取の8町村の中山間地域にお住まいの20～44歳世代へのアンケート調査結果から、若者世代が中山間地域に居住することを決めた理由、若者世代が住み続けるために改善が必要なこと、Uターン・Iターン者の背景（子どもの頃の地域との関わり等）について、以下のことが明らかになりました。

1) 若者世代が居住地を決めた理由

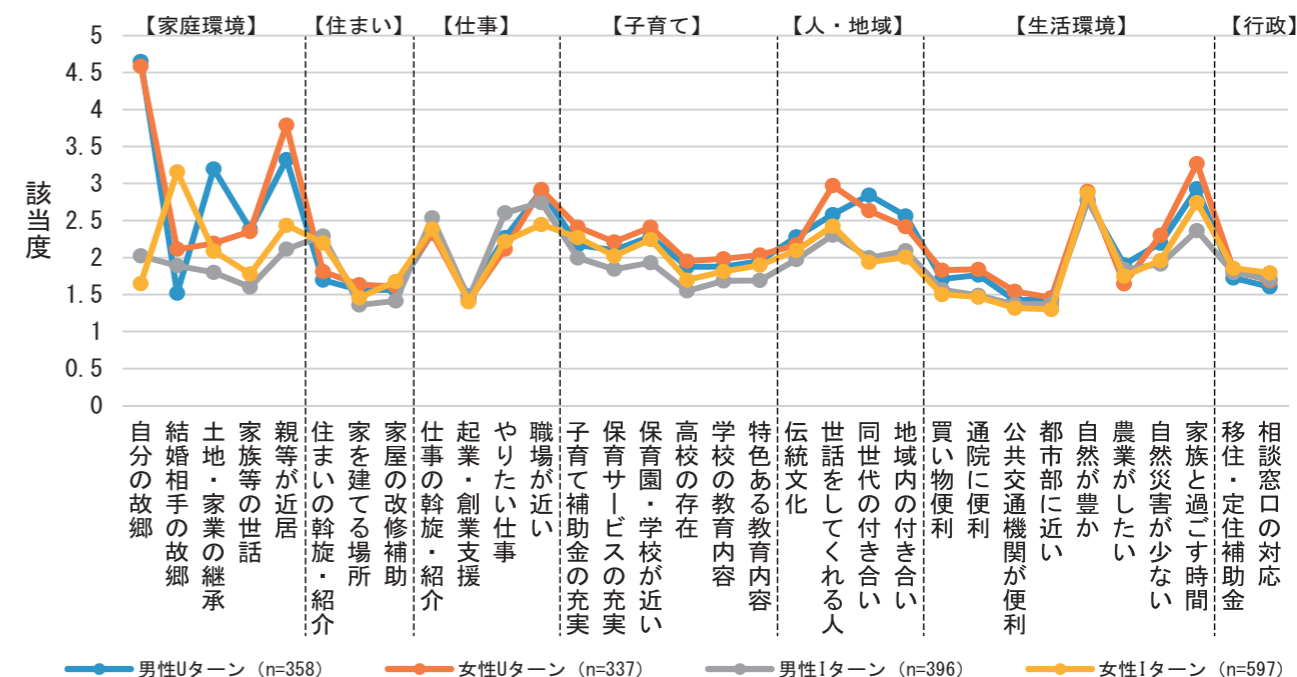
若者世代が中山間地域に住むことを決めた理由として回答が多い項目は、「自分の故郷」「親等が近居」「職場が近い」「家族と過ごす時間」「自然が豊か」、また属性間では以下のような特徴がみられました（表3-3）。

表3-3 属性ごとの居住地を決めた理由

属性		居住地を決めた理由のうち、属性間で特徴がみられた項目	
転居状況別	Uターン、継続居住	【家庭環境分野】自分の故郷、親等が近居	
	Iターン	結婚相手の故郷	
性別	男性	自分の故郷、土地・家業の継承、同世代の付き合い	
	女性	結婚相手の故郷、子育て補助金の充実、世話をしてくれる人	
移住時の家族構成	ひとり暮らし	【仕事分野】、職場が近い、やりたい仕事、仕事の斡旋・紹介	
	家族有り	配偶者有り	【住まい分野】
		子ども有り	【住まい分野】【子育て分野】、同世代の付き合い、地域内の付き合い

転居状況別、性別の居住地決定理由の重視度をみたとところ、男性Uターンは「故郷だから」「土地・家業の継承」「親等が近居」といった家庭環境に加え、「同世代の付き合い」「地域内の付き合い」の項目が高くなっています（図3-47）。女性Uターン者は男性Uターン者と同様に家庭環境に加え、特に子育て分野の項目、「職場が近い」「世話をしてくれる人」「家族と過ごす時間」が高くなっています。男性Iターン者は他の属性と比較すると全体的に点数が低いですが、その中でも「仕事の斡旋・紹介」「職場が近い」「やりたい仕事」が高くなっています。女性Iターン者は「結婚相手の故郷だから」が高くなっています。このように、居住地を決めた理由は1つではなく、複数の理由が存在していると考えられます。

図3-47 転居状況×性別の居住地を決めた理由



注：点数化の方法は、前掲図3-8を参照。

2) Uターン・Iターン時に活用した情報・制度

若者世代が中山間地域に居住することを決めた理由に関連して、居住地を決める際には「移住・定住補助金」「相談窓口の対応」は他の項目よりも該当度が低くなっていました。移住時にUターン者は家族や親族から情報を得ており、Iターン者は家族・親族、勤め先、友人・知人・行政機関等のホームページから情報を得ています。活用した制度については、Uターン者は「仕事の斡旋・紹介」「転入補助金」、Iターン者は「住まいの斡旋・紹介」「仕事の斡旋・紹介」「移住相談窓口への相談」「住まいに関する助成金」を活用されています。以上のことから、行政支援はUターン・Iターンを決める際の決定打というより、他の要因と組み合わせる中でUターン・Iターンの後押しとしての効果を発揮していると推察されます。

今後も移住・定住に関連する施策や事業を充実させることは必要ですが、それに加えてUターン・Iターンを検討している方々に必要な情報を提供すること、特にUターン者は家族や親族から人伝えで情報を提供することが重要であると考えられます。

3) 今後も若者世代が住み続けるために充実が必要な事項

若者世代が現在の暮らしに対して不満に感じている項目は以下のとおりです（表3-4）。満足度が低い項目については、Uターン・Iターン者だけでなく継続居住者も不満に思っている項目であるため、若者世代の定住を進める上では、不満な項目に対する改善策を検討していく必要があります。

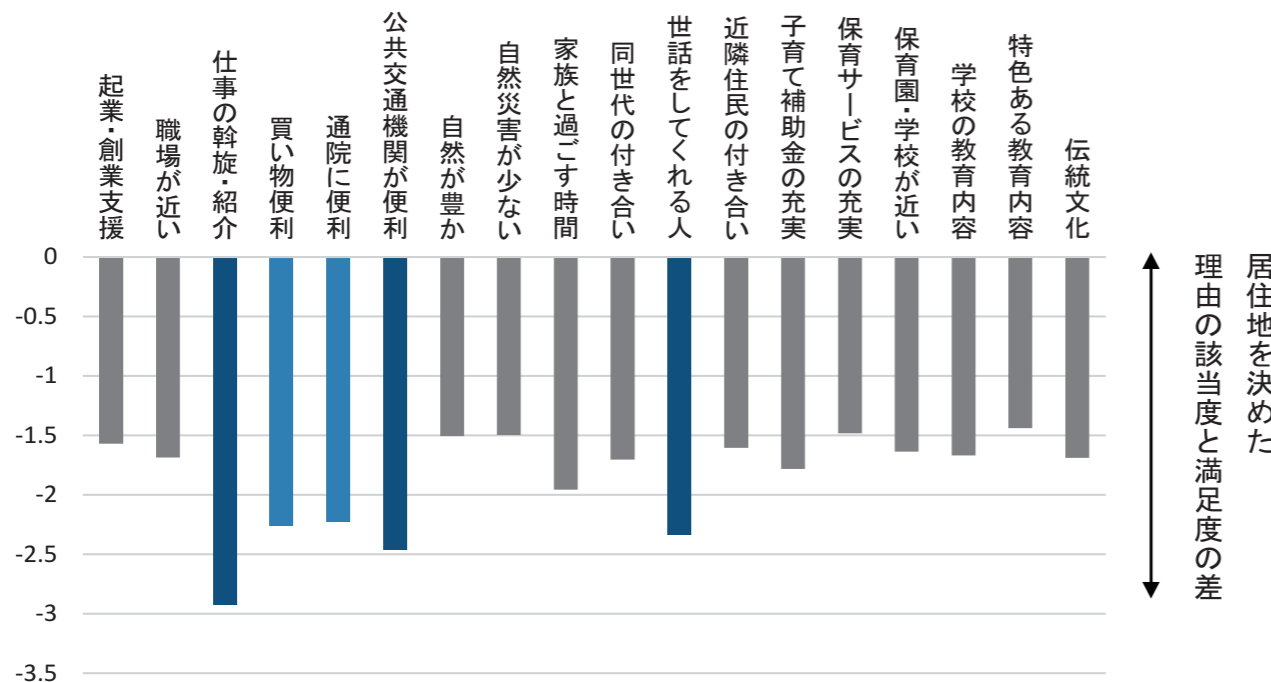
表3-4 現在の暮らしに対して不満に感じていること

分野	不満に感じている項目
仕事	求人情報の充実
子育て	習い事や塾、部活動
生活環境	物価の安さ、買い物の利便性、公共交通機関の利便性 医療機関の充実度、医療機関へのアクセス
人・地域	若者が意見を言いやすい

属性別の特徴については、特にIターン者は生活環境の分野（物価の安さ、買い物・公共交通機関の利便性、医療機関の充実度・アクセス）の満足度が低くなっています。中山間地域での暮らしを経験したことがあるUターン者やその土地で暮らし続けている継続居住者に比べて、Iターン者は移住後の暮らしについて十分に想定できていないことが要因として考えられます。そこで、居住地を決めた理由と生活の満足度の類似した項目について、点数化したものの差をみることで、Iターン者が移住前後のギャップを感じているものを確認しました（図3-48）（点数化については20ページ図3-8、27ページ図3-20を参照）。

その結果、特に「仕事の斡旋・紹介」「公共交通機関の利便性」「世話をしてくれる人」「買い物に便利」「通院に便利」の項目で差が大きく、これらの項目でIターン者は移住前後のギャップを感じている傾向が確認されました。

図3-48 Iターン者の居住地を決めた理由（移住前）と満足度（移住後）の差



注：点数化の方法については、前掲図3-8、3-20を参照。

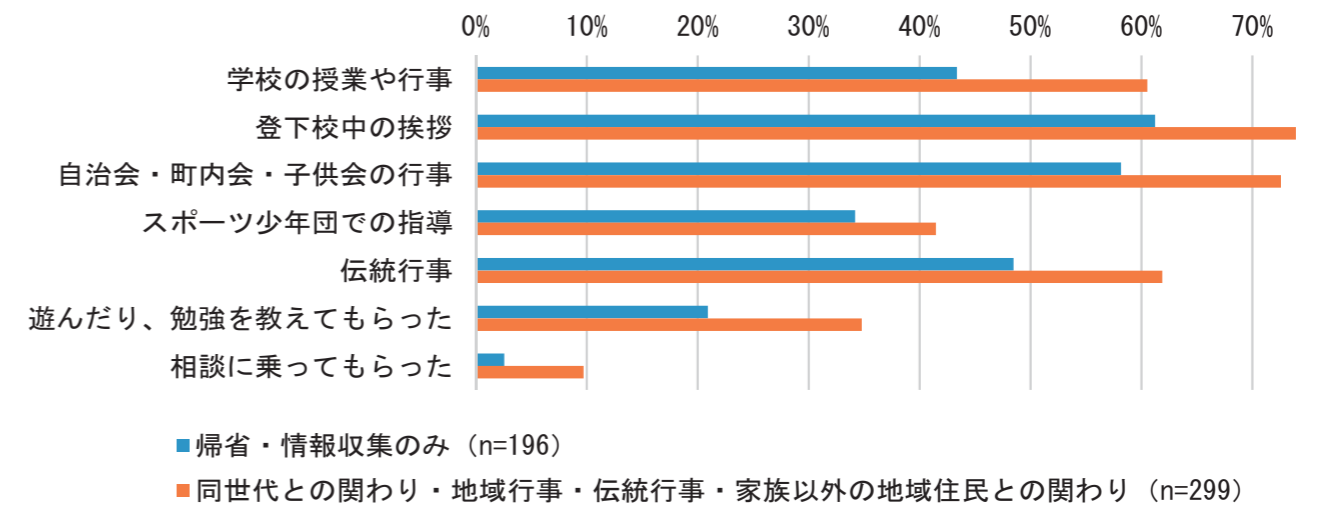
4) Uターン者・Iターン者の背景（地域との関わり）

子どもの頃の地域との関わりもUターン・Iターンの要因として考えられるのではないかとという仮説のもと、Uターン・Iターンされた方の子どもの頃の背景について把握しました。

その結果、Uターン者は小学生の期間「自治会・町内会・子供会の行事」などで地域との関わりを持っていたものの、中学、高校生になるにつれて地域との関わりが薄くなり、同時に他出意向も強まる傾向が確認されました。他方、他出後は帰省中に地域行事に参加する、同世代との付き合いを維持している方や、進学や就職をきっかけに一旦は他出しても、家族や友人がいることで、すぐにUターンするつもりはなくとも出身地とつながっている方が多くいることが確認されました。

また、社会人の期間の出身地との関わりについて、「帰省・情報収集のみ」の他出者と「同世代との関わり・地域行事・伝統行事・家族以外の地域住民との関わり」のあった他出者を比較すると、後者の方が小学生の頃、地域との関わりに関する各項目への回答数の割合が高くなっていることが分かります（図3-49）。したがって、小学生の頃に地域と関わりを持っていた方は他出後も、帰省で家族に会うだけでなく、同世代との関わりや地域行事・伝統行事への関わりを維持していると考えられます。

図3-49 出身地との関わり（社会人の頃）別の地域との関わり（小学生）

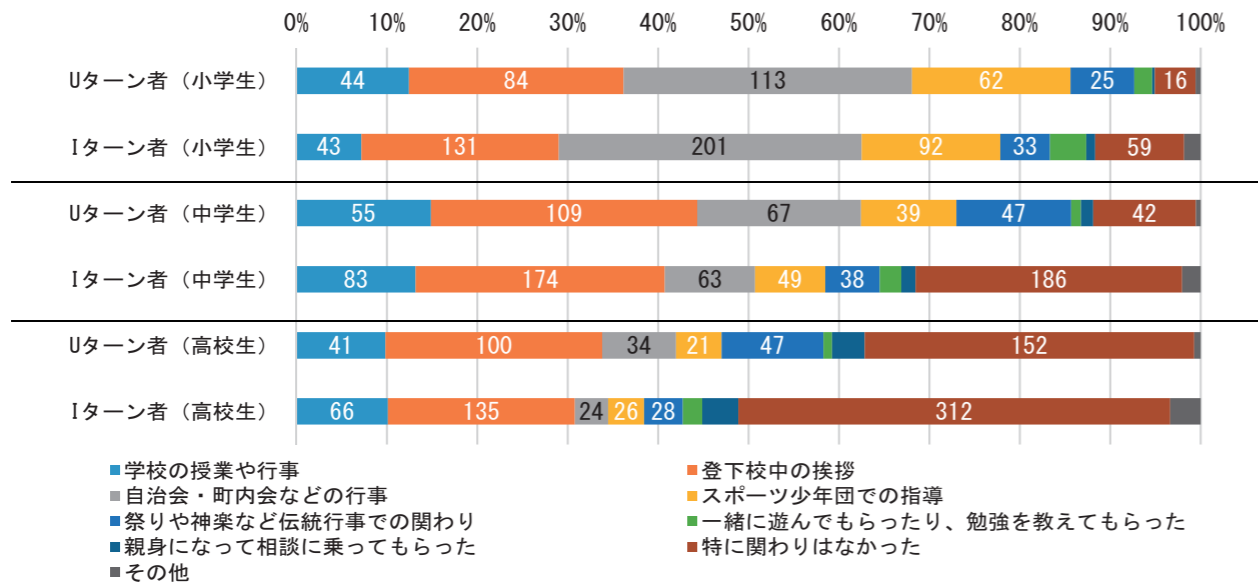


Iターン者はUターン者以上に、小学生から高校生になるにつれて地域との関わりが薄くなっています（図3-50）。また、6割程度の方が子どもの頃に田舎や農山漁村を訪れた経験がある（小学生の期間）と回答しており、その中でも「家族・知人がおり訪れていた」が多くなっています。一方で実際にIターンした土地との関わりは約半数の方が接点を持っていなかったと回答しています。

したがって、Iターンされた方は子どもの頃に田舎や農山漁村との関わりがあった、大学生や社会人の期間も関わりがあったから現在住んでいる土地にIターンしているとは言い難い結果となりました。ただし、Iターン前の田舎や農山漁村との接点が意味をなさないわけではなく、大学時代の地域への関与や「関係人口」の取組は近年充実してきたところなので、そういった関わりを持っていた人々が今後Iターンすることは期待できると考えられます。その背景には子どもの頃の田舎や農山漁村での原体験があることでより一層Iターンの可能性が高まるのではないかと推察され、今後検証が必要です。

第4章 高校生の地域やふるさとに対する意識

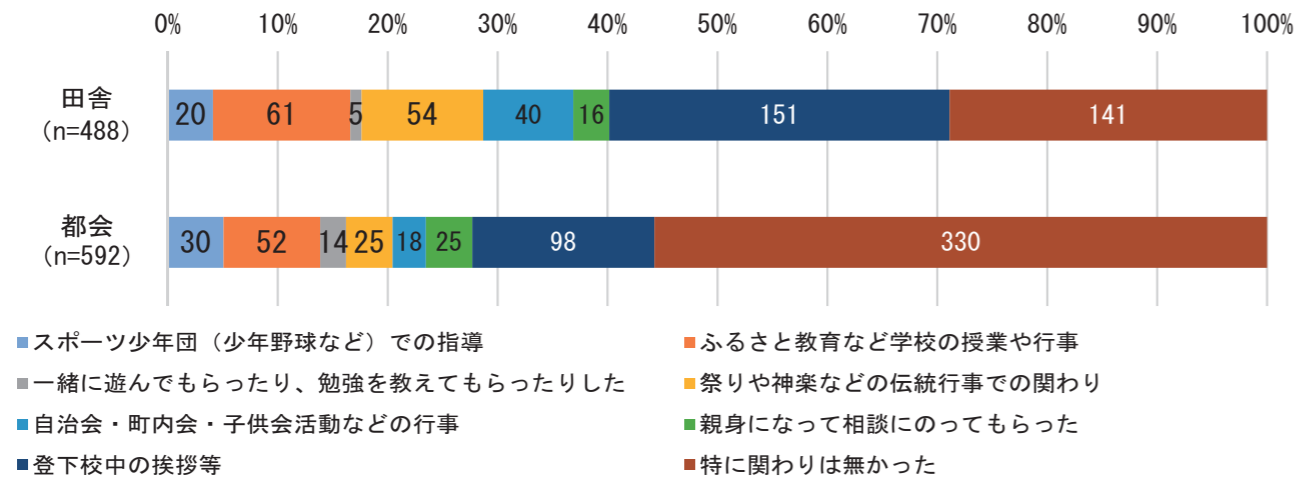
図3-50 地域との関わり（最も頻度が多かった項目・Uターン比較）



高校生の頃の居住地別で地域との関わりを確認したところ、高校生の頃、田舎に住んでいた方は、「登下校中の挨拶」が最も多くなっていますが、都会に住んでいた方は「特に関わりは無かった」が最も多くなっています（図3-51）。「ふるさと教育など学校の授業や行事」「祭りや神楽などの伝統行事での関わり」「自治会・町内会・子供会活動などの行事」も田舎に住んでいた方が回答の割合が高く、地域との関わりが多いことが分かります。

したがって、都市部よりも田舎の方が地域との関わりを持つ機会が多いことが分かります。

図3-51 高校生の頃の居住地別の地域との関わり（最も頻度が多かったもの）



注：田舎は「現在お住まいの居住地」「どちらかという田舎」の回答者
 都会は「どちらかという都会」「都市部（首都圏・関西圏・中京圏）」の回答者

1. アンケート調査の概要

(1) 対象者・調査方法・回答状況

本調査では、高校生の卒業後の進路やふるさと教育の効果、高校卒業後の地域やふるさとへの意識を把握するために、鳥取県日野郡に在住している高校生および島根県の高校に通う学生へのアンケート調査を実施しました（島根県の高校生を対象としたアンケート調査は、島根県・島根県教育委員会が実施したものを活用）。

表4-1 対象者・調査方法・回答状況

	鳥取県（日野郡）	島根県
対象者	日南町、日野町、江府町に居住する 高校1～3年生	島根県内の高校3年生 (定時制県立高校や私立も含む)
調査方法	各対象者あてに文書を発送 対象者から直接返送	各学校あてに文書発送 各学校を通じて回収
調査時期	令和元年8月7日～8月31日	平成31年2月15日～3月8日
回収率 (回収数/対象者数)	49.1% (115/234)	93.4% (5,880/6,293)
実施主体	島根県中山間地域研究センター	島根県・島根県教育委員会
内容	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の進路 就職、進学の原因 ふるさと教育の影響 地域やふるさとへの意識の把握 	

(2) 回答者の状況

回答者の性別は、鳥取(日野郡)が男性57人(49.6%)、女性58人(50.4%)、島根が男性3,066人(52.1%)、女性2,771人(47.1%)と男女の割合はおおよそ半々となっています。卒業後の進路については、「県外進学」鳥取(日野郡)46人(40.0%)・島根2,946人(50.4%)の割合が最も高くなっており、「県外就職」鳥取(日野郡)1人(0.9%)・島根345人(5.9%)と合わせると約半数近くが高校卒業後に県外へ他出することが分かります。また、鳥取(日野郡)については、高校1・2年生も調査対象に含まれており、島根県と比べると「未定・その他」の回答の割合が高い傾向にあります(表4-2)。

表4-2 回答者の状況

	鳥取県 (日野郡)	島根県
学年	1年生：32(27.8) 人 (%) 2年生：40(34.8) 3年生：42(36.5)	3年生
性別	男性：57(49.6) 人 (%) 女性：58(50.4)	男性：3,066(52.1) 人 (%) 女性：2,771(47.1)
居住地	日南町：45(39.1) 人 (%) 日野町：34(29.6) 江府町：36(31.3)	
卒業後の進路	県内進学：12(10.4) 人 (%) 県内就職：39(33.9) 県外進学：46(40.0) 県外就職：1(0.9) 未定・その他：17(14.8)	県内進学：1,300(22.3) 人 (%) 県内就職：1,087(18.6) 県外進学：2,946(50.4) 県外就職：345(5.9) 未定・その他：164(2.8)

(3) 回答結果についての注意点

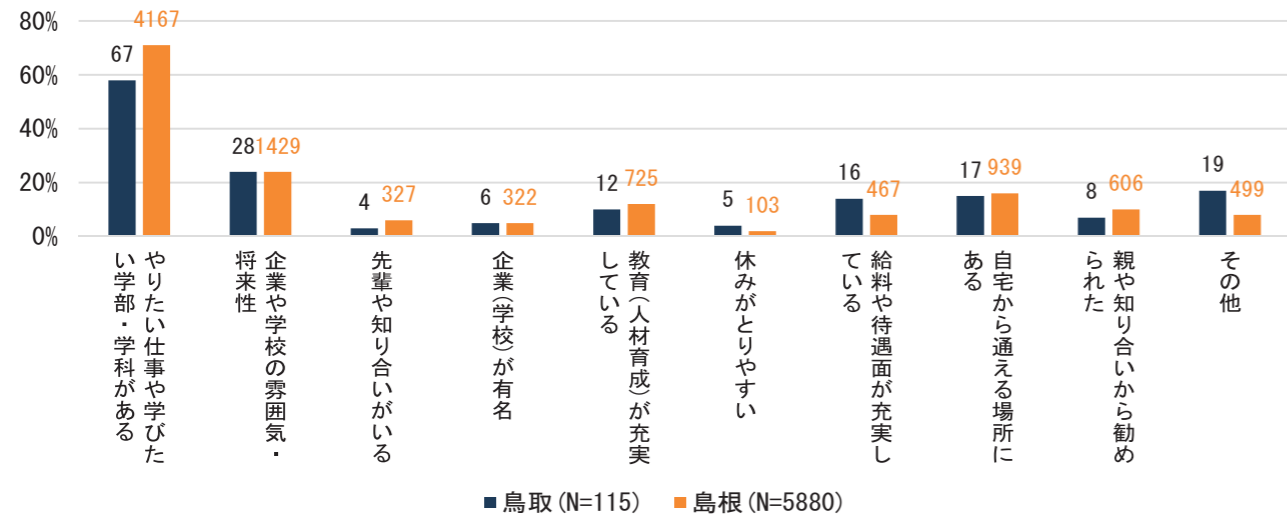
調査結果については、鳥取県（日野郡）と島根県では調査対象者（学年、居住地ベースか学校ベースかなど）や調査時期、サンプル数などの条件が異なるため、鳥取県（日野郡）、島根県の傾向として単純比較はできないので、ご注意ください（表4-1参照）。

2. 調査結果～高校生の地域やふるさとに対する意識～

(1) 進路を決めた理由

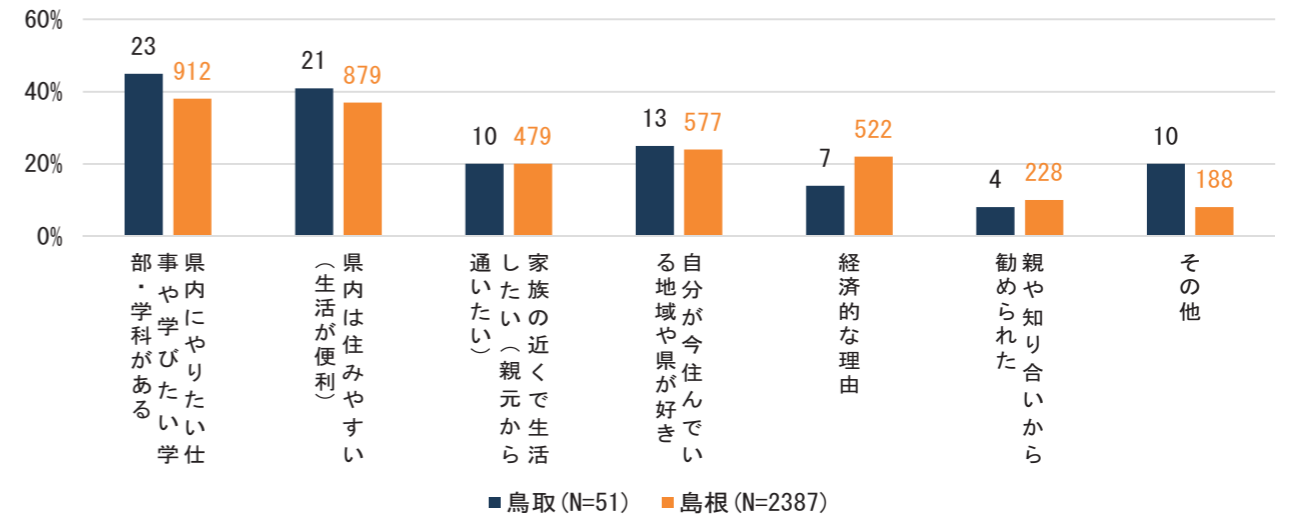
進路を決めた理由は、「やりたい仕事や学びたい学部・学科がある」が鳥取（日野郡）67人（58.0%）・島根4,167人（71.0%）と最も高くなっており、次いで「企業や学校の雰囲気・将来性」鳥取（日野郡）28人（24.0%）・島根1,429人（24.0%）の順となっています（図4-1）。

図4-1 進路を決めた理由(複数回答)



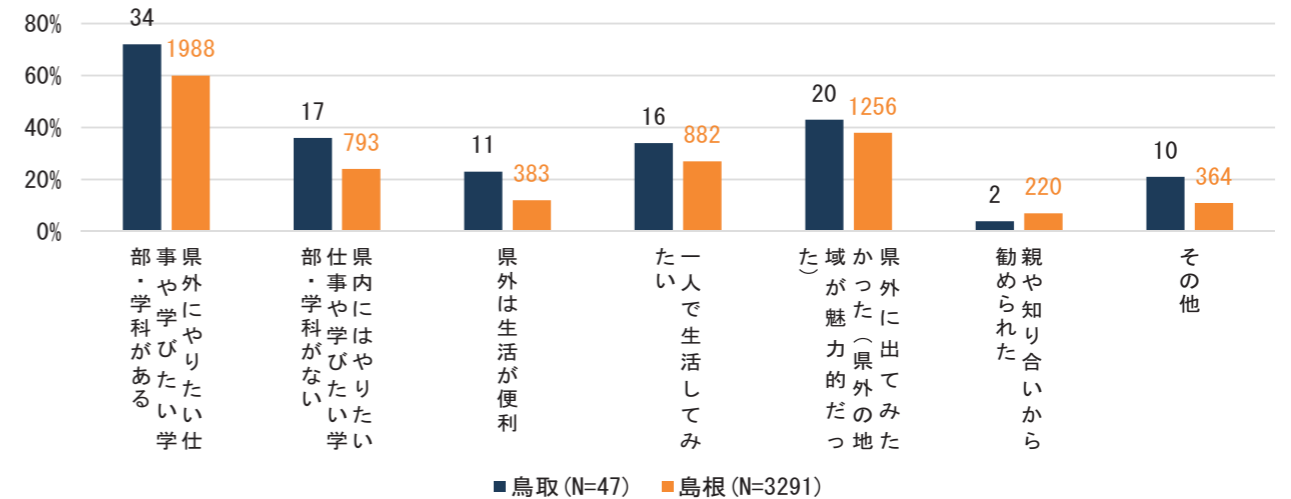
県内への進路を決めた理由は、「県内にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある」が鳥取（日野郡）23人（45.0%）・島根912人（38.0%）の回答が最も高く、次いで「県内は住みやすい」鳥取（日野郡）21人（41.0%）・島根879人（37.0%）、「自分が今住んでいる地域や県が好き」鳥取（日野郡）13人（25.0%）・島根577人（24.0%）の順となっています（図4-2）。

図4-2 県内への進路を決めた理由(複数回答)



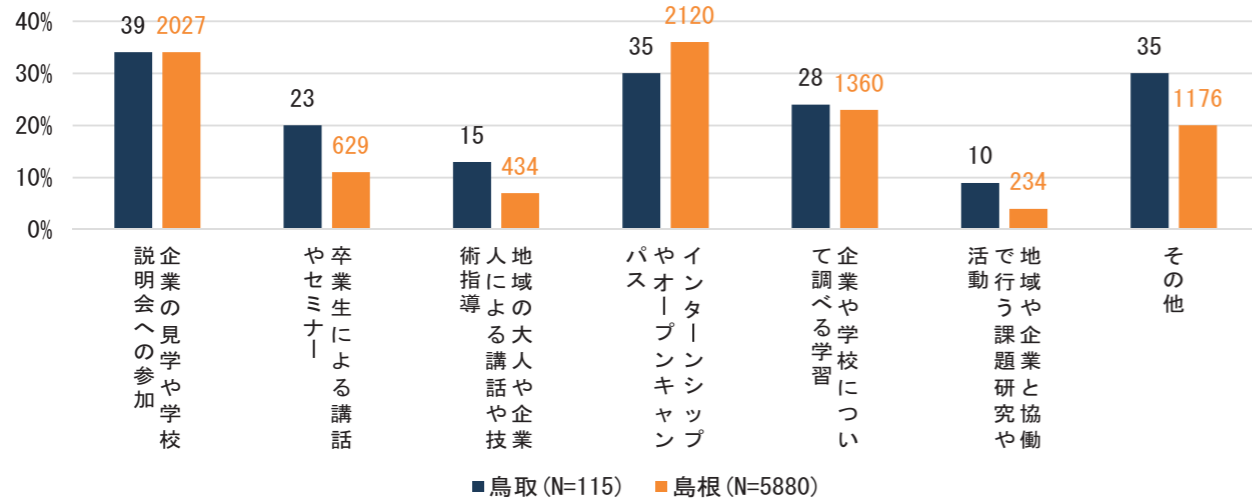
県外への進路を決めた理由は、「県外にやりたい仕事や学びたい学部・学科がある」が鳥取（日野郡）34人（72.0%）・島根1,988人（60.0%）が最も多く、次いで「県外に出てみたかった」鳥取（日野郡）20人（43.0%）・島根1,256人（38.0%）の順となっています（図4-3）。

図4-3 県外への進路を決めた理由(複数回答)



進路決定にあたり、参考になった高校での取組は、鳥取（日野郡）は、「企業の見学や学校説明会」39人（34.0%）が最も多く、次いで「インターンシップやオープンキャンパス」35人（30.0%）の順となっており、島根は「インターンシップやオープンキャンパス」2,120人（36.0%）が最も多く、次いで「企業の見学や学校説明会」2,027人（34.0%）の順となっています（図4-4）。

図4-4 進路決定にあたり、参考になった高校での取組（複数回答）



ふるさと教育の効果については、鳥取（日野郡）・島根ともに「地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が習得できた」の項目が最も評価が高くなっており、「ふるさと教育が、自分の進路決定に影響している」、「ふるさと教育が、自分の将来像を描くことに影響している」の項目については島根の方が、評価が高い傾向にあります（図4-6）。

図4-6 ふるさと教育の効果（ふるさと教育を受けた人のみ回答）

（鳥取（日野郡）N=99、島根N=4,316）

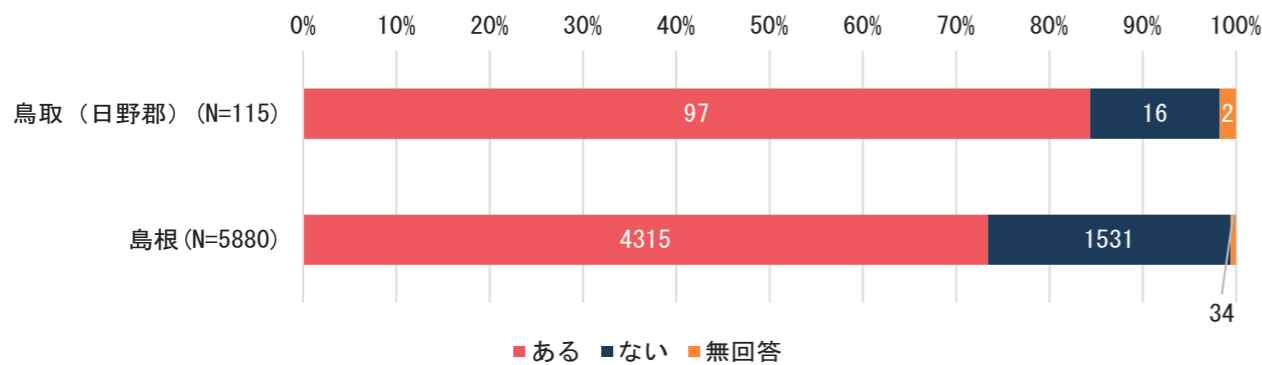
項目	効果点	
	鳥取（日野郡）	島根
学ぶ喜びや充実感を味わい、学習意欲の向上につながった	0.60	0.88
地域の方々との会話や接することで、コミュニケーションの力や思いやりの気持ちが身に付いた	0.97	0.93
ふるさとへの愛着や誇りを感じるようになった	0.84	0.97
地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業等の知識が習得できた	1.18	1.14
「ふるさと教育」が、自分の進路決定に影響している	-1.06	-0.31
「ふるさと教育」が、自分の将来像を描くことに影響している	-0.93	-0.17

※効果点：各項目について「あてはまる」2点～「あてはまらない」-2点と評価し、回答数で除して算出

(2) ふるさと教育の経験の有無と効果

ふるさと教育の経験の有無を見ると、「ある」が鳥取（日野郡）97人（84.3%）・島根4,315人（73.3%）で鳥取（日野郡）の方が1割程度高くなっています（図4-5）。なお、島根県の回答には県外出身者も含まれるため、ふるさと教育の経験が「ない」の回答が鳥取県（日野郡）よりも高くなっていると考えられます。

図4-5 ふるさと教育の経験の有無

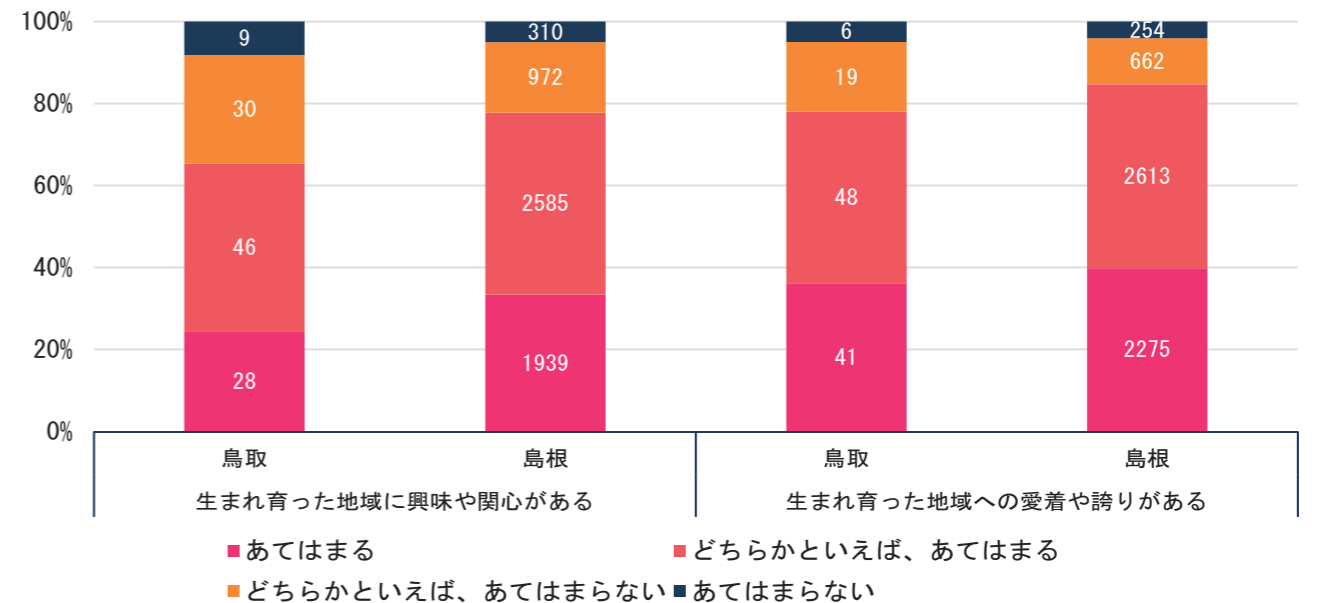


(3) ふるさとや高校時代に過ごした地域への意識について

地域への愛着については、島根県・鳥取県ともに「生まれ育った地域に興味や関心がある」は約7割が「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答しています。また「生まれ育った地域への愛着や誇りがある」は約8割が「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答しています。

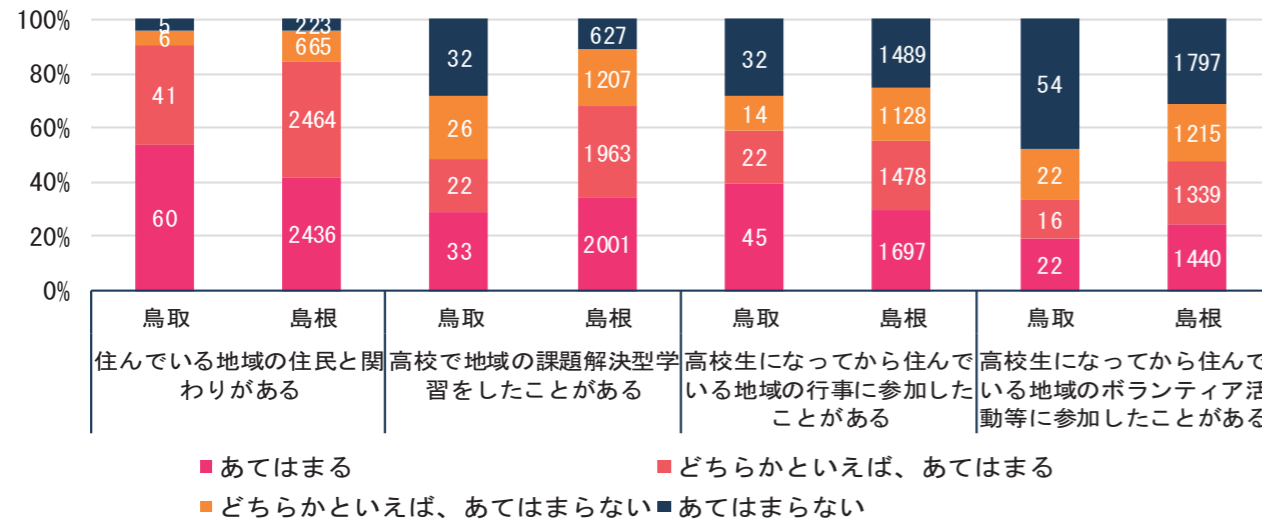
図4-7 ふるさとへの意識（地域への愛着）

（鳥取（日野郡）N=115、島根N=5,880）



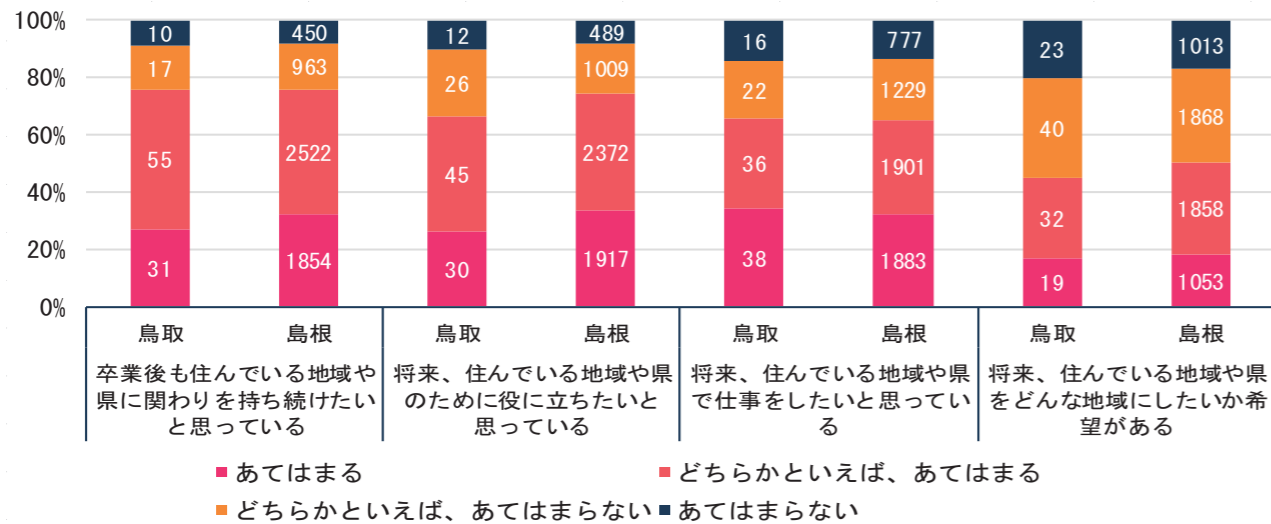
地域との関わりについて、鳥取（日野郡）は、「住んでいる地域の住民と関わりがある」、「高校生になってから住んでいる地域の行事に参加したことがある」の順に「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」との回答した割合が高くなっており、島根は「住んでいる地域の住民と関わりがある」、「高校で地域の課題解決型学習をしたことがある」の順となっています（図4-8）。

図4-8 ふるさとへの意識（地域との関わり）
（鳥取（日野郡）N=115、島根N=5,880）



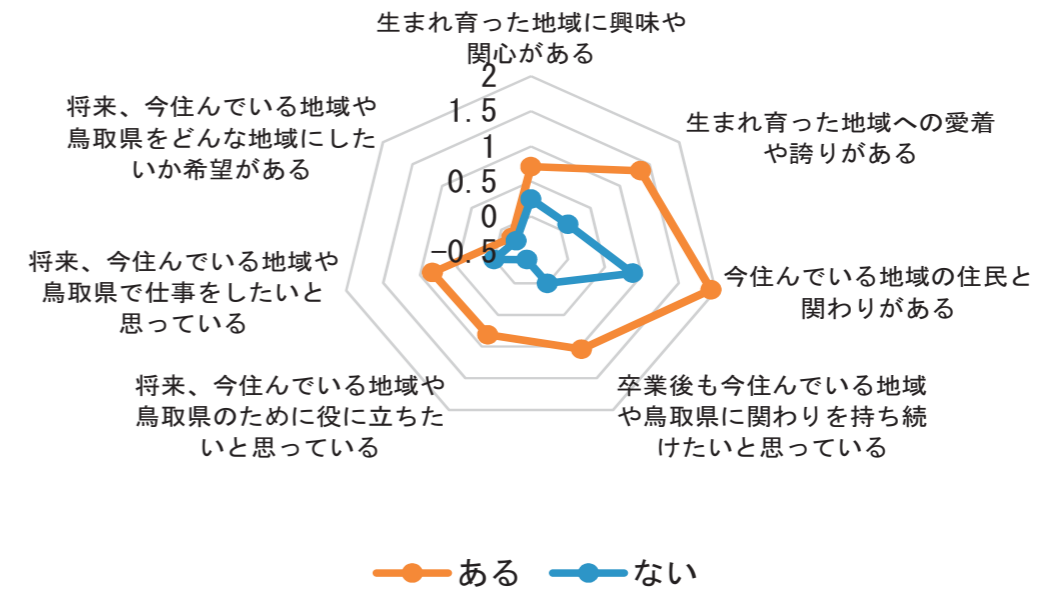
地域貢献意欲について、「卒業後も、自分が今住んでいる地域や鳥取県・島根県に関わりを持ちたい」、「将来、自分が今住んでいる地域や鳥取県・島根県のために役に立ちたい」、「将来、自分が今住んでいる地域や鳥取県・島根県で仕事をしたい」の順に「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」との回答が多くなっており、各項目ともに約7割が「あてはまる」、「どちらかといえば、あてはまる」と回答しています（図4-9）。

図4-9 ふるさとへの意識（地域貢献意欲）
（鳥取（日野郡）N=115、島根N=5,880）



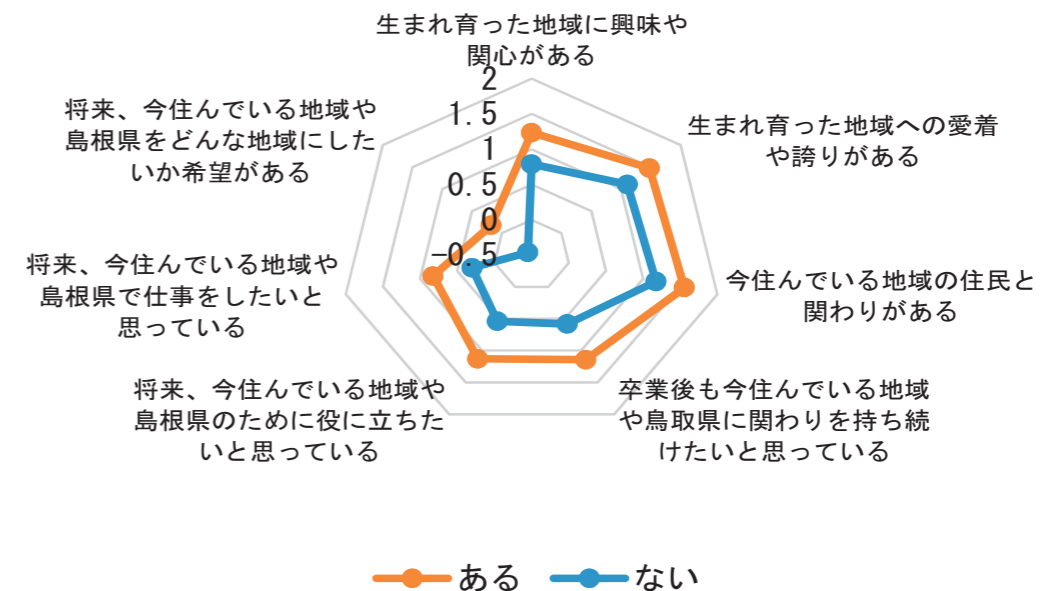
ふるさとへの意識の項目について、鳥取（日野郡）は「生まれ育った地域に興味や関心がある」や「生まれ育った地域への愛着や誇りがある」など、地域への愛着の項目について、島根は「卒業後も今住んでいる地域や島根県に関わりを持ち続けたいと思っている」や「将来、今住んでいる地域や島根県のために役に立ちたいと思っている」など、地域貢献意欲の項目について、ふるさと教育の経験が「ある」と回答した高校生の方が、「ない」と回答した高校生よりも評価が高い傾向にあります（図4-10）（図4-11）。

図4-10 ふるさと教育の経験の有無によるふるさとへの意識（鳥取（日野郡））（N=115）



※各項目について「あてはまる」2点～「あてはまらない」-2点と評価し、回答数で除して算出

図4-11 ふるさと教育の経験の有無によるふるさとへの意識（島根）（N=5880）



※各項目について「あてはまる」2点～「あてはまらない」-2点と評価し、回答数で除して算出

課題解決型学習の経験の有無によるふるさとへの興味・関心の違いを見てみると、「あてはまる」（課題解決型学習の経験がある）と回答した高校生の方がふるさとへの興味・関心が高い傾向が分かりました（図4-12）（図4-13）。

図4-12 課題解決型学習経験の有無によるふるさとへの関心（鳥取（日野郡））（N=113）

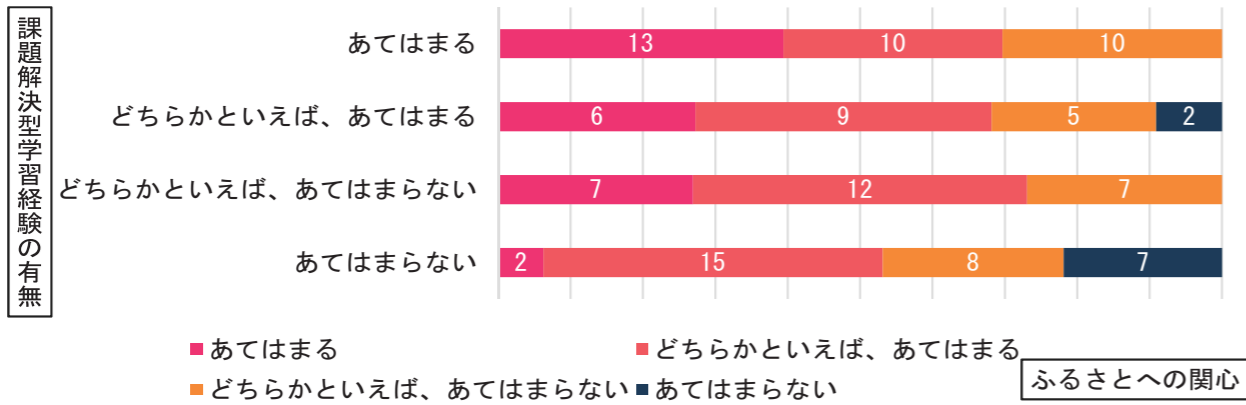
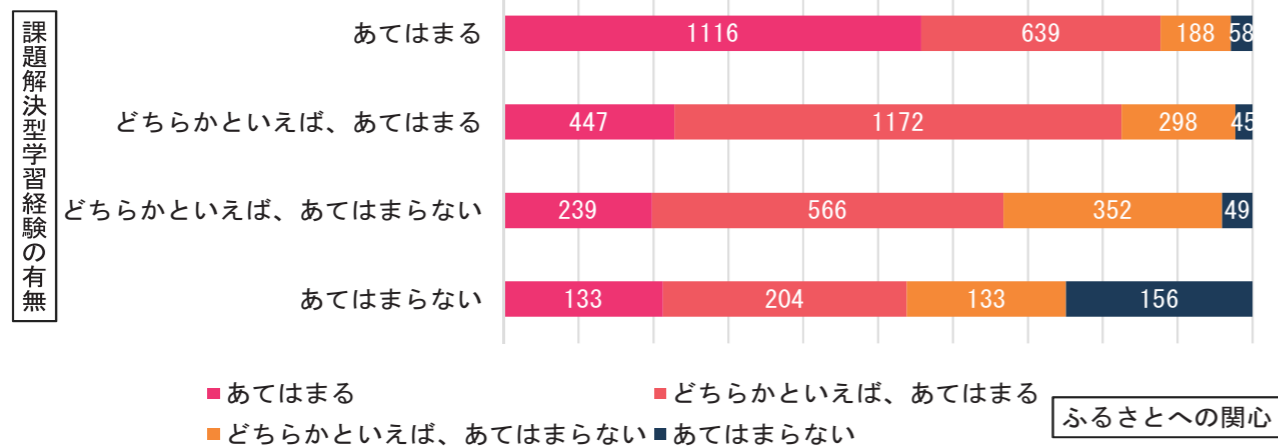


図4-13 課題解決型学習経験の有無によるふるさとへの関心（島根）（N=5,796）



3. 小括

高校卒業後の進路として県外を選択する高校生が約半数を占めるものの、高校卒業後や将来、今住んでいる地域やふるさとに「関わりを持ちたい」、「役に立ちたい」、「仕事をしたい」と7割以上が回答しており、鳥取（日野郡）と島根の高校生は地域貢献意欲がかなり高いことが分かります。

また、ふるさと教育や課題解決型学習の経験がある高校生の方が地域やふるさとへの関心や貢献意欲が高い傾向にあることが明らかになりました。従って、定住人口を持続的に確保していくためには、すぐに効果は表れないものの、長期的な視点を持って、継続的かつ着実にふるさと教育や課題解決型学習などに取り組むことが非常に重要であり、進学・就職を機に他出した子どもたちが将来的にUターンするなどの効果が期待できると考えられます。

第5章 共同研究全体のまとめ

1. 若者世代の定住をめぐる状況の総合分析

(1) 2010年以降、20代の「田園回帰」の動きを確認

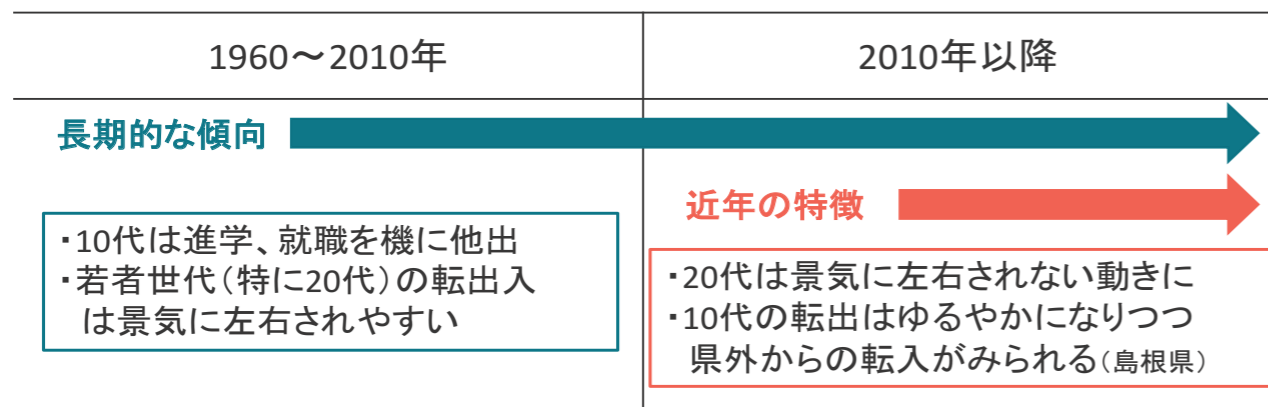
1960年から2010年における若者世代の転出入についてみると、特に20代は景気（有効求人倍率）が良い時は都市部へ転入、景気が悪い時は地元に残る・移住者が入ってくるといった景気と連動する傾向が確認されました。他方、2010～2015年の期間では、景気との連動性は薄くなっており、20代について景気に左右されない都市部から地方への動き、「田園回帰」が確認されました。

また、島根県においては就職や進学をきっかけに県外へと転出する方が多い10代についても、転出が抑えられているもしくは、県外からの転入が増加しているといった動きもみられます。ふるさと教育や高校の魅力化等に取り組んできた成果として、10代の流れも少しずつ変化している可能性があります。

(2) 20代単身で転出、30代家族連れで転入のパターンを確認（2013～2018年）

島根県においては、広島・鳥取・大阪・東京の転出入が多くなっています。また年代別・家族構成別でみると、転出は20代の単身が多く、転入は30代の家族連れ・子ども連れが多くなっています。つまり、前述した2010～2015年の期間に確認された「田園回帰」の状況をより詳細に把握すると、進学・就職をきっかけに単身で県外に転出する方が多いものの、結婚などをきっかけに家族を伴って県外から島根県に転入している方も多いと考えられます。

図5-1 近年の若者世代の人口移動の特徴



転出入の状況(島根県)
 転出: 単身の10～20代が多い
 転入: 家族(子ども連れ)の30代が多い

近年の状況をより詳細に確認

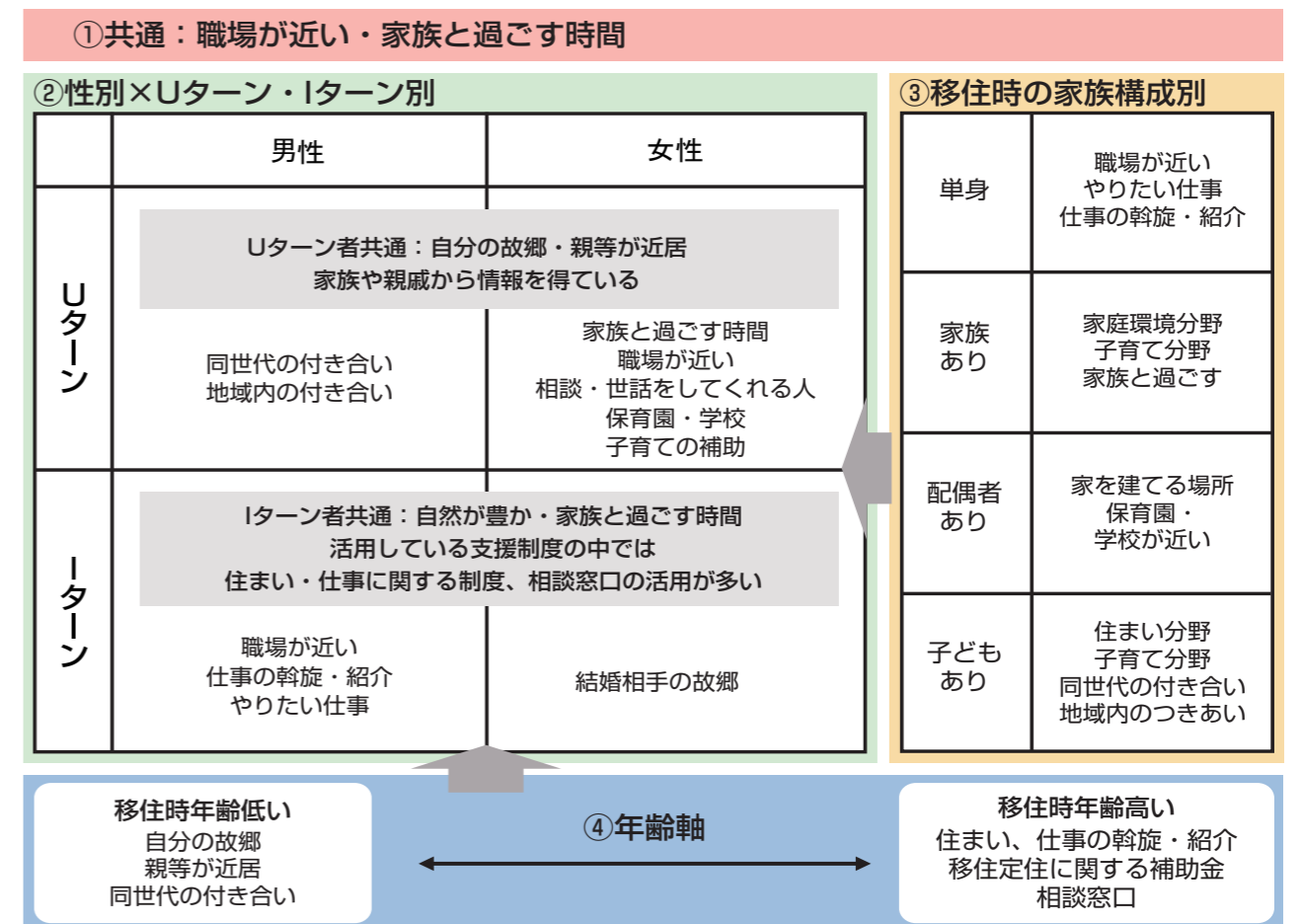
(3) “職場の近さ” “家族と過ごす時間の充実”の実現がポイント

合わせて、属性ごとに合わせた移住促進策の検討が必要

若者世代が中山間地域に居住することを決めた共通の理由は、職場が近い、家族と過ごす時間であり、移住後の暮らしの充実を期待して移住しているといえます。

また、居住することを決めた理由について属性ごとに確認すると、図5-2のように整理されます。性別、Uターン・Iターン移住時の家族構成別、移住時の年代などによって居住地を決める際の理由が異なることがわかりました。したがって、「職場が近い」「家族と過ごす時間の充実」をキーワードにしながら、相談者それぞれの属性に合わせたPRや支援事業を設計することが重要です。

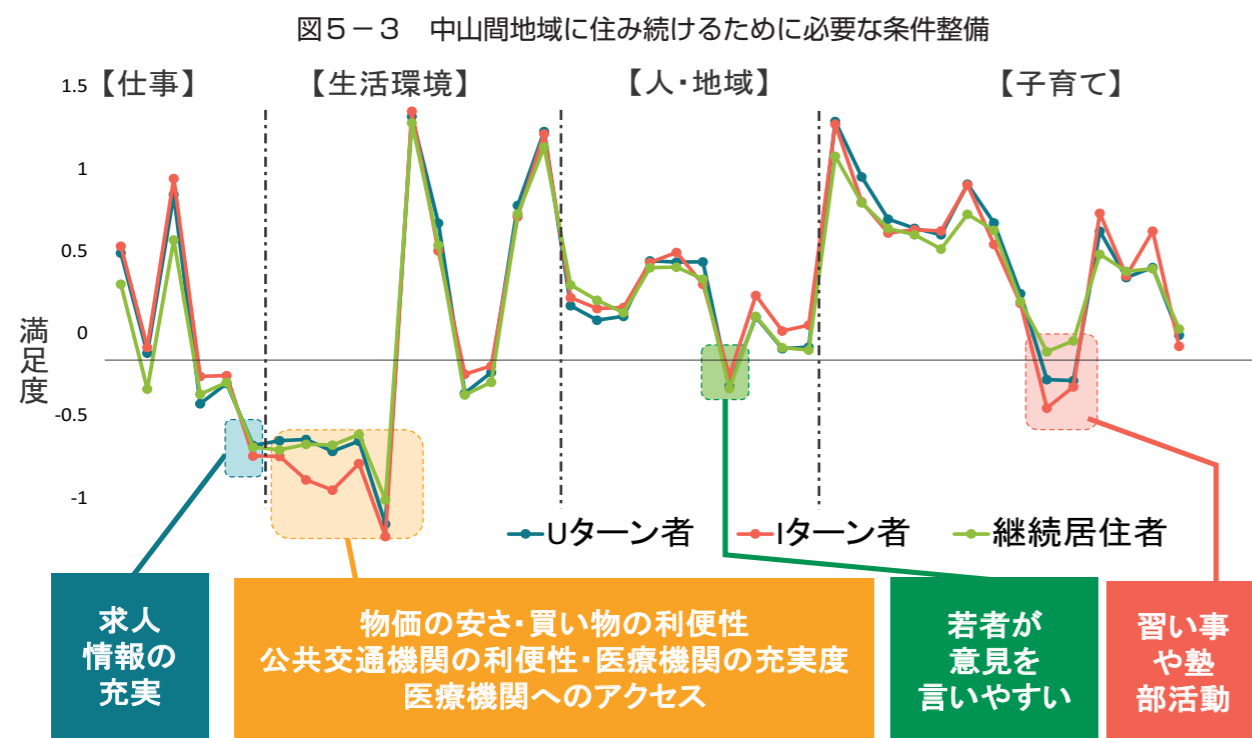
図5-2 属性ごとの居住地を決めた理由



(4) 若者世代が住み続けるために必要な暮らしに係る仕事、生活環境、人・地域、子育て分野の条件整備

現在の暮らしに対する満足度について、自然が豊か、職場が近い、家族と過ごす時間など、居住地を決める際の理由としてあげられていた項目は満足度が高い結果となりました。また、保育所等の入りやすさ、保育サービスの充実、教育費の安さなど子育てに関する項目についても満足度が高くなっています。

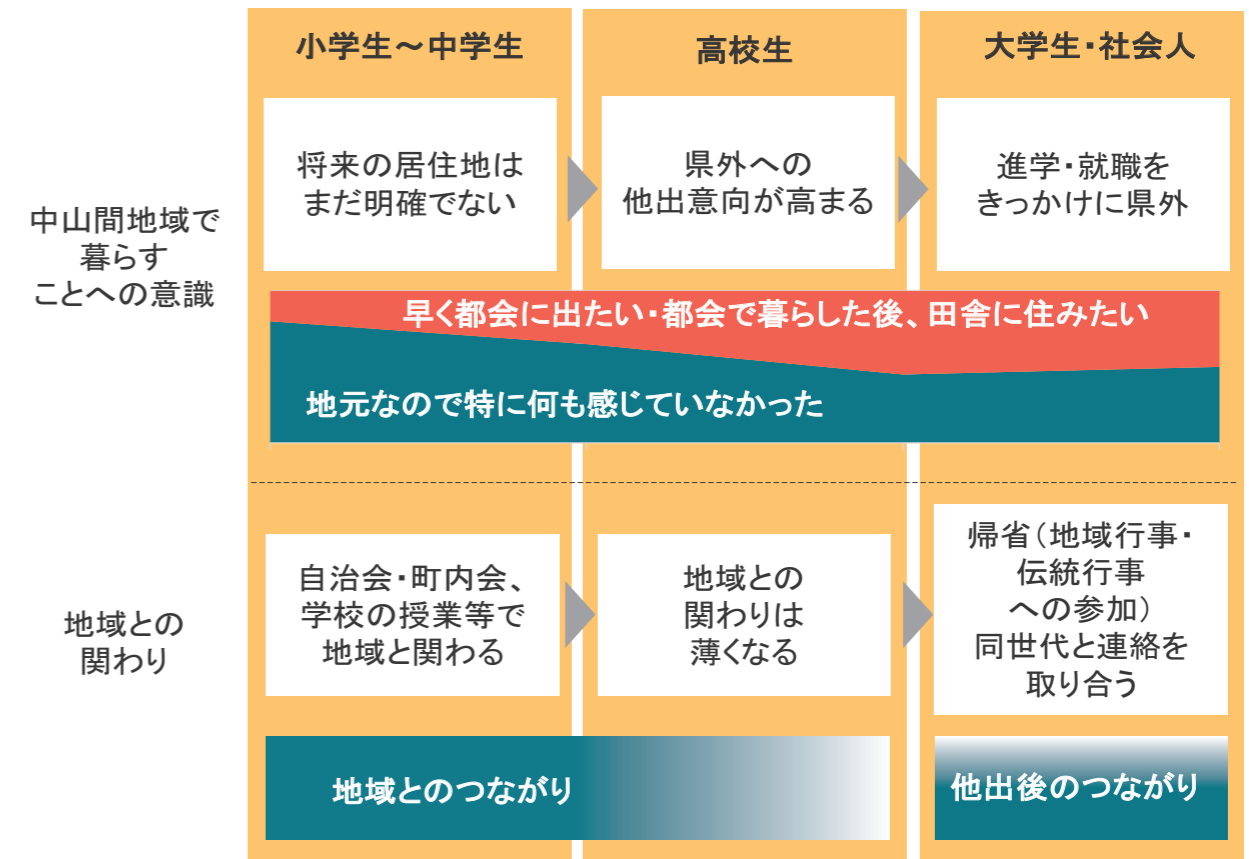
一方で、満足度が低い項目について着目すると、暮らしに係る仕事(求人情報の充実)、生活環境(物価の安さ、買い物の利便性、公共交通機関の利便性、医療機関の充実度、医療機関へのアクセス)、人・地域(若者が意見を言いやすい)、子育て(習い事や塾、部活動)の各分野で満足度が低い項目が確認されました(図5-3)。これらの項目は、Uターン・Iターン者のみならず、継続居住者の満足度も低い項目であるため、若者世代が住み続けるためには改善に取り組む必要があります。



(5) Uターン者は子どもの頃に地域と関わりを持ち、他出後も継続する傾向

実際に戻ってきているUターン者は、他出する前(子どもの頃)に地域との関わりを持っていた人が多く存在します。他方、小学生から高校生になるにつれて地域行事や学校の授業等における地域との関わりは薄くなっており、同時に都会への他出意向も高まっていることが明らかとなりました。また、県外へ他出した後も、地域の行事に参加する、同世代との接点を持っているUターン者も一定数存在し、子どもの頃に地域との関わりがあった人の方が、他出後も継続的に地域との関わりを持っていることも分かりました。

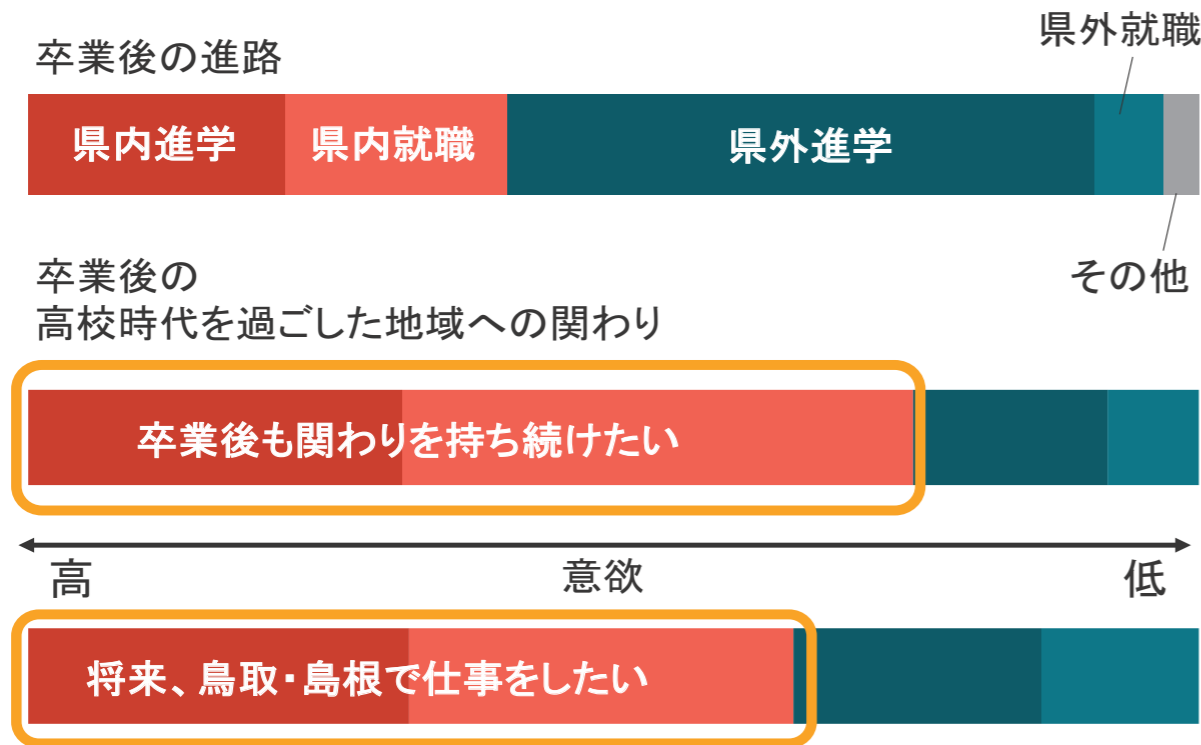
図5-4 Uターン者の地域との関わりと居留意向の変化



(6) 出身地や高校時代に過ごした地域との継続的な関わりの意欲

現役の高校生（日野郡に在住の高校生、島根県内の学校に通う高校生）は卒業後、県外への他出を考えている方が多く存在しています。一方で、卒業後も高校時代に過ごした地域に関わりを持ち続けたい、将来的には島根・鳥取で仕事をしたいと考えている高校生も多く存在していることが分かりました。加えて、ふるさと教育や課題解決型の学習を受けていた高校生の方が卒業後の地域貢献意欲が高いことも分かりました。したがって、学校の授業の中で地域に出て学ぶことや、地域の大人と関わることがふるさと意識や他出後の地域貢献意欲を高めることに寄与していると考えられます。

図5-5 高校生の地域貢献意欲

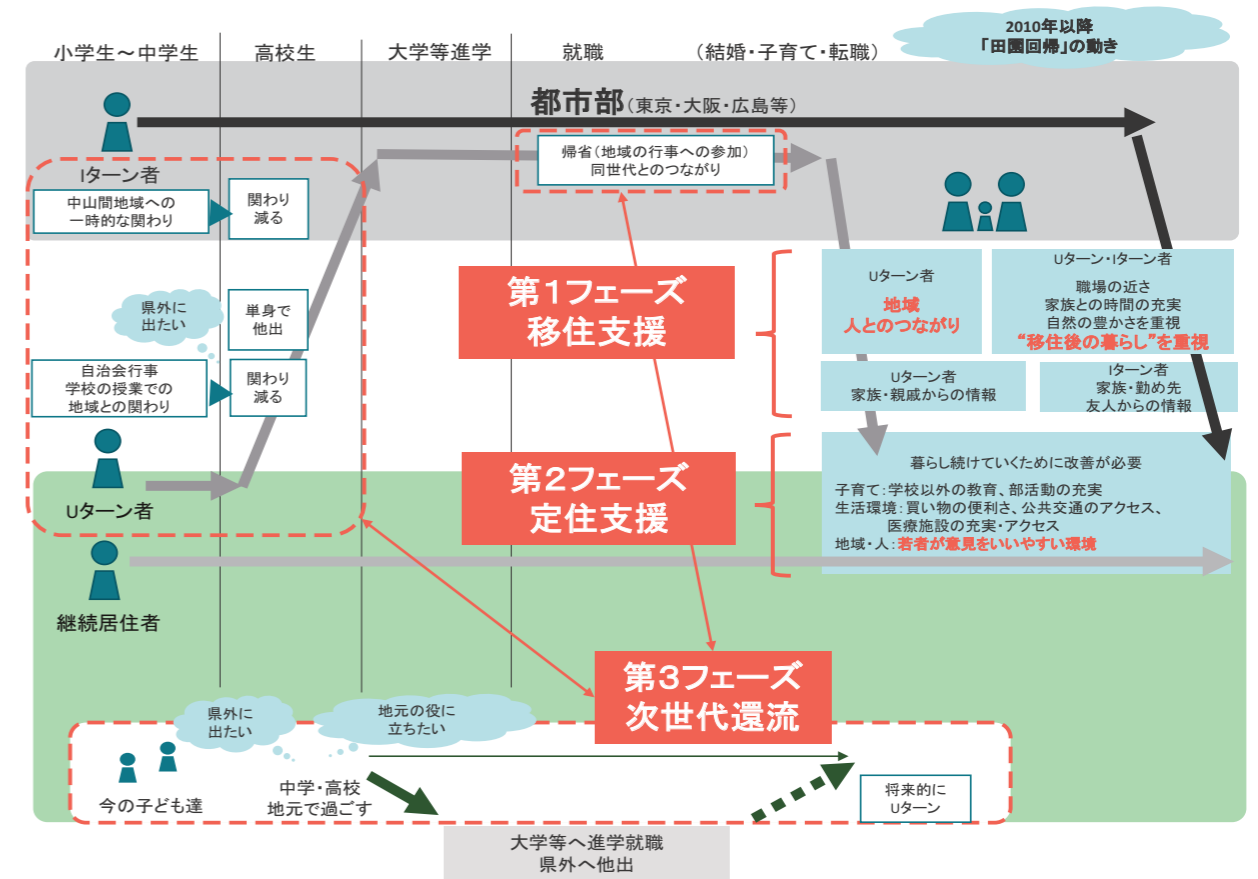


2. 今後必要な視点

1. 若者世代の定住をめぐる状況の総合分析で明らかになったことを踏まえると、若い世代が中山間地域に向かう動きを一時的なものでなく、継続的なものにするためには、短期的な取組として「ターゲットごとの移住支援の明確化」、中長期的な視点で「定住のための条件整備」「次世代環流（現在の子ども達が中山間地域に入ってくる、戻ってくる流れ）」に取り組むことが必要であると言えます。移住定住担当者だけでは対応が困難な項目も多く、県・市町村の連携も必要であり、さらには地域づくりの分野で次世代の育成や地域づくりに取り組む住民組織と若者世代との関わりを進めることも必要です。

以下では、「第1フェーズ：移住支援」、「第2フェーズ：定住支援」、「第3フェーズ：次世代還流」のフェーズごとに、今後必要な視点について整理しました（図5-6）。

図5-6 若者世代が住み続けるために必要な支援のフェーズ



【第1フェーズ：移住支援】

近年、島根・鳥取県に限らず全国の自治体で移住定住施策や事業、情報提供や相談体制は充実しつつあると言えます。今後のUターンの支援については、移住前のニーズとのマッチングや定住の確実性を高めることが重要です。

Uターン者は、出身地に居住する家族や親戚、友人・知人から情報を得ているため、既存の人とのつながりを活用してUターン者に必要な情報を届けることが有効的であると考えられます。

Uターン者については、Uターンする地域との関係が希薄な方が多く、田舎での暮らしを経験したことがない方も存在するため、移住前に移住先の情報（魅力だけでなく、条件の悪さについても）を伝える

【第2フェーズ：定住支援】

移住者を含め若者世代が住み続けるためには、①仕事を軸とした生活の充実、②子どもが育つ環境の充実、③生活基盤の整備、④地域住民やコミュニティとの関係性の4つの項目の改善が必要です（図5-9）。若者世代が住み続けるための条件を備えていくためには、①～④の項目について中長期的な視点で取組が必要であり、かつ地域づくりの分野や教育の分野との連携も必要であると言えます。

① 仕事を軸とした生活の充実

「求人情報の充実」は、移住時に特に必要な支援ですが、特に30代の家族連れ世帯では、家族構成の変化などで新たな収入源が必要になり、転職、共働きの必要性が出てくるため、移住後でも仕事に関する情報が必要になります。

② 子どもが育つ環境の充実

子育て世帯への支援（保育費補助や通学支援等）も必要ですが、部活動、習い事や塾などの学校の授業以外のところで子どもが育つ環境を充実させるという視点も必要です。具体的には、都市部のような塾や予備校などの学習環境がないために進学が不利にならないよう、放課後に利用できる公設塾を設置し、幅広い学力層の子ども達が学べる場を創出することが考えられます。また進学のための学習のみならず、自身のキャリアパスや将来の地域との関わり方を考えられる機会をつくるなど、少人数であるといった条件や地域資源を活かすなど、中山間地域・離島ならではの教育を学校以外のところでも享受できるような環境を整えることも必要であるといえます。

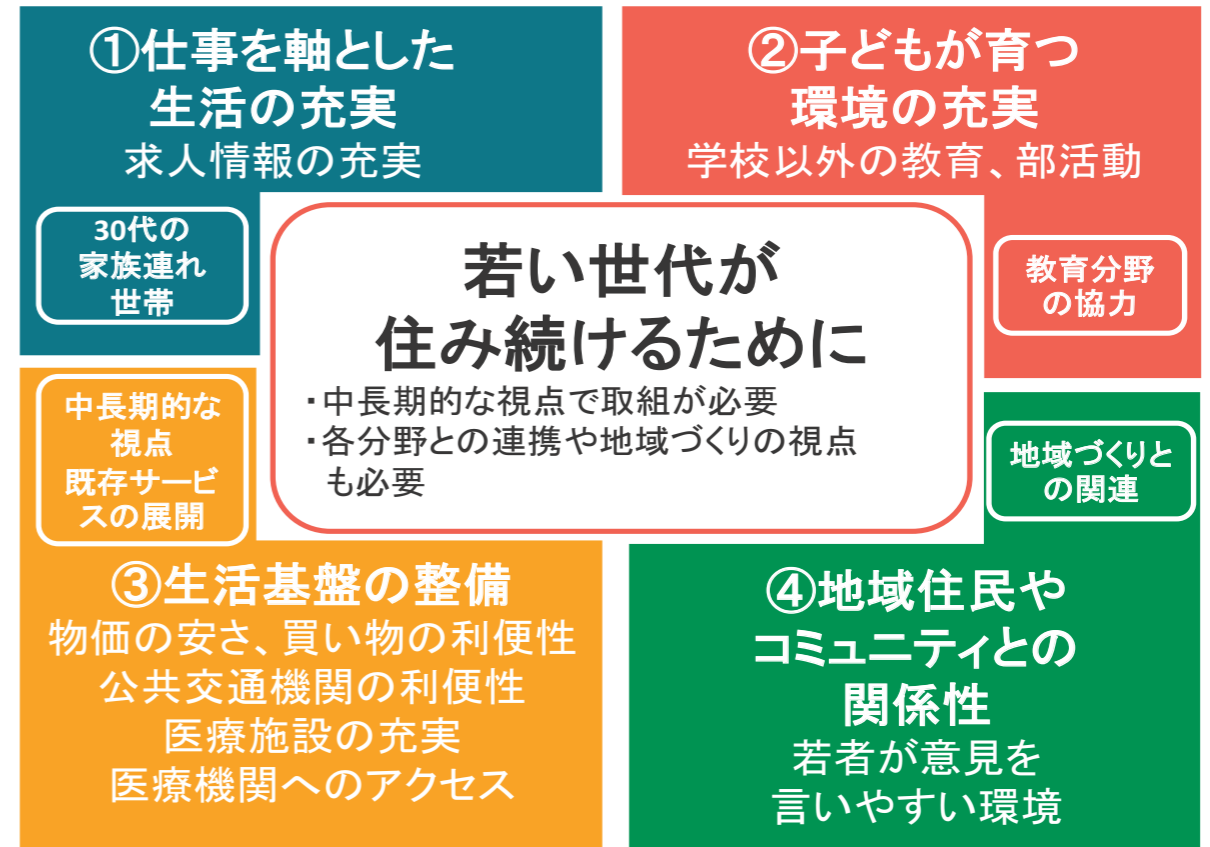
③ 生活基盤の整備

生活基盤の整備については、医療施設や公共交通機関の整備、買い物の利便性など、すぐには対応が困難な項目も多く、中長期的に腰を据えて取り組んでいくことが必要です。まずは現状のサービスを維持していくことが必要であり、地域づくりの視点で生活機能の維持（買い物や公共交通機関の利便性）を検討していくことも必要です。また、既存のサービスの展開も一つの対応策であると考えられます。例えば、現在は高齢者をユーザーとした生活支援について、託児サービスなど子育て世帯も利用できるように取組を展開させるなど、高齢者向けの生活サービスについて、子育て世帯等にもサービスを展開させることも検討の余地があります。

④ 地域住民やコミュニティとの関係性

若者が意見を言いやすい環境をつくっていくためには、地域づくりの中で若い世代とどのように関わっていくのか、既存の地域の体制や地域運営の手法で変化させていくべき事柄はないか、地域づくりの分野でも取組を進めていく必要があります。

図5-9 【第2フェーズ：定住支援】改善に向けた取組が必要な項目



【第3フェーズ：次世代環流（現在の子どもたちが中山間地域に入ってくる・戻ってくる流れ）】

Uターン者は小中学生、高校生の間に学校の授業や地域行事などで地域と関わりを持っていた方や他出後もふるさととの関わりを持っていた方が多くいることが分かりました（図5-10）。また、高校生の意識についてみると、ふるさと教育や課題解決型学習の成果として、ふるさとや高校時代に過ごした地域への関心が高まり、卒業後に県外へ他出した後も高校時代に過ごした地域に関わりたという地域貢献意欲が高まっていることが分かりました。

今後これらの取組の先に、Uターン志向の醸成や関係人口化に期待ができ、長期的な視点に立ち効果を検証していくことが必要でありますが、そのためには以下の3つのことが重要であると考えられます。

①教育分野との連携

自治体においては、移住定住分野だけでなく教育分野と連携することで、ふるさと教育等の内容をより一層充実させることが重要です。学力向上のための学習だけでなく、特色のある学習内容を充実させることは、若者世代が居住地を選ぶ理由や移住後の満足度を高めることへの効果も期待できます。

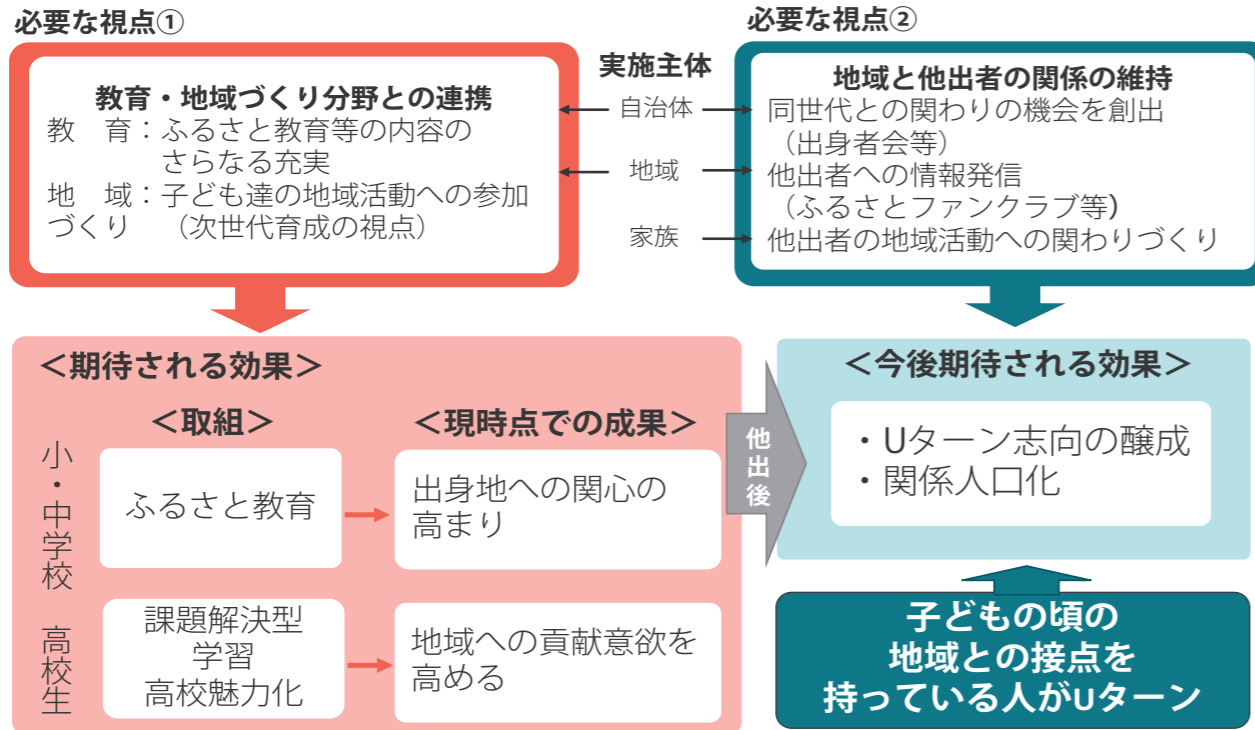
②地域づくり分野との連携

地域づくり分野との連携については、地域づくり活動（小さな拠点づくり）に取り組む地域住民組織等では、世代交代や若い世代との関わり方を検討していくことが今後より一層必要になります。そのためにはまず、次世代育成の視点を持って、子育て世帯や現在の子どもの地域との関わり方について検討していくことが必要であると考えられます。

③他出者との関係の維持

小学生から高校生までの経験の充実に加えて、他出後の地域との関係の維持についても今後取組を強化させていくことで、県内就職やUターン志向の醸成、他出後も定期的に出身地に関わり地域活動に参加するといった関係人口化も期待できます。出身者会やふるさとファンクラブ等の他出者に関する取組は、自治体、地域、また他出者の家族それぞれが自覚して取り組むことが必要です。

図5-10 【第3フェーズ：次世代環流】次世代環流のための仕組



資料編

平成合併前市町村・現市町村の人口動態（国勢調査）

県名	市町村名	総人口増減率										市町村名	県名	
		60-65	65-70	70-75	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10	10-15			
島根県 (平成合併前市町村単位)	旧松江市	3.8%	6.8%	8.0%	6.3%	3.3%	1.7%	3.5%	3.6%	-0.8%	-0.4%	-0.6%	旧松江市	島根県 (現市町村単位)
	旧浜田市	-5.5%	-4.0%	1.8%	1.0%	0.5%	-3.9%	-1.2%	-2.7%	-2.7%	-4.4%	-4.9%	旧浜田市	
	旧出雲市	-0.7%	0.5%	3.6%	8.0%	4.5%	2.2%	2.8%	2.9%	1.7%	0.2%	3.4%	旧出雲市	
	旧益田市	-5.9%	-5.0%	1.3%	4.0%	2.5%	-3.1%	-1.6%	-2.8%	-3.7%	-3.9%	-3.9%	旧益田市	
	旧大田市	-10.4%	-9.8%	-2.0%	1.5%	0.6%	-3.5%	-4.3%	-4.9%	-3.8%	-6.1%	-6.9%	旧大田市	
	旧安来市	-1.8%	0.1%	3.9%	2.0%	1.2%	-1.9%	-2.5%	-3.5%	-2.1%	-3.2%	-4.1%	旧安来市	
	旧江津市	-9.8%	-7.7%	0.4%	1.0%	1.2%	-3.0%	-2.9%	-4.4%	-5.0%	-7.2%	-4.0%	旧江津市	
	平田市	-4.8%	-4.7%	-2.0%	0.4%	0.8%	-2.2%	-3.0%	-2.4%	-3.2%	-4.1%	-6.0%	平田市	
	鹿島町	-8.1%	-1.1%	0.4%	-1.0%	7.6%	-5.8%	-4.3%	-4.6%	-5.0%	-2.9%	-12.9%	鹿島町	
	鳥居町	-11.0%	-7.8%	-3.6%	3.1%	1.5%	-2.0%	-2.6%	-7.8%	-6.1%	-10.4%	-8.7%	鳥居町	
	美保関町	-7.7%	-7.1%	-2.0%	-1.1%	-3.3%	-5.1%	-6.4%	-7.0%	-7.4%	-9.7%	-10.2%	美保関町	
	東出雲町	0.3%	7.8%	0.4%	5.1%	5.7%	-0.5%	-0.7%	8.0%	15.6%	1.1%	6.0%	東出雲町	
	八雲町	-9.2%	-7.8%	1.0%	22.2%	16.3%	13.3%	7.3%	2.2%	0.9%	-2.4%	-1.8%	八雲町	
	玉湯町	5.0%	2.1%	2.4%	0.8%	2.1%	-1.7%	-2.2%	-0.1%	1.7%	0.7%	5.7%	玉湯町	
	宍道町	-5.2%	-3.4%	-0.4%	4.2%	1.1%	-1.5%	-2.5%	-1.1%	-1.5%	-1.1%	-5.0%	宍道町	
	八雲町	-6.5%	-5.0%	-1.3%	2.1%	6.1%	-0.3%	0.0%	-0.3%	-5.7%	-5.8%	-5.7%	八雲町	
	広瀬町	-10.4%	-9.1%	-3.9%	-1.4%	-1.2%	-4.4%	-5.0%	-4.2%	-5.6%	-8.5%	-9.6%	広瀬町	
	宍道町	-10.9%	-9.0%	-5.6%	0.4%	0.5%	-0.6%	-4.2%	-2.7%	-5.0%	-5.8%	-7.3%	宍道町	
	仁多町	-12.8%	-10.7%	-7.0%	-1.9%	-2.7%	-3.5%	-3.6%	-3.1%	-4.8%	-7.9%	-9.3%	仁多町	
	横田町	-11.9%	-11.6%	-7.2%	-1.6%	-0.9%	-3.0%	-3.8%	-5.4%	-5.8%	-9.3%	-10.1%	横田町	
	大東町	-8.8%	-8.6%	-3.0%	1.6%	-1.0%	-3.3%	-4.4%	-5.2%	-3.3%	-5.1%	-6.6%	大東町	
	加茂町	-6.6%	-5.8%	-1.0%	2.0%	0.6%	-1.4%	-2.3%	0.6%	-3.0%	-3.5%	-5.9%	加茂町	
	末次町	-7.8%	-8.0%	-5.1%	-0.3%	-1.6%	-2.9%	-1.2%	-3.0%	-15.8%	-7.7%	-6.2%	末次町	
	三刀屋町	-7.6%	-9.9%	-2.8%	3.1%	-1.6%	-1.6%	-2.3%	-3.8%	9.9%	-4.6%	-4.4%	三刀屋町	
	吉田村	-13.1%	-16.6%	-7.0%	-7.5%	-1.2%	-3.9%	-0.7%	-8.8%	-11.1%	-5.3%	-16.7%	吉田村	
	掛合町	-11.6%	-14.3%	-11.5%	-6.6%	-0.3%	-3.4%	-3.4%	-6.8%	-5.5%	-9.2%	-12.3%	掛合町	
	横原町	-10.2%	-23.2%	-10.7%	-7.3%	0.8%	-2.2%	-6.2%	-2.3%	-12.5%	-9.4%	-7.9%	横原町	
	赤来町	-13.7%	-17.0%	-10.7%	-3.1%	-3.4%	-5.8%	-5.8%	-7.5%	-5.1%	-5.9%	-10.1%	赤来町	
	斐川町	-4.9%	-2.7%	1.6%	4.8%	3.2%	2.6%	2.2%	4.0%	2.3%	0.9%	1.2%	斐川町	
	佐田町	-14.1%	-15.6%	-5.3%	-3.1%	-2.1%	-2.4%	-6.2%	-6.0%	-7.9%	-8.4%	-10.7%	佐田町	
	多伎町	-9.9%	-14.9%	-2.1%	3.9%	1.0%	-2.4%	-2.5%	-2.5%	-7.4%	-3.5%	-6.0%	多伎町	
	湖陵町	-11.5%	-0.8%	1.6%	4.3%	1.6%	-1.0%	-3.4%	0.6%	-1.4%	-6.3%	-1.8%	湖陵町	
	天荘町	-5.8%	-3.5%	-1.0%	0.2%	-1.3%	-3.8%	-3.5%	-4.0%	-2.7%	-4.3%	-3.9%	天荘町	
	温泉津町	-15.0%	-18.7%	-11.1%	-7.4%	-7.4%	-8.1%	-8.4%	-8.8%	-9.2%	-10.6%	-11.8%	温泉津町	
	仁摩町	-12.2%	-17.7%	-8.4%	0.3%	-1.5%	-4.3%	-6.0%	-5.1%	-4.6%	-7.4%	-8.4%	仁摩町	
	川本町	-11.7%	-15.2%	-6.7%	-7.4%	-2.9%	-10.0%	-7.5%	-6.2%	-9.6%	-9.8%	-11.7%	川本町	
	邑智町	-19.6%	-15.6%	-10.4%	-5.9%	-6.5%	-8.6%	-6.0%	-8.5%	-11.2%	-10.0%	-7.7%	邑智町	
	天和村	-18.6%	-16.6%	-15.0%	-1.2%	-2.2%	-10.6%	-3.1%	-7.2%	-9.8%	-8.2%	-10.0%	天和村	
	羽須美村	-18.6%	-18.5%	-14.4%	-8.0%	-2.9%	-9.1%	-10.2%	-9.8%	-9.6%	-13.8%	-11.1%	羽須美村	
	瑞穂町	-17.2%	-16.5%	-6.5%	-7.7%	0.2%	-3.0%	-2.3%	-1.6%	-5.5%	-8.4%	-5.3%	瑞穂町	
	石見町	-14.5%	-14.5%	-3.9%	-2.7%	1.9%	-3.5%	-3.8%	-4.1%	-6.7%	-6.0%	-7.6%	石見町	
	桜江町	-15.0%	-15.4%	-11.6%	-8.5%	-4.0%	-7.2%	-6.1%	-4.7%	-9.8%	-9.2%	-10.9%	桜江町	
	金碓町	-19.5%	-15.0%	-7.3%	2.2%	8.8%	-2.3%	-2.8%	-5.3%	-4.6%	-7.1%	-4.2%	金碓町	
	旭町	-14.1%	-20.2%	-10.3%	-5.4%	-2.6%	-2.9%	-12.7%	-4.7%	-6.9%	64.1%	-13.2%	旭町	
	赤来村	-34.8%	-17.2%	-18.8%	-8.3%	-4.8%	-9.9%	-1.3%	-3.0%	-9.9%	-7.3%	-10.1%	赤来村	
	三隅町	-15.3%	-11.0%	-7.9%	-2.4%	-1.4%	-7.6%	-0.2%	-9.1%	-6.2%	-10.1%	-7.2%	三隅町	
美郷町	-21.1%	-18.4%	-12.8%	-6.8%	0.4%	-12.5%	-5.8%	-8.5%	-6.1%	-10.7%	-12.1%	美郷町		
匹見町	-25.9%	-26.4%	-17.8%	-14.3%	-9.7%	-11.9%	-3.5%	-14.0%	-12.5%	-12.2%	-17.1%	匹見町		
旧津和野町	-14.4%	-14.0%	-9.4%	-2.0%	-3.5%	-6.7%	-7.5%	-6.8%	-11.3%	-12.2%	-10.5%	旧津和野町		
日原町	-15.3%	-15.3%	-9.5%	-6.3%	-2.6%	-6.8%	-4.1%	-6.6%	-9.4%	-10.4%	-7.5%	日原町		
榑木村	-17.5%	-16.1%	-4.2%	-4.2%	-4.0%	-6.2%	-7.8%	-4.7%	-7.3%	-7.2%	-9.5%	榑木村		
六日市町	-19.5%	-13.3%	-6.2%	5.9%	-2.2%	-4.3%	0.6%	-4.9%	-10.8%	-7.6%	-5.5%	六日市町		
西郷町	-9.0%	-11.5%	-1.8%	2.7%	-1.1%	-3.3%	-4.7%	-2.2%	-5.9%	-6.5%	-4.8%	西郷町		
布施村	-16.2%	-10.1%	-4.7%	-4.5%	-14.7%	-9.2%	-1.5%	1.6%	-11.9%	-12.8%	-11.0%	布施村		
五箇村	-20.8%	-18.1%	-3.7%	1.0%	-1.3%	-1.0%	-1.3%	-3.3%	-5.1%	-6.9%	-7.8%	五箇村		
郷方村	-15.3%	-18.6%	-12.9%	-5.5%	-3.0%	-1.3%	-1.3%	1.6%	-8.6%	-6.4%	-9.2%	郷方村		
海士町	-16.5%	-17.3%	-10.5%	-7.1%	-5.6%	-6.6%	-8.4%	-6.5%	-3.4%	-8.0%	-5.9%	海士町		
西ノ島町	-13.5%	-10.8%	-2.3%	-5.1%	1.2%	-9.4%	-8.6%	-6.0%	-6.4%	-10.0%	-3.5%	西ノ島町		
知夫村	-18.6%	-20.7%	-11.7%	-0.4%	-11.9%	-9.1%	-6.2%	-10.5%	1.0%	-9.4%	-6.4%	知夫村		
松江市	0.5%	3.7%	5.0%	5.4%	3.6%	0.8%	1.9%	2.4%	-0.4%	-1.0%	-1.1%	松江市		
浜田市	-10.8%	-7.8%	-1.8%	-0.2%	0.6%	-4.3%	-1.9%	-3.8%	-3.7%	-2.1%	-5.8%	浜田市		
出雲市	-4.1%	-2.8%	1.1%	4.5%	2.6%	0.4%	0.4%	1.0%	-0.0%	-1.3%	0.3%	出雲市		
笠岡市	-9.5%	-7.9%	-1.0%	2.3%	1.8%	-4.0%	-1.9%	-3.5%	-4.1%	-4.5%	-4.6%	笠岡市		
大田市	-11.3%	-12.1%	-4.0%	0.3%	-0.6%	-4.1%	-4.9%	-5.3%	-4.4%	-6.7%	-7.4%	大田市		
安来市	-5.4%	-3.4%	0.9%	1.1%	0.6%	-2.3%	-3.2%	-3.6%	-3.1%	-4.6%	-5.5%	安来市		
江津市	-10.8%	-9.1%	-1.6%	-0.4%	0.5%	-3.5%	-3.3%	-4.4%	-5.5%	-7.5%	-4.8%	江津市		
雲南市	-8.7%	-9.5%	-4.2%	0.2%	-1.0%	-2.7%	-2.8%	-4.0%	-4.1%	-5.6%	-6.9%	雲南市		
東出雲町	-12.4%	-11.2%	-7.1%	-1.8%	-1.8%	-3.3%	-3.7%	-4.2%	-5.3%	-9.6%	-9.6%	東出雲町		
飯南町	-12.1%	-19.9%	-10.7%	-5.0%	-1.6%	-4.2%	-6.0%	-5.1%	-6.6%	-7.4%	-9.1%	飯南町		
川本町	-11.7%	-15.2%	-5.7%	-7.3%	-2.9%	-10.0%	-7.5%	-6.2%	-9.6%	-9.8%	-11.7%	川本町		
美郷町	-19.3%	-15.9%	-11.7%	-4.6%	-5.3%	-9.2%	-5.2%	-8.1%	-10.8%	-8.5%	-8.4%	美郷町		
邑南町	-16.4%	-16.1%	-7.0%	-5.6%	0.4%	-4.3%	-4.3%	-4.1%	-6.6%	-7.6%	-7.2%	邑南町		
津和野町	-14.7%	-14.6%	-9.4%	-3.8%	-3.1%	-6.7%	-6.1%	-6.7%	-10.5%	-11.4%	-9.2%	津和野町		
吉賀町	-19.0%	-14.0%	-5.6%	3.2%	-2.7%	-4.8%	-1.4%	-4.9%	-10.0%	-7.5%	-6.4%	吉賀町		
海士町	-16.5%	-17.3%	-10.5%	-7.1%	-5.6%	-6.6%	-8.4%	-6.5%	-3.4%	-8.0%	-5.9%	海士町		
西ノ島町	-13.5%	-10.8%	-2.3%	-5.1%	1.2%	-9.4%	-8.6%	-6.0%	-6.4%	-10.0%	-3.5%	西ノ島町		
知夫村	-18.6%	-20.7%	-11.7%	-0.4%	-11.9%	-9.1%	-6.2%	-10.5%	1.0%	-9.4%	-6.4%	知夫村		
隠岐の島町	-11.8%	-13.2%	-3.6%	1.2%	-1.8%	-3.0%	-3.8%	-1.8%	-6.3%	-8.2%	-5.9%	隠岐の島町		

県名	市町村名	総人口増減率											市町村名	県名
		60-65	65-70	70-75	75-80	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10	10-15		
鳥取県 (平成合併前市町村単位)	旧鳥取市	1.4%	3.9%	8.1%	7.1%	4.6%	3.9%	2.7%	2.8%	-1.2%	-0.4%		旧鳥取市	鳥取県
	旧米子市	4.3%	4.9%	8.5%	7.6%	3.5%	-0.3%	2.5%	3.0%	-1.1%	0.5%		旧米子市	鳥取県
	旧倉吉市	-2.7%	-1.0%	2.3%	2.9%	0.2%	-1.0%	-1.4%	-2.7%	-3.2%	-2.9%		旧倉吉市	鳥取県
	環境市	0.4%	4.0%	4.9%	4.1%	0.2%	-0.2%	0.2%	-1.0%	-3.3%	-3.1%		環境市	鳥取県
	園府町	-2.5%	-4.3%	0.3%	0.1%	0.3%	1.8%	-4.2%	3.0%	-1.7%	-1.2%		園府町	鳥取県
	岩美町	-7.0%	-6.6%	-4.5%	-0.6%	-0.2%	-3.8%	-4.1%	-4.7%	-6.3%	-7.1%		岩美町	鳥取県
	福部村	-6.8%	-5.0%	-4.3%	-0.8%	4.5%	3.2%	3.3%	-2.1%	-4.4%	-6.7%		福部村	鳥取県
	那賀町	-6.7%	-4.5%	-2.7%	1.6%	1.2%	-1.3%	2.1%	-0.0%	1.3%	-2.3%		那賀町	鳥取県
	船岡町	-8.3%	-5.8%	-6.6%	1.0%	3.9%	-3.6%	-2.7%	-4.0%	-9.5%	-10.9%		船岡町	鳥取県
	河原町	-6.7%	-6.4%	-6.2%	-0.4%	-0.1%	-2.3%	-4.4%	-1.6%	-5.9%	-5.1%		河原町	鳥取県
	八東町	-7.3%	-10.0%	-6.2%	-1.0%	-0.9%	-2.4%	-5.7%	-6.1%	-8.9%	-10.9%		八東町	鳥取県
	若桜町	-12.1%	-12.0%	-6.1%	-5.1%	-4.5%	-6.3%	-7.8%	-9.9%	-12.4%	-15.6%		若桜町	鳥取県
	用瀬町	-7.8%	-7.3%	-6.7%	1.5%	-1.8%	-2.1%	-5.4%	-5.5%	-7.4%	-7.0%		用瀬町	鳥取県
	佐治村	-10.5%	-9.1%	-6.2%	-3.6%	-2.6%	-5.4%	-7.5%	-9.3%	-10.2%	-16.0%		佐治村	鳥取県
	智頭町	-7.0%	-7.4%	-6.0%	-1.3%	-2.7%	-4.7%	-6.5%	-6.9%	-7.8%	-7.3%		智頭町	鳥取県
	気高町	-3.7%	-2.5%	-2.7%	2.5%	2.7%	0.1%	-0.1%	-2.7%	-4.8%	-4.6%		気高町	鳥取県
	鹿野町	-10.0%	-5.1%	-3.1%	-4.4%	2.5%	-2.3%	-1.7%	-0.1%	-2.5%	-9.2%		鹿野町	鳥取県
	青谷町	-7.6%	-6.1%	-4.6%	-2.5%	-1.3%	-2.0%	-4.0%	-6.3%	-9.3%	-11.2%		青谷町	鳥取県
	羽合町	-5.4%	-6.8%	-0.0%	3.5%	3.2%	1.0%	2.2%	7.0%	4.6%	1.2%		羽合町	鳥取県
	泊村	-7.6%	-7.4%	-6.9%	-3.1%	-2.2%	-2.8%	-3.9%	-4.3%	-3.3%	-8.0%		泊村	鳥取県
	東郷町	-6.0%	-8.0%	-3.0%	0.5%	-1.7%	-2.3%	-2.4%	-2.3%	-5.9%	-5.4%		東郷町	鳥取県
三朝町	-8.6%	-8.5%	-4.1%	-0.2%	1.2%	-2.0%	-4.0%	-5.2%	-6.2%	-7.5%		三朝町	鳥取県	
関金町	-12.0%	-8.4%	-3.7%	1.2%	-0.5%	-3.8%	-4.3%	-5.4%	-3.1%	-8.2%		関金町	鳥取県	
北条町	-6.7%	-7.9%	0.6%	10.9%	11.7%	3.3%	2.7%	0.7%	-0.8%	-2.9%		北条町	鳥取県	
大栄町	-8.9%	-6.7%	0.0%	6.9%	4.2%	-0.2%	-1.4%	-3.9%	-6.6%	-5.1%		大栄町	鳥取県	
東伯町	-6.3%	-5.9%	-0.9%	1.9%	2.2%	-2.5%	-2.3%	-3.3%	-3.3%	-5.4%		東伯町	鳥取県	
赤碓町	-6.4%	-6.0%	-1.6%	-1.2%	-1.1%	-2.8%	-2.9%	-5.2%	-6.6%	-7.0%		赤碓町	鳥取県	
西伯町	-8.0%	-5.5%	5.4%	9.1%	2.9%	-1.1%	-2.8%	-2.4%	-1.3%	-4.4%		西伯町	鳥取県	
金見町	-8.9%	-7.8%	-2.5%	9.6%	3.5%	0.3%	-4.4%	1.6%	-5.0%	-6.4%		金見町	鳥取県	
岸本町	-9.2%	-5.8%	4.6%	10.6%	6.3%	5.7%	4.2%	2.4%	-0.6%	-0.2%		岸本町	鳥取県	
日吉津村	-2.7%	2.5%	3.7%	9.0%	9.7%	1.1%	-2.5%	7.6%	8.7%	3.0%		日吉津村	鳥取県	
淀江町	-5.4%	-4.9%	2.9%	6.0%	1.7%	2.6%	0.5%	-0.1%	-0.1%	1.9%		淀江町	鳥取県	
旧大山町	-5.7%	-7.9%	-1.1%	0.3%	0.2%	-2.2%	-6.0%	-6.6%	-1.7%	-6.7%		旧大山町	鳥取県	
名和町	-7.4%	-6.3%	-2.3%	1.0%	-0.9%	-4.3%	-3.9%	-2.4%	-4.5%	-6.4%		名和町	鳥取県	
中山町	-6.1%	-8.6%	-2.6%	1.1%	-1.1%	-3.0%	-4.3%	-6.2%	-4.1%	-6.0%		中山町	鳥取県	
日南町	-14.1%	-15.8%	-12.0%	-8.6%	-4.7%	-5.9%	-7.4%	-9.3%	-10.7%	-12.7%		日南町	鳥取県	
日野町	-8.3%	-15.3%	-5.9%	-4.2%	-4.9%	-7.2%	-8.5%	-8.2%	-7.3%	-10.5%		日野町	鳥取県	
江府町	-9.9%	-12.3%	-9.3%	-0.2%	-6.1%	-4.8%	-4.7%	-9.2%	-7.1%	-7.3%		江府町	鳥取県	
溝口町	-11.0%	-10.0%	-8.5%	0.1%	-1.8%	-1.4%	-3.5%	-3.9%	-5.1%	-10.5%		溝口町	鳥取県	
鳥取市	-1.5%	0.6%	4.1%	4.8%	3.4%	2.6%	1.2%	1.4%	0.5%	-2.1%		鳥取市	鳥取県	
米子市	3.5%	4.2%	8.1%	7.5%	3.4%	-0.1%	2.4%	2.8%	-0.9%	0.7%		米子市	鳥取県	
倉吉市	-3.8%	-1.7%	1.8%	2.8%	0.1%	-1.2%	-1.6%	-2.9%	-3.6%	-3.3%		倉吉市	鳥取県	
環境市	0.4%	4.0%	4.9%	4.1%	0.2%	-0.2%	0.2%	-1.4%	-1.0%	-3.3%		環境市	鳥取県	
岩美町	-7.0%	-6.6%	-4.5%	-0.6%	-0.2%	-3.8%	-4.1%	-4.7%	-5.3%	-7.1%		岩美町	鳥取県	
若桜町	-12.1%	-12.0%	-6.1%	-5.1%	-4.5%	-6.3%	-7.8%	-9.9%	-12.4%	-15.6%		若桜町	鳥取県	
智頭町	-7.0%	-7.4%	-6.0%	-1.3%	-2.7%	-4.7%	-6.5%	-6.9%	-7.8%	-7.3%		智頭町	鳥取県	
八頭町	-7.2%	-6.6%	-4.4%	0.7%	1.2%	-2.2%	-1.4%	-2.7%	-4.0%	-6.2%		八頭町	鳥取県	
三朝町	-8.6%	-8.5%	-4.1%	-0.2%	1.2%	-2.0%	-4.0%	-5.2%	-6.2%	-7.5%		三朝町	鳥取県	
湯梨浜町	-6.1%	-7.4%	-2.5%	0.9%	0.1%	-1.1%	-0.8%	1.2%	0.8%	-2.8%		湯梨浜町	鳥取県	
琴浦町	-6.4%	-6.0%	-1.2%	0.5%	0.8%	-2.6%	-2.5%	-3.5%	-4.6%	-6.0%		琴浦町	鳥取県	
北条町	-8.0%	-7.2%	0.3%	8.5%	7.3%	1.3%	0.4%	-1.8%	-3.8%	-4.0%		北条町	鳥取県	
日吉津村	-2.7%	2.5%	3.7%	9.0%	9.7%	1.1%	-2.5%	7.6%	8.7%	3.0%		日吉津村	鳥取県	
大山町	-6.5%	-7.5%	-2.0%	0.8%	-0.6%	-3.2%	-4.4%	-4.9%	-3.4%	-7.4%		大山町	鳥取県	
南郷町	-8.3%	-6.3%	2.7%	9.3%	3.1%	-0.6%	-3.4%	-1.1%	-1.1%	-4.4%		南郷町	鳥取県	
伯耆町	-10.2%	-8.2%	5.1%	2.3%	2.3%	0.6%	-0.4%	-2.5%	-6.8%	-4.3%		伯耆町	鳥取県	
日南町	-14.1%	-15.8%	-12.0%	-8.6%	-4.7%	-5.9%	-7.4%	-9.3%	-10.7%	-12.7%		日南町	鳥取県	
日野町	-8.3%	-15.3%	-5.9%	-4.2%	-4.9%	-7.2%	-8.5%	-8.2%	-7.3%	-10.5%		日野町	鳥取県	
江府町	-9.9%	-12.2%	-9.3%	-0.2%	-6.1%	-4.8%	-4.7%	-9.2%	-7.1%	-7.3%		江府町	鳥取県	

県名	市町村名	鳥取県 (平成合併前市町村単位)											市町村名	県名
		60-65	65-70	70-75	75-80	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10	10-15		
鳥取県 (平成合併前市町村単位)	旧鳥取市	1.4%	3.9%	8.1%	7.1%	4.6%	3.9%	2.7%	2.8%	-1.2%	-0.4%		旧鳥取市	鳥取県
	旧米子市	4.3%	4.9%	8.5%	7.6%	3.5%	-0.3%	2.5%	3.0%	-1.1%	0.5%		旧米子市	鳥取県
	旧倉吉市	-2.7%	-1.0%	2.3%	2.9%	0.2%	-1.0%	-1.4%	-2.7%	-3.2%	-2.9%		旧倉吉市	鳥取県
	環境市	0.4%	4.0%	4.9%	4.1%	0.2%	-0.2%	0.2%	-1.0%	-3.3%	-3.1%		環境市	鳥取県
	園府町	-2.5%	-4.3%	0.3%	0.1%	0.3%	1.8%	-4.2%	3.0%	-1.7%	-1.2%		園府町	鳥取県
	岩美町	-7.0%	-6.6%	-4.5%	-0.6%	-0.2%	-3.8%	-4.1%	-4.7%	-6.3%	-7.1%		岩美町	鳥取県
	福部村	-6.8%	-5.0%	-4.3%	-0.8%	4.5%	3.2%	3.3%	-2.1%	-4.4%	-6.7%		福部村	鳥取県
	那賀町	-6.7%	-4.5%	-2.7%	1.6%	1.2%	-1.3%	2.1%	-0.0%	1.3%	-2.3%		那賀町	鳥取県
	船岡町	-8.3%	-5.8%	-6.6%	1.0%	3.9%	-3.6%	-2.7%	-4.0%	-9.5%	-10.9%		船岡町	鳥取県
	河原町	-6.7%	-6.4%	-6.2%	-0.4%	-0.1%	-2.3%	-4.4%	-1.6%	-5.9%	-5.1%		河原町	鳥取県
	八東町	-7.3%	-10.0%	-6.2%	-1.0%	-0.9%	-2.4%	-5.7%	-6.1%	-8.9%	-10.9%		八東町	鳥取県
	若桜町	-12.1%	-12.0%	-6.1%	-5.1%	-4.5%	-6.3%	-7.8%	-9.9%	-12.4%	-15.6%		若桜町	鳥取県
	用瀬町	-7.8%	-7.3%	-6.7%	1.5%	-1.8%	-2.1%	-5.4%	-5.5%	-7.4%	-7.0%		用瀬町	鳥取県
	佐治村	-10.5%	-9.1%	-6.2%	-3.6%	-2.6%	-5.4%	-7.5%	-9.3%	-10.2%	-16.0%		佐治村	鳥取県
	智頭町	-7.0%	-7.4%	-6.0%	-1.3%	-2.7%	-4.7%	-6.5%	-6.9%	-7.8%	-7.3%		智頭町	鳥取県
	気高町	-3.7%	-2.5%	-2.7%	2.5%	2.7%	0.1%	-0.1%	-2.7%	-4.8%	-4.6%		気高町	鳥取県
	鹿野町	-10.0%	-5.1%	-3.1%	-4.4%	2.5%	-2.3%	-1.7%	-0.1%	-2.5%	-9.2%		鹿野町	鳥取県
	青谷町	-7.6%	-6.1%	-4.6%	-2.5%	-1.3%	-2.0%	-4.0%	-6.3%	-9.3%	-11.2%		青谷町	鳥取県
	羽合町	-5.4%	-6.8%	-0.0%	3.5%	3.2%	1.0%	2.2%	7.0%	4.6%	1.2%		羽合町	鳥取県
	泊村	-7.6%	-7.4%	-6.9%	-3.1%	-2.2%	-2.8%	-3.9%	-4.3%	-3.3%	-8.0%		泊村	鳥取県
	東郷町	-6.0%	-8.0%	-3.0%	0.5%	-1.7%	-2.3%	-2.4%	-2.3%	-5.9%	-5.4%		東郷町	鳥取県
三朝町	-8.6%	-8.5%	-4.1%	-0.2%	1.2%	-2.0%	-4.0%	-5.2%	-6.2%	-7.5%		三朝町	鳥取県	
関金町	-12.0%	-8.4%	-3.7%	1.2%	-0.5%	-3.8%	-4.3%	-5.4%	-3.1%	-8.2%		関金町	鳥取県	
北条町	-6.7%	-7.9%	0.6%	10.9%	11.7%	3.3%	2.7%	0.7%	-0.8%	-2.9%		北条町	鳥取県	
大栄町	-8.9%	-6.7%	0.0%	6.9%	4.2%	-0.2%	-1.4%	-3.9%	-6.6%	-5.1%		大栄町	鳥取県	
東伯町	-6.3%	-5.9%	-0.9%	1.9%	2.2%	-2.5%	-2.3%	-3.3%	-3.3%	-5.4%		東伯町	鳥取県	
赤碓町	-6.4%	-6.0%	-1.6%	-1.2%	-1.1%	-2.8%	-2.9%	-5.2%	-6.6%	-7.0%		赤碓町	鳥取県	
西伯町	-8.0%	-5.5%	5.4%	9.1%	2.9%	-1.1%	-2.8%	-2.4%	-1.3%	-4.4%		西伯町	鳥取県	
金見町	-8.9%	-7.8%	-2.5%	9.6%	3.5%	0.3%	-4.4%	1.6%	-5.0%	-6.4%		金見町	鳥取県	
岸本町	-9.2%	-5.8%	4.6%	10.6%	6.3%	5.7%	4.2%	2.4%	-0.6%	-0.2%		岸本町	鳥取県	
日吉津村	-2.7%	2.5%	3.7%	9.0%	9.7%	1.1%	-2.5%	7.6%	8.7%	3.0%		日吉津村	鳥取県	
淀江町	-5.4%	-4.9%	2.9%	6.0%	1.7%	2.6%	0.5%	-0.1%	-0.1%	1.9%		淀江町	鳥取県	
旧大山町	-5.7%	-7.9%	-1.1%	0.3%	0.2%	-2.2%	-6.0%	-6.6%	-1.7%	-6.7%		旧大山町	鳥取県	
名和町	-7.4%	-6.3%	-2.3%											

縣名	10縣代										20縣代										縣名								
	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10	10-15	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10	10-15	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10		10-15							
鳥取縣 (平成合併前市町村單位)	14.4	4.9	-2.4	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	1.6	1.7	0.4	2.7	-0.8	-3.3	-8.3	14.4	4.9	-2.4	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	1.6	1.7	0.4	2.7	-0.8	-3.3	-8.3	鳥取縣 (平成合併前市町村單位)
鳥取縣 (現市町村單位)	14.4	4.9	-2.4	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	1.6	1.7	0.4	2.7	-0.8	-3.3	-8.3	14.4	4.9	-2.4	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	1.6	1.7	0.4	2.7	-0.8	-3.3	-8.3	鳥取縣 (現市町村單位)

縣名	10縣代										20縣代										縣名								
	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10	10-15	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10	10-15	80-85	85-90	90-95	95-00	00-05	05-10		10-15							
鳥取縣 (平成合併前市町村單位)	14.4	4.9	-2.4	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	1.6	1.7	0.4	2.7	-0.8	-3.3	-8.3	14.4	4.9	-2.4	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	1.6	1.7	0.4	2.7	-0.8	-3.3	-8.3	鳥取縣 (平成合併前市町村單位)
鳥取縣 (現市町村單位)	14.4	4.9	-2.4	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	1.6	1.7	0.4	2.7	-0.8	-3.3	-8.3	14.4	4.9	-2.4	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	1.6	1.7	0.4	2.7	-0.8	-3.3	-8.3	鳥取縣 (現市町村單位)

県名	30歳代										40歳代										県名				
	80-85	75-80	70-75	65-70	60-65	55-60	50-55	45-50	40-45	35-40	85-90	80-85	75-80	70-75	65-70	60-65	55-60	50-55	45-50	40-45					
旧鳥取市	9.2%	0.8%	3.8%	2.8%	0.8%	1.1%	1.8%	2.5%	1.4%	1.4%	-1.1%	-1.1%	0.4%	-1.7%	-1.7%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	0.4%	0.4%	-0.5%	-1.4%	10-15	
旧米子市	10.2%	0.4%	1.5%	2.5%	1.7%	1.8%	2.2%	1.6%	-0.5%	-2.0%	-2.0%	2.4%	2.4%	-0.5%	-0.7%	-0.5%	-1.0%	-2.5%	-0.5%	-0.5%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-1.4%	旧米子市
旧倉吉市	0.1%	-1.5%	0.7%	0.3%	-0.3%	-0.3%	-0.3%	-2.0%	-1.8%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-0.5%	-2.8%	-2.8%	-2.8%	-2.8%	-2.8%	-2.8%	-2.8%	-2.8%	-2.8%	0.7%	旧倉吉市
境港市	8.7%	-2.7%	0.9%	-0.1%	-2.7%	0.8%	0.9%	0.9%	-0.4%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.5%	-4.3%	-4.3%	-4.3%	-4.3%	-4.3%	-4.3%	-4.3%	-4.3%	-4.3%	1.1%	境港市
岡野町	3.3%	-0.4%	0.2%	-0.3%	0.8%	2.1%	3.0%	3.5%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	-3.3%	岡野町
岩美町	-7.7%	-3.7%	-1.8%	-0.6%	-0.6%	-3.2%	-3.1%	1.9%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	岩美町
湯梨井町	-5.2%	-4.3%	-1.8%	-1.8%	4.8%	5.6%	7.8%	1.8%	1.5%	0.8%	3.3%	3.3%	-0.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	-3.8%	湯梨井町
湯家町	-0.3%	-0.3%	0.2%	1.8%	1.4%	2.0%	7.2%	3.6%	6.1%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	湯家町
船岡町	-0.5%	0.8%	0.8%	1.8%	7.5%	4.8%	-4.8%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	-1.5%	船岡町
八雲町	-4.7%	-0.8%	-2.1%	1.4%	0.7%	-2.1%	-0.4%	1.1%	-3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	八雲町
岩船町	-14.6%	-7.5%	-3.1%	-2.8%	-6.0%	-0.4%	-5.2%	-7.8%	-6.2%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	-7.8%	岩船町
佐治町	-8.4%	-1.8%	-2.6%	-3.0%	-2.3%	-4.0%	-2.5%	-4.8%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	-3.7%	佐治町
雲南町	-2.0%	-2.7%	0.2%	-0.6%	-1.2%	-3.1%	-1.2%	-3.4%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	-4.8%	雲南町
八雲町	6.7%	-1.0%	-1.4%	4.7%	2.6%	1.4%	2.6%	1.4%	1.7%	0.2%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	八雲町
湯梨井町	-14.3%	1.0%	0.6%	-3.2%	-0.3%	-0.3%	-0.3%	3.7%	3.1%	0.2%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	湯梨井町
湯家町	-5.2%	-1.2%	-1.2%	2.3%	2.3%	3.0%	-0.6%	0.9%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	-0.6%	湯家町
船岡町	-4.9%	-0.6%	3.5%	6.7%	0.7%	-0.1%	3.3%	6.7%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	11.4%	船岡町
八雲町	-3.6%	-1.0%	1.4%	0.8%	0.2%	0.7%	-0.7%	1.9%	3.8%	2.7%	1.0%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	八雲町
岩船町	-3.9%	-2.1%	-3.4%	1.5%	-1.6%	-2.8%	3.6%	2.2%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	-1.7%	岩船町
湯梨井町	-11.3%	-1.9%	-1.1%	-0.7%	-3.6%	-2.4%	-1.9%	-2.4%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	-1.9%	湯梨井町
湯家町	1.3%	0.5%	4.0%	18.7%	11.1%	5.1%	6.2%	4.0%	-0.9%	-0.9%	6.3%	4.8%	6.3%	4.8%	6.3%	4.8%	6.3%	4.8%	6.3%	4.8%	6.3%	4.8%	6.3%	4.8%	湯家町
北条町	-1.8%	0.5%	2.5%	5.9%	4.7%	0.1%	3.4%	-0.5%	-0.4%	-0.4%	-1.1%	1.9%	4.8%	-1.1%	1.9%	4.8%	-1.1%	1.9%	4.8%	-1.1%	1.9%	4.8%	-1.1%	1.9%	北条町
雲南町	-5.0%	-4.0%	-1.9%	-1.9%	-0.9%	-1.1%	-0.9%	-0.2%	-1.0%	-2.2%	-1.0%	-2.2%	-1.0%	-2.2%	-1.0%	-2.2%	-1.0%	-2.2%	-1.0%	-2.2%	-1.0%	-2.2%	-1.0%	-2.2%	雲南町
湯梨井町	-0.9%	-3.9%	8.7%	13.6%	3.7%	1.8%	4.6%	5.6%	6.0%	6.0%	3.4%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	3.5%	湯梨井町
湯家町	0.3%	-1.5%	1.0%	15.6%	7.7%	11.8%	11.3%	11.3%	9.2%	4.1%	6.4%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	8.1%	湯家町
八雲町	-15.8%	6.2%	1.8%	11.0%	9.8%	7.7%	11.8%	11.3%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	12.8%	八雲町
湯梨井町	-7.7%	-2.1%	2.2%	5.8%	2.1%	5.0%	6.4%	6.4%	0.6%	0.4%	4.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	8.7%	湯梨井町
湯家町	-5.4%	-6.0%	-0.9%	0.7%	0.6%	1.3%	-1.0%	-0.8%	-0.3%	-0.3%	1.1%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%	湯家町
船岡町	-5.9%	-3.0%	-1.1%	2.4%	1.4%	-0.9%	-1.1%	-0.9%	-1.4%	-0.3%	1.4%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	船岡町
八雲町	-10.4%	-7.6%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	-2.6%	-0.3%	八雲町
湯梨井町	-14.4%	-12.5%	-1.0%	2.4%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	湯梨井町
湯家町	-4.7%	-3.1%	1.2%	4.4%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	湯家町
北条町	-2.1%	0.2%	2.1%	2.4%	0.8%	0.8%	1.9%	1.4%	2.8%	2.8%	0.9%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	北条町
湯梨井町	0.7%	1.5%	0.9%	0.2%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	湯梨井町
湯家町	-2.2%	-2.7%	-0.9%	-0.1%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	湯家町
岩船町	-2.0%	-2.7%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	岩船町
八雲町	-4.3%	-2.7%	0.3%	-2.3%	-1.2%	-3.1%	-2.3%	-3.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	八雲町
湯梨井町	-7.2%	-1.7%	-2.3%	1.0%	3.6%	2.2%	1.9%	3.6%	2.2%	2.1%	1.4%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	湯梨井町
湯家町	-3.6%	-1.3%	0.1%	3.3%	-0.7%	1.5%	3.0%	2.2%	-1.7%	-1.7%	6.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	湯家町
船岡町	-4.3%	-2.2%	-1.0%	1.5%	0.3%	-0.7%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	船岡町
八雲町	-0.9%	-6.2%	1.5%	10.9%	7.5%	2.3%	4.7%	1.8%	12.8%	12.8%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	八雲町
湯梨井町	-2.1%	-4.6%	-1.0%	1.4%	0.5%	0.9%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	1.3%	0.8%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	湯梨井町
湯家町	-7.0%	-3.0%	4.8%	10.6%	5.2%	7.2%	7.3%	4.8%	2.3%	2.3%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	4.1%	湯家町
岩船町	-8.3%	-7.3%	-2.8%	-0.3%	-0.5%	0.3%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	-0.4%	岩船町
八雲町	-2.8%	-12.3%	-1.0%	2.4%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	-2.0%	八雲町
湯梨井町	-8.3%	-6.2%	-3.6%	11.4%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	-4.0%	湯梨井町
湯家町	-2.1%	-4.1%	1.2%	4.4%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	-4.6%	湯家町
北条町	-0.2%	0.2%	2.1%	2.4%	0.8%	0.8%	1.9%	1.4%	2.8%	2.8%	0.9%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	-0.8%	北条町
湯梨井町	-1.9%	-1.4%	0.9%	0.2%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	2.4%	1.9%	湯梨井町
湯家町	-2.2%	-2.7%	-0.9%	-0.1%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	-2.7%	-0.9%	湯家町
岩船町	-2.0%	-2.7%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	-0.9%	岩船町
八雲町	-4.3%	-2.7%	0.3%	-2.3%	-1.2%	-3.1%	-2.3%	-3.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	-4.4%	八雲町
湯梨井町	-7.2%	-1.7%	-2.3%	1.0%	3.6%	2.2%	1.9%	3.6%	2.2%	2.1%	1.4%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	湯梨井町
湯家町	-3.6%	-1.3%	0.1%	3.3%	-0.7%	1.5%	3.0%	2.2%	-1.7%	-1.7%	6.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	湯家町
船岡町	-4.3%	-2.2%	-1.0%	1.5%	0.3%	-0.7%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	-0.8%	-0.1%	船岡町
八雲町	-0.9%	-6.2%	1.5%	10.9%	7.5%	2.3%	4.7%	1.8%	12																

②ご実家は家業（農業や商店、美容院など）を営んでいますか。

- 1. 営んでいる
- 2. 営んでいない
- 3. わからない

③実家は農地がありますか。

- 1. ある
- 2. ない
- 3. わからない

④実家が管理する農地がありますか。

- 1. ある
- 2. ない
- 3. わからない

(7) あなたは現在お住まいの町村外に居住していた経験はありますか。

- 1. ない（現在の町村内にずっと住んでいる） ⇒ **次ページ 問2**へお進みください
- 2. ある（他市町村・県外含む） ⇒ 下記の質問にお答えください

①現在お住まいの町村に引っ越してきてから何年目ですか。

おおよそ（ ）年目

②あなたが現在お住まいの町村に引っ越してきた理由を教えてください。

【あてはまるものすべてに○】

- 1. 転勤
- 2. 就職
- 3. 転職・転業
- 4. 就学・卒業
- 5. 結婚
- 6. 離婚
- 7. 住宅
- 8. 退職
- 9. 縁組・離縁
- 10. その他（ ）

③現在お住まいの町村の直前に住んでいた場所を教えてください。

【都道府県名・市町村名をかっこ内に記入】

- 1. （ ）都・道・府・県 （ ）市・町・村・区 2. 国外

④現在お住まいの町村に引っ越してきた時の家族構成を教えてください。

- 1. 現在と同じ
- 2. 現在と引っ越してきた時で家族構成が異なる ⇒ 下記の表に、引っ越してきた時の家族構成を記入してください。（単身の場合は、本人のみご記入ください）

引っ越してきた時の家族構成（一緒に引っ越してきた者のみ）		
属性	性別	転居当時の年齢
本人	男・女・その他	
	男・女・その他	
	男・女・その他	
	男・女・その他	
	男・女・その他	
	男・女・その他	
	男・女・その他	

問2. 全員の方にお聞きします。現在お住まいの居住地を決めた理由を教えてください。

【それぞれの項目について、あてはまる数字一つに○】

分野	項目	最も当てはまる	やや当てはまる	どちらでもない	当てはまらない	わからない	当てはまらない
家庭環境	ア. 故郷（自分の出身地）だから	1	2	3	4	5	6
	イ. 結婚相手の居住地・故郷だから	1	2	3	4	5	6
	ウ. 土地・家業を継承する必要があったから	1	2	3	4	5	6
	エ. 親族等の出立や介護をする必要があったから	1	2	3	4	5	6
	オ. 親や親戚が近くに住んでいるから	1	2	3	4	5	6
	カ. 住まいの利便・紹介があるから	1	2	3	4	5	6
	キ. 分譲地など家を建てる場所があったから	1	2	3	4	5	6
住まい	ク. 家屋の新築・改修補助があったから	1	2	3	4	5	6
	ケ. 仕事の利便・紹介があったから	1	2	3	4	5	6
	コ. 起業・創業支援が充実していたから	1	2	3	4	5	6
	サ. やりたい仕事があるから	1	2	3	4	5	6
	シ. 職場が近いから	1	2	3	4	5	6
	ス. 子育てに関する補助金が充実しているから	1	2	3	4	5	6
	セ. 延長保育等、保育サービスが充実していたから	1	2	3	4	5	6
仕事	ソ. 保育園や学校に近いから	1	2	3	4	5	6
	タ. 高校があるから	1	2	3	4	5	6
	チ. 学校などの教育内容（学力向上に関すること）が良かったから	1	2	3	4	5	6
	ツ. ふるさと教育など特色ある教育内容があったから	1	2	3	4	5	6
	テ. 祭りや神楽等、伝統文化に関わりたいから	1	2	3	4	5	6
	ト. 相談に乗ってくれたり、世話をしてくれる人がいたから	1	2	3	4	5	6
	ナ. 同世代のつきあひがあったから	1	2	3	4	5	6
子育て	ニ. 地域のつきあひが充実していたから	1	2	3	4	5	6
	ヌ. 買い物に便利だから	1	2	3	4	5	6
	ネ. 通学に便利だから	1	2	3	4	5	6
	ノ. 公共交通機関が便利だから	1	2	3	4	5	6
	ハ. 都市部に近いから	1	2	3	4	5	6
	ヒ. 自然が豊かなところに住みたかったから	1	2	3	4	5	6
	フ. 農業がしたかったから	1	2	3	4	5	6
生活環境	ヘ. 自然災害が少ないから	1	2	3	4	5	6
	ホ. 家族と過ごす時間を充実させたかったから	1	2	3	4	5	6
	マ. 移住・定住に関する補助金等があったから	1	2	3	4	5	6
	ミ. 移住相談窓口の対応が良かったから	1	2	3	4	5	6
	ム. その他の理由（ ）	1	2	3	4	5	6
	メ. その他の理由（ ）	1	2	3	4	5	6
	モ. その他の理由（ ）	1	2	3	4	5	6
居住地を決めた1番の理由を、上記のA～Mの中から一つお選びください。							

問3. 全員の方にお聞きします。現在の生活の満足度について教えてください。

【それぞれの項目の満足度について、あてはまる数字一つに○】

分野	項目	満足している	やや満足している	どちらでもない	やや不満足	不満足	わからない	当てはまらない	
仕事	現在の仕事の内容	1	2	3	4	5	6	7	
	給与・所得	1	2	3	4	5	6	7	
	職場の近さ	1	2	3	4	5	6	7	
	起業や創業ができる環境	1	2	3	4	5	6	7	
	研修やキャリア教育	1	2	3	4	5	6	7	
	求人情報の充実	1	2	3	4	5	6	7	
	買い物の利便性	1	2	3	4	5	6	7	
	物価の安さ	1	2	3	4	5	6	7	
	医療機関の充実度	1	2	3	4	5	6	7	
	医療機関へのアクセス	1	2	3	4	5	6	7	
生活環境	公共交通機関の利便性	1	2	3	4	5	6	7	
	自然の豊かさ	1	2	3	4	5	6	7	
	自然災害の頻度	1	2	3	4	5	6	7	
	鳥獣被害の程度	1	2	3	4	5	6	7	
	インターネットや携帯電話等の通信環境	1	2	3	4	5	6	7	
	家族と過ごす時間の充実	1	2	3	4	5	6	7	
	治安の良さ	1	2	3	4	5	6	7	
	子ども会活動	1	2	3	4	5	6	7	
	PTA活動	1	2	3	4	5	6	7	
	自治会等、地域活動	1	2	3	4	5	6	7	
地域コミュニティ	祭りや神楽など、伝統文化活動	1	2	3	4	5	6	7	
	近隣住民とのつきあひ	1	2	3	4	5	6	7	
	同世代のつきあひ	1	2	3	4	5	6	7	
	若者世代が意見を言いやすい環境	1	2	3	4	5	6	7	
	年長世代とのつきあひ	1	2	3	4	5	6	7	
	地域外住民等との交流活動	1	2	3	4	5	6	7	
	地域内で相談できる環境	1	2	3	4	5	6	7	
			1	2	3	4	5	6	7
			1	2	3	4	5	6	7
			1	2	3	4	5	6	7



問4. 全員の方にお聞きします。あなたは、現在お住まいの町村に住み続けたいですか。

【あてはまるもの一つに○】

- 1. 今後もこの町村で住み続けたい
- 2. しばらくは住むつもりだが、いずれは転出したい
- 3. すぐにも転出したい
- 4. どちらともいえない
- 5. わからない

現在お住まいの町村に暮らし続けたい方（他市町村に住んだことがない方）は、ここで質問は終了です。

10 ページの下部に、自由記述欄がありますので、ご意見等ございましたらご記入をお願いいたします。

問6. 小学生～高校生までの田舎や農山漁村、当時住んでいた地域との関わりについてお聞きします。

*小・中・高校生、それぞれの期間でお答えください。
*高校に進学されていない方は、小・中学生の期間のみご記入ください。

- (1) ①あなただけ住んでいた場所は、選択肢1～4のどれにあてはまりますか。
*各期間で移動があった場合は、最も長く居住した場所をお答えください。

記入例

各期間であてはまるもの一つに○をつけてください

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間
1. 現在お住まいの居住地			○
2. 都市部 (首都圏・関西圏・中京圏)	○		
3. 現在お住まいの居住地と同程度、もしくはそれ以上の田舎		○	
4. 現在お住まいの居住地よりは都会			

ここから回答してください

各期間であてはまるもの一つに○をつけてください

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間
1. 現在お住まいの居住地			
2. 都市部 (首都圏・関西圏・中京圏)			
3. 現在お住まいの居住地と同程度、もしくはそれ以上の田舎			
4. 現在お住まいの居住地よりは都会			

②上記の設問で「2. 都市部 (首都圏・関西圏・中京圏)」、 「4. 現在お住まいの居住地よりは都会」と回答した方に伺います。田舎や農山漁村とどのような接点がありましたか。

各期間であてはまるものすべてに○をつけてください

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間
1. 家族や親戚が住んでおり、帰省などで訪れたことがあった			
2. 知人や友人が住んでおり、訪れたことがあった			
3. 観光や旅行で訪れたことがあった			
4. 通学や修学旅行で訪れたことがあった			
5. 関わりは特になかった			
6. その他 ()			

上記1～6のうち、最も頻度が多かった項目は何ですか。【番号を記入】

- (2) Uターン者の方にお聞きします。
進学や就職等を機に出身地を離れた際の出身地との関わりについて教えてください。

各期間であてはまるものすべてに○をつけてください

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間	大学生・専門学校等の期間	社会人の期間
1. 家族や親戚が住んでおり、帰省などで訪れていた					
2. 地域の行事に参加していた					
3. 祭りや神楽などの伝統行事に参加していた					
4. 同世代の地域の方と連絡を取ったり、会ったりしていた					
5. 世代が異なる地域の方と連絡を取ったり、会ったりしていた					
6. SNSやHPなどで情報を得ていた					
7. その他 ()					

上記1～7のうち、最も頻度が多かった項目は何ですか。【番号を記入】

- (3) Iターン者の方にお聞きします。
①田舎や農山漁村への訪れ理由を教えてください。【各期間であてはまるものすべてに○】

各期間であてはまるものすべてに○をつけてください

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間	大学生・専門学校等の期間	社会人の期間
1. 家族や親戚が住んでおり、帰省などで訪れていた					
2. 知人や友人が住んでおり、訪れていた					
3. 観光や旅行で訪れていた					
4. 大学の授業や部活動・サークル等で訪れていた					
5. ボランティアや地域の行事・イベントに参加していた					
6. 関わりは特になかった					
7. その他 ()					

上記1～7のうち、最も頻度が多かった項目は何ですか。【番号を記入】

- ②現在お住まいの町村との関わり方はどうでしたか。【各期間であてはまるものすべてに○】

各期間であてはまるものすべてに○をつけてください

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間	大学生・専門学校等の期間	社会人の期間
1. 観光や旅行で訪れた					
2. 友人や知人が住んでおり、訪れていた					
3. 大学の授業や部活動・サークル等で訪れていた					
4. ボランティアや地域の行事・イベントに参加していた					
5. 配属者のふるさとで訪れた					
6. 移住を決めてから何度か訪れた					
7. 居住するまでほとんど訪れたことが無かった					
8. その他 ()					

その他、若者が住み続けられるために必要なことについてご意見などがございましたら、ご記入ください。

ご協力いただき誠にありがとうございました。

ここからは、現在お住まいの町村に引越してきた方 (Uターン者) のみご回答ください。
今後の次世代教育や若者定住の参考にさせていただきますので、ご協力をお願いします。
また、諸事情から全ての質問への回答が難しい方につきましては、可能な箇所をご回答頂ければ幸いです。

Uターン者：現在お住まいの町村が出身地で、進学・就職等をきっかけに外に出た後、戻ってこられた方
Iターン者：現在お住まいの町村が出身地ではない方

問5. 現在お住まいの町村に引越してきた際に活用した情報や支援制度についてお聞きします。

- (1) 現在の居住地を決める際にどのような情報を活用されましたか。
①あてはまるものすべてに○をつけてください

1. 勤め先等からの情報	8. 行政機関等のチラシやパンフレット
2. 家族・親戚の紹介	9. 行政機関等の体験ツアー・セミナーを通じて
3. 友人・知人からの情報	10. 相談員・コーディネーターからの情報
4. 地域の方からの情報	11. その他、民間の組織・機関による情報提供や相談・助言
5. 行政機関等のホームページ情報	12. その他 ()
6. その他ホームページ情報	13. 特になし
7. 雑誌の情報	

- ②上記の中で、特に有効だった情報はどれですか。 ----->
番号を一つだけ記入してください。 ----->
特に有効だった情報

- (2) 現在の居住地を決める際にどのような支援制度を活用されましたか。
①あてはまるものすべてに○をつけてください

1. 移住相談窓口への相談	8. 体験ツアー・プログラムへの参加
2. 移住相談会 (Uターンフェアを含む)	9. 産業界様
3. 仕事の斡旋・紹介	10. 転入前の訪問時の旅費助成
4. 起業・創業支援助成	11. お試し体験住宅の利用
5. 新就業に関する支援	12. 転入補助金
6. 住まいの斡旋・紹介	13. その他 ()
7. 住まいに関する助成金	14. 特になし

- ②上記の中で、特に有効だった支援制度はどれですか。 ----->
番号を一つだけ記入してください。 ----->
特に有効だった支援制度

- (3) 居住地を決める際、引越す際に市町村などの相談員や、移住支援をするコーディネーターなどと連絡を取った手段を教えてください。【あてはまるものすべてに○】

1. 直接会って相談した	5. 手紙など紙媒体を使った
2. 電話で話した	6. その他 ()
3. メールでやりとりした	7. 連絡をとっていない
4. SNSを使った	

- (2) 田舎や農山漁村で暮らすことに対してどのような思いを抱いていますか。

各期間であてはまるもの一つに○をつけてください

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間
1. 田舎や農山漁村に興味が無かった、(地元なので) 特に何も感じていなかった			
2. 田舎や農山漁村には住みたくないと思っていた、早く都会に出たいと思っていた			
3. 若いうちは都会で暮らし、その後、田舎や農山漁村に住みたいと思っていた			
4. 田舎や農山漁村に住んでみたいと思っていた、田舎や農山漁村に住み続けたいと思っていた			
5. その他 ()			

- (3) 当時住んでいた地域で、家族以外の大人とどのような関わりがありましたか。【各期間であてはまるものすべてに○】

各期間であてはまるもの一つに○をつけてください

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間
1. ふるさと教育など学校の授業や行事			
2. 登下校中の挨拶等			
3. 自治会・町内会・子供会活動などの行事			
4. スポーツ少年団 (少年野球など) での指導			
5. 祭りや神楽などの伝統行事での関わり			
6. 一緒に遊んでもらったり、勉強を教えてもらったりした			
7. 親身になって相談のつてもらった			
8. 特に関わりは無かった			
9. その他 ()			

上記の1～9のうち、地域の大人と最も関わりが深かった項目【番号を記入】

問7. 高校卒業以降の田舎や農山漁村、当時住んでいた地域との関わりについてお聞きします。

- (1) 田舎や農山漁村で暮らすことに対してどのような思いを抱いていますか。

各期間であてはまるもの一つに○をつけてください

「社会人の期間」は、現在お住まいの町村に引越す直前の状況をお答えください。
大学や専門学校等に進学、または就職されていない方は、該当する箇所のみご記入ください。

	小学生の期間	中学生の期間	高校生の期間	大学生・専門学校等の期間	社会人の期間
1. 田舎や農山漁村に興味が無かった、(地元なので) 特に何も感じていなかった					
2. 田舎や農山漁村には住みたくないと思っていた、早く都会に出たいと思っていた					
3. 若いうちは都会で暮らし、その後、田舎や農山漁村に住みたいと思っていた					
4. 田舎や農山漁村に住んでみたいと思っていた、田舎や農山漁村に住み続けたいと思っていた					
5. その他 ()					

本誌へのご意見・ご感想等がございましたら、下記までお寄せください。

島根県中山間地域研究センター地域研究科

〒：690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島 1207

TEL：0854-76-3830 Fax：0854-76-3758

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp

島根県地域振興部しまね暮らし推進課

〒：690-8501 島根県松江市殿町 1 番地

TEL：0852-22-5065 Fax：0852-22-5761

E-mail：shimanegurashi@pref.shimane.lg.jp

鳥取県地域づくり推進部中山間・地域交通局

中山間地域政策課

〒：680-8570 鳥取県鳥取市東町 1 丁目 220

TEL：0857-26-7961 Fax：0857-26-8107

E-mail：chusan-chiikiseisaku@pref.tottori.lg.jp

令和元年度 山陰両県共同研究成果報告書

発行：令和2年3月 編集・発行：島根県中山間地域研究センター